Euskal Herriko Kondairak

バスクの伝説

バルツォラの蛇

ラミアと賭けの好きな男

吉田浩美 訳注

東京 大学書林 発行

はしがき

この本は，バスク語を学び始めた方々がある程度まとまった物語を一人で読むことができるよう，テキストに詳しい注をつけた訳注書です。テキストとしては，ヨセバ・ゲレニョ（Joseba Gereño）の編んだ『バスク国の民話と伝説』（“Euskalerriko Ipuin eta Kondairak”）をもとに筆者の恩師アントン・イディアケス（Antton Idiakez）氏が共通バスク語（Euskara batua）に書き直したものの中から，2編を選びました。さらに，筆者自身の手により，使用範囲の狭いいわゆる親称の2人称が使われている会話体の部分を，使用範囲の広いいわゆる敬称の2人称に直してあります。

注を付けるにあたっては，単語や接辞，とりわけ動詞の活用形に対する説明は，とくに第1話では初出時に限らず，出てくる都度ほとんど毎回付けました。第2話ではその頻度を減らしてあるので，わからない語や接辞にぶつかったときのために，巻末に語彙集を付けました。

あらゆる点で未熟な本ですが，バスク語に興味を持ち始めた方方の一助になれば幸いです。

本書を作るにあたり，テキスト選びに始まり様々な質問に答えるに至るまで，惜しみなく協力してくださったイディアケス先生，それに本書を世に出す機会を与えてくださった大学書林の佐藤政人氏に心より感謝申し上げます。

平成6年4月

吉田浩美

目　次

バスクの伝説について

バスク地方には，mito と呼ばれる伝説が数多く伝わっています。mito は「神話・伝説」と訳されますが，本書で取り上げた2つのお話も，mitología vasca「バスクの神話・伝説」の一部として様々な本で取り上げられているものです。バスクの神話・伝説については，スペイン・バスクのギプスコア（Gipuzkoa）県アタウン（Ataun）出身の民俗学者，ホセ＝ミゲル・デ・バランディアラン（José Miguel de Barandiarán，バスク語では Barandiaran'dar Joxemiel, 1899～1991）がバスク地方を渉猟して膨大な資料を収集し輝かしい業績をおさめています。

バスクの神話・伝説には様々なキャラクターが登場しますが，その中から，本書のテキストに登場する蛇の精，ラミア，名前が出てくるヘンティル，ソルギン，バシャハウン，それに本書のテキストでは言及されていないけれども，すべての超人間的存在の頂点に立つとされるマリについて，上記のバランディアランの著作（参考文献の項参照）の中から簡単に紹介したいと思います。

なお，以下に出てくる略号 B はビスカイア（Bizkaia），G はギプスコア（Gipuzkoa），A はアラバ（Araba），N はナファロア（Nafarroa），L はラプルディ（Lapurdi），BN は低ナファロア（Nafarroa Beherea），Z はスベロア（Zuberoa）を表します。これらは伝統的，民族的な単位としての地方の名で，始めの4つはスペイン側に，あとの3つはフランス側に属します。各地方名をスペイン語またはフランス語で言うと，それぞれ Guipúzcoa, Vizcaya, Álaba, Navarra, Labourd, Basse Navarre, Soule となります。

〈マリ—Mari—〉

マリは，バスク地方および異国のあらゆる神々の職能を独占するに至ったとされ，すべての神性，魔性，精霊，妖精などの頂点に立つ。マリは優美に着飾った女性で，4頭立ての馬車で天翔ける。太陽と月の母である大地に住み，山の中に宮殿を持っているとも言われる。地下に住む超人間的存在はみなマリの支配下にある。マリが家の前で髪をすいていたり，糸つむぎをしていたり，機を織っていたりする姿が見られたとも言う。また，マリは嵐をもたらし，ときには雹を降らせたりして人間に被害を与える。その一方で，彼女の名を3回呼ぶと姿を現し，呼んだ人を歓待するとも言われる。また，問題が生じたときはマリに相談すると，予言，建設的な助言をしてくれるとも言う。このように，バスクの神話・伝説の他のキャラクター同様，マリもまた，人間にとってありがたいものとして現れることもあれば，恐ろしいものとして現れることもある。

マリの呼び名は地域によって異なる。例を挙げると，

チンドキ (Txindoki, G) 山周辺のチンドキコ・マリ (Txindokiko Mari「チンドキのマリ」, -ko は位置属格語尾)。

アタウンのマリムンドゥコ (Marimunduko「ムンドゥのマリ」, -ko は上に同じ)。

オイアルツン (Oiartzun, G) のアンドゥレ・マリ・ムノコ (Andre Mari Munoko「ムノのマリ様」, andre は既婚女性への敬称, -ko は上に同じ)。

セガマ (Zegama, G) のアケテギコ・ダマ (Aketegiko Dama「アケテギのご婦人」, -ko は上に同じ, dama は「婦人」)。

サンタ・グラシ (Santa Grazi, Z) のビデコ・エマステ・シュリア (Bideko emazte xuria「路上の白い婦人」, bide は「道」, -ko は上に同じ, emazte は「婦人」, xuri は＜zuri「白い」, -a

は定形単数絶対格語尾)。

オニャティ (Oñati, G) のガイスト (Gaizto「邪悪なもの」) など。

〈蛇の精 —Sugaar, Sugoi—〉

本書の第1話に登場する魔性は蛇の精だが，これはシュガアル (Sugaar), シュゴイ (Sugoi) の名で知られている。シュガアルとは雄の蛇，シュゴイとは大蛇のことである。シュガアルは，前述のバランディアランの出身地アタウンでは，鎌または半月形の火の姿を借りて通り過ぎて行くもので，嵐の予兆だと言われている。蛇の精は地下に住み，本書第1話のバルツォラの蛇のように，地上へは洞穴を通じて姿を現す。アタウンのアガムンダ (Agamunda) の淵に住むシュガアルは，親に反抗的な者を罰すると言われている。アスコイティア (Azkoitia, G) 方面では，シュゴイは，あるときは蛇，あるときは人間の姿を呈すると言われている。

〈ヘンティル —Jentil—〉

本書の第1話に，“Jentil Zubi” という名の橋が出てくるが，ヘンティルとはもともと「異教徒」のことである。神話・伝説には，クリスト教徒と隔絶して山や人里離れた家，洞穴に住む，並外れた力を持つ野人として現れる。たいてい巨人であり，ヘンティルがあらゆる所に大岩を放った結果，今バスク地方で知られている数々の岩山となったとされる。また，ヘンティルは最初の農耕者，最初の鍛冶屋，最初の粉ひき職人だったとも言われる。

人間（クリスト教徒）と平和裡に共存していたヘンティルは，オンダロア (Ondarroa, B), マルキニャ (Markina, 同), エルゲタ (Elgeta, G), オニャティ，ウルディアイン (Urdiain, N), オイアルツンで，クリスト教会の建設に協力した。その怪力のお陰で仕事はたいへんな速さではかどったと言う。アラノ (Arano, N) ではクロムレックを，アタウンの山，およびアラル (Aralar) 山系

ではドルメンを建造したが，それらはヘンティルに因み，それぞれヘンティルバラツ（Jentilbaratz, baratz は「畑」），ヘンティレチェ（Jentiletxe, etxe は「家」），ヘンティラリ（Jentilarri, arri は ＜harri「石」）と呼ばれている。

しかし一方では，魔性のもの，得体の知れぬ恐ろしいものともみなされていた。例えばアタウンには次のような話が伝わる。アタウンのシャアスタリ（Saastarri）山中のある洞穴の中には澄んだ水をたたえた池があった。周辺の羊飼いや炭焼き職人はそこへ飲み水を汲みに行くならいだった。ある日，年若い炭焼きがその洞穴へ水を汲みに行ったところ，どうしたことか，すっかり怯えて，水も汲まずに小屋へ戻って来た。そこで，今度は炭焼きの親方が行った。しかし彼もまた真っ青になって手ぶらで戻って来た。親方が言うには，洞穴の入口のところで，素晴らしい体つきの若い美女が髪をとかしていた。ああいう場所であああいう光景を見るなど，ろくな前兆ではなかろうと感じ，水汲みもそこそこに逃げて来たのだそうだ。その美女はその洞穴に住むヘンティル一族の者だとのことだが，彼女こそ実はマリムンドゥコ（マリの項参照）だと言う者もあった。また，人間を食らう一つ目の怪人タルタロ（Tartalo, トルト Torto とも言う）もヘンティルとみなされることがある。

そうかと思うと，ときどき人里に下りて来ては人間と接触し，しかも人間に一杯食わされるヘンティルもあったようだ。人間にしてやられたヘンティルの話として，次のようなものがある。ある山にたいへんな力自慢のヘンティルが住んでいたが，もはやヘンティルたちの間には彼と力競べができる者は一人もいないとわかると，さらなる挑戦者を求めてラスカオ（Lazkao, G）の里へ下りて行った。まずひとりの少年と出会い，力競べを申し込んだが，「ぼくはまだ小さすぎる」と断られてしまった。次に老人を

見つけたが，「わしはもう年をとりすぎている」と，またしても断られた。しかし，隣村ベアシャイン（Beasain, G）の鍛冶場へ行けばだれかしら相手が見つかるだろうと聞きつけて，そこへ向かうことにした。さてくだんの鍛冶場で，ヘンティルが職人を一人つかまえて「おれの腕をねじ曲げてみろ」と言うと，鍛冶職人は，「待ってろ，指２本でやっつけてやるから」と言って奥から真赤に焼けた火ばさみを持ってきて，それでヘンティルの鼻をもぎ取ってしまった。ヘンティルはほうほうの体で山へ逃げ帰り，仲間のヘンティルたちに「人間とは恐ろしいものだ，二度と再び近づくまい」と語ったということだ。

〈ラミニャ，ラミア〉

本書の第２話に出てくる精霊（妖精，魔女とも言われる）ラミアは，神話・伝説に現れるキャラクターの中でもとくにポピュラーなものである。バスク語の保存されている地域ならほぼ全域にラミア伝説が残っているという。特に，ビスカイア，ギプスコア南部，ナファロア，低ナファロア，ラプルディおよびスベロアの山間部に集中している。名称は地域により異なるが，lamia, lamina がもっとも広く見られる。珍しいところではアグライン（Agurain, A）のアミラミア（amilamia），アエスコア（Aezkoa, N）のエイララミア（eilalamia），メンディベ（Mendibe, BN）のシャインディーマインディ（saindi-maindi）などがある。

伝承によると，ラミアは人間の姿をしているが，その足は，鶏，あひる，または山羊のそれであると言う。どんな足かは，地域により言い伝えが異なる。海岸地方では，その下半身は魚のようであると信じられている。因みに，この本でとりあげたラミア伝説にも「ラミアは人魚のようなものであった」との記述があるが，この話の舞台ビスカイア県レケイティオ（Lekeitio）も，ビスケー

湾に面する漁師町である。またほとんどの地域で女性として現れるが，フランス・バスクでは男性であることもある。スベロアでは女性の場合はラミア，男性の場合はマイデ(maide)と呼ばれる。

ラミアと人間の女性との違いは肌の色で，ラミアのそれは銅の色だという。ビスカイアではラミアは額に目が一つだけあると言われている。また，うなじのところにだけ5ペセタ硬貨の形に髪の毛がある，とも言われる。

ラミアはいろいろな作業・労働に従事する。その種類は地域によりいろいろだが，糸巻き棒と紡錘による機織り，ドルメン，橋，家屋，教会等の建設，夜間の洗濯などが知られている。

ラミアについては実に多くのエピソードが語られているだけあって，その性格も多岐に渡る。本書の第2話に出てくるラミアは，大の男がシルエットを見ただけでもう怯えてしまうような存在であり，また実際人間を食べようというのだから相当恐ろしいものに違いないが，他の言い伝えではときには神性を帯びたものとみなされ，人間からお供えをもらったりしている。供え物としては，小麦のパン，とうもろこしのパン，ロールパン，豚の脂身の塩漬け，林檎酒などがある。そういったものを，夜，台所に置いておくと，ラミアが来て飲み食いをすると言われる。また地域によっては，羊飼いたちがラミアの住みかと思しき洞穴へどんぶりに入れたミルクと凝乳(カード)を持って行くという。農民も農地のはずれに食べ物を置いておく。すると夜，ラミアがやって来て飲み食いし，そのお返しに何がしかの農作業をするという。しかしお供えを忘れると，ラミアは怒ってその農家には二度と来なくなる。

また，ラミアはときどき人間に様々な協力を要請する。よく知られているのは，近くに住む人間の女性に産婆の役を頼む話である。産婆はラミアたちの住みかへ連れて行かれ，ラミアの出産を助ける。ラミアたちはお礼に食事に招待する。産婆はラミアたち

のパンが白く美味であるのを知り，自分の家族にも食べさせてやろうと，パンのかけらを鞄にしまいこむ。一方ラミアたちは，お礼として，金の糸巻き棒と紡錘を産婆に与える。ただし，家に帰り着くまで決して後ろを振り返らないという条件付きで。ところが，いとまを告げる段になって産婆が帰ろうとすると，腰が椅子から離れない。するとラミアたちは「自分のものでない何かを盗んだからだ」と言った。そこで産婆はパンを一かけ盗ったことを告白し，そのかけらをテーブルの上に置いた。そのとたん腰が椅子からすっと離れ，産婆は無事家へ帰ることができた。しかし玄関のところで，片足が家の内側，もう片方がまだ家の外側にある段階で後ろを振り返ってしまった。その瞬間，金の贈り物の半分がなくなってしまった。この贈り物は，他の言い伝えでは金のけばだて機であったり，首飾りであったり，金に変わる灰や石炭であったり，銀に変わる脂であったりする。

この「金」は，本書の蛇の話にも出てくるように，バスクの神話・伝説に頻繁に現れるモチーフである。ラミアの持ち物として有名なのも金の櫛である。この櫛はときどき人間の女性に盗まれる(男性が盗むことは滅多にないようだ)。するとラミアはこの櫛を取り返すべく盗人の家へ近づいて，次のように脅迫する(アタウンでのケース)。

ガラシさん，私の櫛を返してよ
さもないと
あんたの一族を絶やしてやるよ

産婆を食事に招いたように，ラミアは彼女らを訪ねて行く者を歓待するという。本書の第1話に出て来るバルツォラの洞穴に住むラミアは，雨宿りのためバルツォラの洞穴に飛び込まざるをえなかったインドゥシ(Indusi, B)の若者に，一かけの炭を与えた。

若者が洞穴から出ると，その炭は純金に変わったという。しかしいつも無償の行為ばかりをしているわけではなく，例えばビダライ (Bidarrai, BN)，アロサ (Arrosa, 同)，アンドアイン (Andoain, G) などでは，人間の魂と引き換えに，橋，教会，家，城，ドルメンの建設を請け負ったと言われる。

ラミアはもう一つの興味深い側面を持っている。それは人間の男を魅了する魅惑的な女性という面である。美しいラミアは一度ならず人間の男の心をとらえている。アラシャテ (Arrasate, G) のコリオネ (Korrione) 館の若者はコバウンディ (Kobaundi < koba「洞穴」+haundi「大きな」) 洞窟の入り口のところで一人のラミアを見かけ，恋に落ちた。二人は結婚することになった。ただし，若者がラミアの年齢を当てるというのが条件だった。そこで若者の隣人のある女性がコバウンディへ行き，洞穴の入り口に背を向けて立ち，そのまま前屈みに身体を倒し，脚と脚の間に頭を挟んで洞穴の中を見た。すると女のおかしな姿勢を見たラミアが洞穴から飛び出して来て，「105年も生きてきたけど，こんなのは初めて見た！」と叫んだ。こうして，コリオネの若者はラミアの歳を知ることができた。しかし，自分の恋した女があひるの足をしているのを見て，彼女が人間でないことに気づき，もはや結婚できないことを悟った若者は，悲しみに打ちひしがれて病に倒れ，そのまま死んでしまった。ラミアはコリオネ館へ行き，くるみの外皮で作ったシーツで若者の遺骸を覆い，教会に着くまで葬列に参列したという。

魔性のものとしてのラミアはしばしば人間を拉致する。オロスコ (Orozko, B) のウシ (Usi) という名の農家の娘はレシアガ (Leziaga) 洞窟でラミアたちに遭遇した。ラミアたちは，もう二度と再びその場所へ来ないと娘に約束させ，まとまった量の黄金を与えた。しかし娘は約束を違え，後に再びくだんの洞窟を訪れ

た。そして洞窟に入ったまま戻らなかった。家族が娘を探して洞窟まで来たとき，中から「将来ウシの家には金の絶えることがないだろう。しかし同時に狂女の絶えることもないだろう」と言う声が聞こえたという。本書の第1話に出てくる村ディマ (Dima, B) のアツェミン (Atzemin) という名の農家の男は，ベルナオラ (Bernaola) の淵の近くで炭焼きを営んでいたが，ある夜，労働があまりに辛いので，つい声に出して悪態をついてしまった。その瞬間，何者かの力に引かれ，傍らに積んであった炭の山の回りを3度回らせられたあげく，消えてしまった。男は，8日間の捜索のすえベルナオラの淵の中で発見された。助け出された男は，ラミアに捕えられていたこと，その間ヘーゼルナッツでラミアに養われたことを語った。またマニャリア (Mañaria, B) では，ある若い機織り女が，ある夜山の中の聖ロレンソのお堂の近くの洞窟のそばを通った。するとラミアたちが現れ，もう二度とその場所へ来ないようにと娘に言った。しかし娘はその忠告に従わず，2度までもそこへ舞い戻った。三夜めに，娘はラミアたちにさらわれた。娘の消息は杳として知れず，ただ娘の持っていた数珠の玉がそこここにばらばらに散らばっているのが見つかった。

ではラミアに拉致されないためにはどうすればいいのか。セアヌリ (Zeanuri, B) のアルツスタ (Altzusta) 地区では，ラミアが住んでいると言われるメミニョ (Memiño) 谷の近くを通る際には，鼻を隠して「私たちは金曜日に鱈を食べた」と呼ばわる習慣があったという。また，本書の第1話にも出てくるが，お守り (kuttun)，特にヘンルーダとセロリを含むお守りが有効である。また本書第2話では，男がラミアに捕まりかかったわけだが，一番鶏の鳴き声に救われた。

ところで本書の第2話に登場するラミアは，人間を食らおうとする魔性のものであると同時に，人間にあっさり騙されてしまう

間抜けな面をも持っている。メンダロ (Mendaro, G) では，ラミアが人間に捕まり，拉致されてしまった。人間の家に連れて行かれたが，一言も口をきかなかった。誘拐者たちは鍋にミルクを満たして火にかけたが，ミルクが沸いて吹きこぼれそうになったとき，ラミアは「白いものは上へ! (Txuria gooooora !)」と叫んで，煙突をつたって逃げたと言う。またイストゥリツェ (Isturitze, BN) のガステルメンディ (Gaztelumendi, gaztelu は「城」, mendi は「山」) という丘の上の塔に住むラミアは，麓のオチョセライ (Otsozelai, otso は「狼」, zelai は「平地」) という農家へ夜ごとやって来ては，おかみさんに食べ物をねだっていた。ラミアがおかみさんに名前を尋ねると，おかみさんは「ニ・ニ・ネウ (Ni-ni-neu,「私，私，この私」の意) って名だよ」と答えた。ある夜，ラミアの無心があまり毎晩続くので，おかみさんは頭に来てフライパンに熱してあった油をラミアに浴びせかけた。火傷を負ったラミアは泣き叫びながら逃げ去った。塔に戻り，仲間たちがだれがこんな酷いことをしたのかと尋ねるので，「ニ・ニ・ネウがやったのよ」と答えると，仲間たちは「なーんだ，自業自得か。じゃ，我慢するんだね」と答えたということだ。このようにラミアは，あるときは神性，あるときは魔性を前面に出しながら，人間に他愛なく負けてしまう「人間的」な側面をも持っている。

さて，バスク地方で信じられ伝えられているところによると，ラミアの時代はまだ終わっていない。その一方でラミアたちは消滅してしまったと言い切る語り伝えもある。どのように消滅するかと言うと，地域によるが，お堂とか祈禱とか，教会の鐘の音とか，呪いとかによって消えてしまうと言われる。サラ (Sara, L) では，村内に散在するお堂はラミアがいなくなるのを願ってのものだと言う。ラウディオ (Laudio, A) では，住民がこぞって祈願した結果ラミアがいなくなったと言う。アラシャテでは，アラ

ンツァス (Arantzazu) の聖母マリアにより追放されたと言う。ディマでは，聖フランシスコのお堂のおかげでバルツォラの洞穴からラミアが追放されたと言う。ビダライのエブライン (Ebrain) 橋を建設したラミアは，ある僧によって何年間かの追放を宣告された。オロスコでは，教会とお堂で組織的に祈願した結果，ラミアは地中に埋められたと言う。また，ラミアは福音によってすでに地下に埋められてしまったのでもはや存在しないとも言う。

このように広く親しまれているラミアであるから，ラミアに因んだ地名はほぼバスク地方全域に見られる。主なものを挙げると，

オニャティのラミアテギ (Lamiategi, -tegi は「場所」)。

ベラ (Bera, N) のラミオシン (Lamiosin, osin は「淵」), ラミアコ (Lamiako, -ko は位置属格語尾), ラミオシンゴエレカ (Lamiosingoerreka, -go は -ko に同じ, erreka は「小川」)。

アタウンのラミノシン (Laminosin)。

イストゥリツェのラミンシロ (Laminzilo) またはラミネシロ (Lamine-zilo, zilo は「穴」)。

スガラムルディ (Zugarramurdi, N) のラミエンレセ (Lamien-leze, -en は定形複数所有属格語尾, leze は「洞穴」)。

アリスクン (Arizkun, N), ビリアトゥ (Biriatu, L) のラミアリ (Lamiarri, arri は ＜harri「石」)。

アリスクン，オンダリビア (Hondarribia, G) のラミアリエタ (Lamiarrieta, arrieta は「石のあるところ」)。

ムンダカ (Mundaka, B), ウシャンソロ (Usansolo, 同) のラミアラン (Lamiaran, aran は ＜haran「谷」)。

こういった地名からもうかがえるように，ラミアはだいたい洞穴，小川や泉，淵など水のあるところに住んでいると考えられて来た。すでに述べたようにこの本の第1話に出て来るバルツォラの洞穴にもラミア伝説が残っている。

〈ソルギン—Sorgin—魔女，魔法使い—〉

ソルギンとは何か，という問いに対する答えはいろいろあるようだがその主なものは，ソルギンは普通でないことをやってのける精霊であるとするもの，また魔性を帯びた人間であるとするものである。またソルギンはマリに仕えると言う。

魔性を帯びた人間としてのソルギンは—まれに男であることもあるが，まずほとんど常に女である—邪悪なものであり，彼女らにかかわると，凶作，水車や鍛冶場での器具の故障，病気，子供や船乗りや漁師の変死などを招く。また，呪視（人に不幸をもたらす魔性の視線）や呪詛の飛び交う異様な夜の集会に参加し，雄山羊の姿をした悪魔が主催する儀式に立ち会う。集会はスガラムルディのアケラレ (Akelarre)，ディマのペトラランダ (Petralanda)，サラのフィコセライ (Fikozelai)，アスカイネ (Azkaine, L) のラルネ (Larrune) などでたいてい水曜か金曜の夜に開かれる。集会場としてはアケラレが最も有名で，集会そのものを指してアケラレと言うことがある。さてこの集会へ行くには，まずある種の軟膏を体に塗って空中に浮き，「全ての茨の上を，全ての雲の下を (Sasi guztien gainetik, hodei guztien azpitik)」と唱えることによって，物凄い勢いで宙を移動する。人間の姿に戻るには，一番鶏が鳴くのと同時に，あるいは教会の夜明けの鐘が鳴る前に，帰宅しなければならない。

では何がきっかけで人間はソルギンになってしまうのか。伝承によると，教会の回りを３周したり，きちんと洗礼を受けていなかったり，他のソルギンとつきあったり，その衣類や針入れ，針さしをもらったり，悪魔とキスしたりすると，ソルギンになってしまうとされる。ソルギンになった人間は，魔法により，様々な姿—とりわけ，足とか尻尾とか頭など身体の一部が欠けた動物の姿をとることができる。最も多いのは猫である。犬，雄羊，雄牛，

豚，蟻などのこともある。ただし聖なる動物とみなされているろばの姿をとることはほとんどない。セガマでは，ソルギンは木の回りを３度回るだけでどんな動物にも姿を変えられるという。

魔性のものであるソルギンの名は，ある地域では忌避であった。例えば本書の第２話で扱ったビスカイア県のレケイティオやギプスコア県の沿岸の町オンダリビアの漁師たちは，遠洋に出ている間は決してソルギンの名を口にしなかったという。

ソルギンから身を守るためには，イエズスの名を唱えるとよい。十字架，セロリ，ヘンルーダ，石炭などもお守りとして有効であるという。

ところで，ソルギンは本当に存在したと広く信じられている。エルドゥアイン (Elduain, G) では，機織り女たちがソルギンの存在に疑問をさしはさんだところ，「なにしろここに１万４千のソルギンがいるのだから」と言いながらソルギンが現れたという。イガンツィ (Igantzi, N) のアルガタ (Argata) 地区では，ソルギンの存在を信じていなかった娘が，夜，ソルギンが出没すると言われる泉へ水を汲みに行った際ソルギンたちにさらわれてしまい，二度と家に帰らなかった。そして次のように言う声が聞こえた。「夜のものは夜のもののために，アルガタの娘はわたしのために，そして桶はあなたのために」。このようにソルギンは実在すると信じられていたため，感じの悪い人や挙動不審な人たちがソルギンではないかとの疑いをかけられるに至った。バスク地方では 16, 17 世紀に，多くの人がソルギンであるとして告発され，情け容赦なく迫害されるという魔女狩りの嵐が吹き荒れた。

なお，ソルギンの名も，ラミア同様，おびただしい地名に現れる。その主なものは，

ゴルダラス (Goldaraz, N)，アタウンのソルギニトゥリ (Sorginiturri, iturri は「泉」)。

ムトゥリク (Mutriku, G) のソルギネレカ (Sorginerreka, erreka は「小川」)。

アンボト (Anboto, B) 山のソルギンコバ (Sorginkoba, koba は「洞穴」)。

セガマ，アタウンのソルギンスロ (Sorginzulo, zulo は「穴，淵」)。

エルナニ (Hernani, G) のソルギンチュロ (Sorgintxulo, txulo は「小さい穴，小さい淵」)。

イシュパステル (Ispazter, B) のソルギンガスタニェタ (Sorgingaztaineta, gaztaineta は「栗林」)。

スガラムルディのソルギネンレセ (Sorginenleze, -en は定形複数所有属格語尾，leze は「洞穴」)。

ソルギネチェ (Sorginetxe, etxe「家」) は，アグライン周辺のドルメンの呼称。

〈バシャハウン—Basajaun, Baxajaun—森の主〉

バシャハウンはたいてい森の奥深くに，あるいは高いところにある洞穴の中に住むと言われる。人間のような体つきで背が高く，全身毛で覆われている。髪の毛は長く，顔，胸，腹部を隠して膝まで垂れ下がっている。片方の足は人間のそれのようだが，もう一方の足は丸く平べったい板のようである。

バシャハウンは家畜の群れの守護者とみなされている。嵐が近づくと，山中に叫び声を響かせ，羊飼いたちに早く羊を連れて引き揚げるよう知らせる。また，バシャハウンが家畜の囲いの中やその近くに姿を現すと，狼が近づけなくなる。羊たちは，バシャハウンの到来と同時に一斉に首の鈴を鳴らして羊飼いに知らせる。すると羊飼いは，その夜は羊たちは安全である，と請け合ってもらったことになり，安心して眠りにつくことができる。

バシャハウンはこのように人間の役に立つ半面，怪力を持つ恐ろしいもの，邪悪なものとして現れることもある。またあるときは，最初の農耕者として現れる。人間は策を弄して農耕者としてのバシャハウンから小麦の種を手に入れ，その栽培法をも学んだ。また最初の鍛冶屋，最初の粉ひき職人としてのバシャハウンからは，鋸と水車の軸の作り方，それに金属片の繋ぎ方の秘訣を盗んだ。こうした秘密を盗み出したのは，シャマルティンチキ (Samartintxiki, Samartin は＜San Martin「聖マルティン」，txiki は「小さい」)，つまり聖マルティンである。伝説には聖マルティニコ (San Martiniko)，シャマルティンチキの名でよく登場する，文明化促進の英雄である。では彼はどのようにしてバシャハウンの技術を盗んだのか。

バシャハウンはアタウンのムスキア (Muskia) で小麦を作っていた。シャマルティンチキは，ある日，ばかでかい靴を履いて，洞穴にバシャハウンたちを訪ねた。洞穴の中には小麦が山積みになっていた。シャマルティンチキはだれがその小麦の山をもっとも上手に跳び越えることができるか，賭けをしようと提案した。バシャハウンたちは楽々と小麦の山を跳び越えた。しかしシャマルティンチキは小麦の中に着地したので，彼のばかでかい靴は小麦で一杯になった。彼はバシャハウンたちにいとまを告げ，谷の方へ向かった。バシャハウンたちはシャマルティンチキがまんまと小麦を持ち出したことに気づき，シャマルティンチキめがけて斧を投げつけた。斧は洞穴から1キロ離れたサン・グレゴリオ (San Gregorio) 地区のメコアルデ (Mekoalde) の栗の木に突き刺さったが，シャマルティンチキはすでにさらに遠くまで逃げおおせていたので助かった。こうして人間は小麦を手に入れたが，さていつ種蒔きをすればいいのか，わからなかった。あるとき，

シャマルティンチキはバシャハウンが洞穴の奥で次のように歌っているのを聞いた：「もし人間どもがこの歌を知っていれば，うまくやれるのに；とうもろこしは葉っぱが出てくる頃に，小麦は葉っぱが落ちる頃に，カブは聖ロレンソの日の頃に植えるのだ」。おかげでシャマルティンチキは秋に小麦を植え，初めて小麦を収穫することができた。その後，小麦の栽培は広く普及した。

またセライン (Zerain, G) では，シャマルティンチキはとうもろこしの種を盗み，そのあとこんな歌を聞いた：「さんざしは花盛り，とうもろこしは植わって眠りに就いている」。この歌によると，さんざしの満開の頃が，とうもろこしの種蒔きと発芽の間の時期ということになる。因みに「芽吹く」にあたるバスク語は erne だが，この語は同時に「目覚めている」も表す。

オイヤルツンに伝えられるところによると，シャマルティンチキは鋸の作り方の秘訣をもバシャハウンから引き出している。バシャハウンは鋸を製作していたが，シャマルティンチキはその作り方を知りたく思った。そこで村に使いを送り，「シャマルティンチキが鋸作りに成功した」と呼ばわらせた。それを聞いたバシャハウンは使いに「お前の主人は栗の葉を見たのか?」と尋ねた。使いは「いや，まだ見てないよ，でももうすぐ見るはずだ」と答えた。シャマルティンチキは使いから話を聞くと，栗のぎざぎざの葉を見て，その形になるよう鉄を薄く延ばした。夜になって，バシャハウンはシャマルティンチキが本当に鋸を作ったのか確かめに彼の鍛冶場へ忍び込んだ。そして鋸を見つけると，役に立たなくしてやろうと，鋸の歯を交互にねじ曲げたところ，鋸はますます良いものになった。こうしてシャマルティンチキの鋸はバシャハウンのよりも良いとの評判になり，世間に広まった。

シャマルティンチキは似たような手を使って，2つの鉄片をくっつけるやり方も調べあげた。鋸のときと同じく，使いをコルテスビ (Kortezubi, B) に送り，「シャマルティンチキが鉄片同士をくっつける方法を発見した」とふれまわらせた。それを聞いたバシャハウンは「やつは粘土を溶いた水を使ったのか?」と尋ねた。使いは「いや，まだ使ってないよ，でもそうするはずだ」と答えた。こうしてシャマルティンチキは水溶きの粘土で鉄片と鉄片を繋ぐことを知り，その後この技法は村々に普及した。

サラ方面では，同じような手口で水車の軸の秘密を探り出した。シャマルティンチキの水車の軸はオーク製だったので，じきに磨耗して役に立たなくなっていた。それに引きかえ，バシャハウンの水車の軸は長保ちだった。シャマルティンチキは使いを送り，「シャマルティンチキの水車の軸がすごく長保ちするようになった」と呼ばわらせた。するとバシャハウンが「ということはハンノキを使ったということだな」と言った。「そうするはずだ」と使いは答えた。こうして，シャマルティンチキの策略により，人人はより長保ちの軸を獲得することができたという。

[参考文献]

José Miguel de Barandiarán *Diccionario de mitología vasca.* (Donostia, 1984)

——— *Euskal Herriko mitoak.* (Donostia, 1989)

José María Satrústegui *Mitos y creencias.* (Iruñea, 1987[4])

"Xamar" Juan Carlos Etxegoien *Orhipean.* (Iruñea, 1992)

Erein *Euskal Herriko Atlasa.* (Donostia, 1982)

凡　例

[動]……動詞	[助]……助動詞
[他]……他動詞	[自]……自動詞
[自/他] 自動詞扱いにも他動詞扱いにもなる動詞	
[自助]…自動詞につく助動詞	[他助]…他動詞につく助動詞
[連]……名詞の前につく形容詞	[形]……名詞の後ろにつく形容詞
[形/連] 名詞の前にも後にも立ち得る形容詞	[副]……副詞
[名]……名詞	[固名]…固有名詞
[代]……代名詞	[数]……数詞
[後]……後置詞	[接続]…接続詞
[接頭]…接頭辞	[接尾]…接尾辞
[間]……間投詞	[小]……小辞
ス ……スペイン語	

☆[名/副] などとなっているのは「名詞としても副詞としても用いられる語」などを表す。

☆動詞の表記で ager-tu などとなっているのは，ハイフン以前の部分が語根であることを示す。

☆名詞の格変化表は，-a で終わらない一般名詞のものを掲げた。

1. BALTZOLAKO SUGEA

バルツォラの蛇

Baltzolako： Baltzola ［固名］「バルツォラ」＋位置属格語尾-ko「～の」で「バルツォラの」。バルツォラはスペイン側のバスク地方ビスカイア県 (Bizkaia, ス Vizcaya) にある地名。位置属格語尾 -ko は，場所や位置を表す。「～の，～にある」(表 2)。《バルツォラの》

sugea： suge ［名］「蛇」＋定形単数絶対格語尾 -a。バスク語の名詞・形容詞は，14～16 の格を持ち，それぞれ不定形，定形単数，定形複数がある。(固有名詞にはその区別はない。) 変化のしかたは，その語が生物を表すか無生物を表すか (動物は生物，植物は無生物とする)，固有名詞であるか，また母音で終わるか子音で終わるかによって少しずつ異なる。この項ではまず最も基本的な格，絶対格の形を学ぶことにしよう (表 1)。suge を例にとると，不定形は語尾 ø で suge，定形単数は語尾 -a を付し

表 1 —

絶対格「～が・は・ø」

生物・無生物とも

	母音で終わる語	子音で終わる語
不 定 形	ø	ø
定形単数	-a	-a
定形複数	-ak	-ak

sugea, 定形複数は語尾 -ak を付し sugeak となる。定形語尾は，英語で言えば定冠詞 the に当たるものとされるが，実際にはその使用範囲は広く，英語で不定冠詞を用いて "This is a table." と言うような場合でも，バスク語では定形が用いられる。辞書の見出しは，この不定形絶対格の形をとっており，この形はいわば最も基本的な裸の形である。絶対格の役割については後述する。《蛇》

Kondaira edo Elezahar hau Bizkaia aldekoa da. Dima Bizkaiko herri polit bat da. Dimak hainbat auzo ditu inguruetako mendietan zabaldurik. Auzo hauetako bat Indusi da, eta Urrekoatxa mendi ondoan aurkitzen da. Auzo honetatik ordu erdi ingurura Baltzolako leze-zuloa dago. Lezezulo honen aurrean harrizko zubi bat, berezko zubi bat dago. Harkaitzezko zubi horren izena, "Jentil Zubi" da.

---

1. **Kondaira edo Elezahar hau Bizkaia aldekoa da.**

主　語　　　　　補　語　　　動詞

Kondaira edo Elezahar hau：この文の主語。kondaira [名]「伝説」, edo [接続]「または；言い換えれば」, elezahar [名]「昔話，言い伝え」。指示形容詞 hau に修飾されるため，kondaira, elezahar ともに不定形絶対格。hau は kondaira と elezahar にかかる指示形容詞「この～」，絶対格。名詞が付加的な修飾語を伴う時，つまり『名詞＋修飾語 1＋修飾語 2＋…＋修飾語 n』の

句では，最後の修飾語のみが格語尾を取って句全体の格を決定する。それ以外の語は不定形絶対格となる。つまり kondaira ～ hau の句全体が絶対格となり，自動詞文の主語となっている。この，「自動詞文の主語として立つ」というのが，絶対格の主要な役割の一つである。また，形容詞には，名詞の前に立つもの（これを連体詞と呼ぶことにする）と，名詞の後ろに立つもの（これを単に形容詞と呼ぶことにする）とがあるが，指示形容詞は後者である。「この伝説，または言い伝えは」。

Bizkaia aldekoa：この文の主格補語。Bizkaia [固名]「ビスカイア」。スペイン側バスク地方西端の県。工業都市 Bilbo（ビルボ，ス Bilbao, ビルバオ）を抱える。aldekoa は alde [名]「側，方」＋定形単数位置属格語尾 -ko「～の」＋定形単数絶対格語尾 -a。名詞(句)の位置属格形や所有属格形（後述）に定形語尾が付いて「～のもの」の意の名詞が作られる。また，『地名＋alde』で「～の方，～の側」。全体が絶対格で自動詞文の補語となっている。この様に「AはBである」の型の文において主語だけでなく主格補語となるのも絶対格の役割である。「ビスカイア方面のもの」(右表参照)。

—表 2—

位置属格「～の」

無生物（生物はなし）

	母音で終わる語	子音で終わる語
不定形	-tako	-etako
定形単数	-ko	-eko
定形複数	-etako	

alde
～方面

alde ＋ -ko
～方面　の

alde ＋ -ko　-a
～方面　の　もの

da：英語の be 動詞にあたる自動詞 izan

「～である」の直説法現在 NOR 活用単純形の一つ。NOR 活用は2タイプある自動詞の活用のうちの一つ。NOR 活用は,「Aが～する」「AはBである」の型の自動詞文に現れるもので, NOR は自動詞文に立つ主語（絶対格をとる）を表す。da は NOR（主語）が3人称単数の場合の形で，大まかに言えば英語の is にあたり「3人称単数の人・物（以下3単と略す）は～である」を表す。動詞の単純形については後述する（⇨ l. 5–6)。

《この伝説，言い換えれば言い伝えは，ビスカイア方面のものである。》

—表 3—

izan [自] 直説法現在 NOR 活用単純形

	NOR（主語）	活用	
sg. 1人称	ni	naiz	「私は～だ」
2	hi*	haiz	「お前は～だ」
3	hura	da	「彼(女)は～だ」
pl. 1	gu	gara	「私達は～だ」
2	zu**	zara	「あなた・君は～だ」
2′	zuek	zarete	「あなた達・君達は～だ」
3	haiek	dira	「彼(女)らは～だ」

* hi はいわゆる親称の2人称だが使用範囲はかなり狭い。

** zu はいわゆる敬称の2人称単数だがこの様なパラダイムでは複数扱いされる。

なお izan は自動詞支配の助動詞としても同様の活用形を持つ（⇨ l. 5 aurkitzen da の項)。

2. **Dima** **Bizkaiko herri polit bat** **da.**
主語　補語　動詞

Dima：[固名] ディマ。自動詞 da の主語で絶対格。「ディマは」。

Bizkaiko herri polit bat：主格補語。Bizkaiko は Bizkaia「ビスカイア」＋定形位置属格語尾 -ko「～の」。位置属格語尾 -ko が付くことにより Bizkaia の語末の -a が落ちる。-a で終わる地名には，格変化の際，-a が落ちるものと保たれるものがある。herri は [名]「国，地方，町，村」。後に形容詞が続くため不定形絶対格。polit は [形]「きれいな，可愛い」，herri にかかる形容詞である。後にさらに bat という修飾語が続くため不定形絶対格。bat [数]「1」は数形容詞として herri polit にかかり，名詞句 herri polit bat の格を規定する（⇨ l. 1)。数詞は名詞に前置されるのが原則だが，bat は常に後置される。Bizkaiko ～ bat は自動詞の補語。「ビスカイアの美しい一つの村」。

da：＜izan [自] 直説法現在 NOR 活用単純形「3単は～である」（⇨ l. 1 および表 3)。

《ディマはビスカイアの美しい一つの村である。》

2–3. **Dimak** **hainbat auzo** **ditu.**
主語　直接目的語　動詞

Dimak：Dima の能格形。この文の主語。「ディマは」。能格は他動詞文の主語として立つ格で，その標識は -k。（表4参照）

hainbat auzo：他動詞 ditu の直接目的語。hainbat [連] は，「あんなにたくさんの」。auzo は [名]「地区」「集落」。前に数量を表す修飾語が付くため不定形絶対格。全体が他動詞の目的語。この様に，絶対格は自動詞文では主語，他動詞文では直接目的語

として立つ。「あんなに多くの集落を」。

—表4—

能格「～が」

生物・無生物とも

	母音で終わる語	子音で終わる語
不定形	-k	-ek
定形単数	-ak	
定形複数	-ek	

—表5—

izan [他] 直説法現在 NOR-NORK 活用単純形

NOR（直接目的語）が3単/3複の場合

「～が3単/3複を持っている」

	NORK（主語）	活用	
sg. 1	nik	d(it)ut*	「私は3単/3複を持っている」
2	hik	d(it)uk/n**	「お前は3単/3複を持っている」
3	hark	d(it)u	「彼(女)は3単/3複を持っている」
pl. 1	guk	d(it)ugu	「私達は3単/3複を持っている」
2	zuk	d(it)uzu	「あなた・君は3単/3複を持っている」
2′	zuek	d(it)uzue	「あなた達・君達は3単/3複を持っている」
3	haiek	d(it)u(z)te***	「彼(女)らは3単/3複を持っている」

* 接中辞 -it- は複数標識で，目的語が3人称複数の時現れる。

** -k は hik が男性の時，-n は女性の時に現れる。

*** -z- は -it- とともに現れる繋ぎの子音。

なお izan は他動詞支配の助動詞としても同様の活用形を持つ（⇨l. 21 zituzten）。

ditu: izan [他]「持っている」の直説法現在 NOR-NORK 活用単純形の活用形の一つ。NOR-NORK とは2タイプある他動詞の活用の一つで，「A は B を～する」の型の他動詞文に現れる。NOR は他動詞文において絶対格で現れる直接目的語，NORK は能格で現れる主語を表す。ditu は NOR（直接目的語）が3複，NORK（主語）が3単の場合の形で「3単は3人称複数の人・物（以下3複と略す）を持っている」。このように，バスク語の動詞の活用には，主語の人称・数だけでなく，目的語の人称・数も関与する（⇨l. 24, l. 26）。この文では3複の NOR（直接目的語＝絶対格）は hainbat auzo，3単の NORK（主語＝能格）は Dimak というわけである。

《ディマはあんなに多くの集落を持っている》

3. **inguruetako mendietan zabaldurik.**

inguruetako: inguru [名]「周囲」＋定形複数位置属格語尾 -etako,「周囲の」。

mendietan: mendi [名]「山」＋定形複数内格語尾 -etan,「山

—表6—

内格「～において」

	生物		無生物	
	母音で終わる語	子音で終わる語	母音で終わる語	子音で終わる語
不定形	-rengan	-engan	-tan	-etan
定形単数	-arengan		-an	-ean
定形複数	-engan		-etan	

々の中に」。内格は「～において」を表す場所的な格で，その標識は -n。(表6参照)

zabaldurik：zabal-du [自]「広がる」＋状態を表す副詞を作る語尾 -rik [接尾]。「広がって(いる状態で)」。

《周囲の山々に広がっている状態で》

4. **Auzo hauetako bat Indusi da,**

主 語　補語　動詞

Auzo hauetako bat：この文の主語。auzo [名]「集落」。修飾語 hauetako を伴うので不定形絶対格。hauetako は hauek [形]「これらの」の位置属格形「これらの～の」で，auzo にかかる。bat [数]「1」は絶対格。ここでは名詞的に「ひとつ」の意。「これらの集落のひとつが」。

Indusi：[固名]「インドゥシ」，この文の主格補語。

da：＜izan [自] 直説法現在 NOR 活用単純形「3単は～である」(⇒l. 1, 表3)。

《これらの集落の一つがインドゥシである》

4-5. **eta Urrekoatxa mendi ondoan aurkitzen da.**

接続詞　副詞句　動 詞

eta：[接続] そして。

Urrekoatxa mendi ondoan：Urrekoatxa [固名]「ウレコアチャ」と mendi [名]「山」で「ウレコアチャ山」。ondoan は ondo [名]「側，横，脇」＋定形単数内格語尾 -an，「そばにおいて」。『名詞の不定形絶対格＋ondo』で「～のそば」。「ウレコアチャ山のそばに」。

aurkitzen da：aurkitzen は aurki-tu [自]「見出される，存在する」の不完了分詞。da は，助動詞 izan の自動詞用の活用のひとつ，NOR 活用の直説法現在，NOR (主語＝絶対格) が3単の場合の形で，「3単が～する」。既出の自動詞 izan の単純形と同様の活用をする。バスク語の動詞部は，基本的に本動詞と助動詞から成る (l. 1 の da, l. 3 の ditu はそれぞれ izan [自]，izan [他] の単純形で，助動詞なしで機能できる。→後述)。本動詞は辞書的意味を担うほか，接尾辞を付加して完了，不完了，未来の分詞を形成し三つのアスペクトを表す。自動詞 aurki-tu の三つの分詞形は aurkitu, aurkitzen, aurkituko となる。このように辞書の見出しにもなる原形とも言える形はそのまま完了分詞形でもあり，また aurki- の部分が語根である。一方，助動詞 izan は，法，時制のほかに，主語，直接目的語，間接目的語の人称および数を表す。例えば，この da は，直説法，現在時制，そして主語が3人称単数であることを表している (自動詞用の活用形なので，目的語は関わらない)。本動詞が担う三つのアスペクトと，助動詞が担う二つの時制との組み合わせは6とおりあるわけだが，ここでの aurkitzen da は，アスペクトは不完了，時制は現在で，現在における習慣・反復または単純な現在を表す (現在時制不完了相)。3単の主語は Indusi である。

《そして(インドゥシは)ウレコアチャ山のそばに見出される。》

5-6. **Auzo honetatik ordu erdi ingurura**

副詞句

Baltzolako leze-zuloa dago.

主 語　動詞

Auzo honetatik ordu erdi ingurura：auzo [名]「集落」。不定形絶対格，honetatik は hau [形]「この」の奪格形「この～

から」で auzo にかかる。「この集落から」。ordu erdi ingurura の ordu は [名]「(1) 時間」不定形絶対格，erdi は [名/形]「半分」，ordu erdi は「30分」を表す。ingurura は inguru [名]「周囲」＋定形単数方格語尾 -ra，「周囲へ」。方格は「～へ」を表す格で，その標識は -ra。(表 7 参照)『時間を表す語句＋ingurura』は「だいたい～くらいのところへ」を表す。ここまで「この集落からだいたい 30 分行ったところに」。

—表 7—

方格「～へ」

	生物		無生物	
	母音で終わる語	子音で終わる語	母音で終わる語	子音で終わる語
不定形	-rengana	-engana	-tara	-etara
定形単数	-arengana		-ra	-era
定形複数	-engana		-etara	

Baltzolako leze-zuloa： 自動詞 dago の主語で絶対格。Baltzolako は Baltzola [固名]＋定形単数位置属格語尾 -ko「バルツォラの」。leze-zuloa は leze-zulo [名]「洞穴」＋定形単数絶対格語尾 -a。leze は leize とも綴られ，それだけでも「洞穴」の意味がある。zulo は「穴」。「バルツォラの洞穴が」。

dago： egon [自]「いる，ある，存在する」の直説法現在 NOR 活用単純形，NOR＝3単の場合の形で「3単が存在している」。前述のように，バスク語の動詞部は原則として本動詞と助動詞から形成されるが (動詞の複合形 ⇒l. 5)，いくつかの動詞は，複合形のほかに，助動詞なしでそれ自体が活用変化する単純形をも持

—表 8—

egon [自] 直説法現在 NOR 活用単純形

「いる，ある，～だ」

	NOR (主語)	活用	
sg. 1 人称	ni	nago	「私はいる」
2	hi	hago	「お前はいる」
3	hura	dago	「彼(女)はいる」
pl. 1	gu	gaude	「私達はいる」
2	zu	zaude	「あなた・君はいる」
2′	zuek	zaudete	「あなた達・君達はいる」
3	haiek	daude	「彼(女)らはいる」

つ。既出の izan やこの egon がそれである。egon の直説法現在 NOR 活用の 3 人称単数の複合形は egoten da，単純形は dago であり，両方とも不完了相であるが，前者は習慣・反復的行為，つまり「時々・くりかえし存在している」，後者は進行・継続，つまり「つねに存在している」を表す。単純形と複合形の違いについては l. 70 izan zen の項でさらに詳しく述べる。egon の直説法現在 NOR 活用単純形は上のとおり。

《この集落から 30 分くらいのところにバルツォラの洞穴がある。》

6-8. **Leze-zulo honen aurrean**
副詞句
harrizko zubi bat, berezko zubi bat dago.
同格
主語
動詞

Leze-zulo honen aurrean: 場所を表す副詞句。leze-zulo は[名]「洞穴」不定形絶対格。honen は hau [形]「この」の所有属格「この〜の」, leze-zulo を修飾する。「この洞穴の」。aurrean は aurre [名]「前」＋定形単数内格語尾 -an,「前において」。ここまで「この洞穴の前に」。

harrizko zubi bat: この文の主語。harrizko は harri [名]「石」に「〜でできた, 〜製の」の意の連体詞を作る語尾 -zko が付いた形で, 全体が「石でできた」という連体詞となり, zubi を修飾する。-zko はさらに『具格語尾 -z (手段や材料を表す)＋位置属格語尾 -ko』と分析できる。-ko で終わる形容詞は, -ko が位置属格に由来するため, 名詞に前置される。zubi は [名]「橋」不定形絶対格, bat は [数]「1」は zubi にかかり, 自動詞 dago の主語で絶対格。「石でできた一つの橋が」。

berezko zubi bat: 前項の harrizko zubi bat と同じ構造, 同格で dago の主語。berezko [連]「自然の, 自ずとできた」。後続の名詞 zubi にかかる。「自然にできた一つの橋が」。

dago: ＜[自] egon「ある, いる」, 直説法現在 NOR 活用単純形, NOR＝3単,「3単が存在している」(⇨l. 6 表8)。

《この洞穴の前に石の橋, 自然にできた橋がある》

8-9. **Harkaitzezko zubi horren izena, "Jentil Zubi" da.**

主語　補語　動詞

harkaitzezko zubi horren izena: この句は自動詞 da の主語で絶対格。harkaitzezko は harkaitz [名]「岩」に「〜でできた」の意の連体詞を作る語尾 -ezko が付いた形。-ezko は l. 7 の harrizko の -zko と同じ。子音で終わる語に付く場合, 繋ぎの母音 -e- が挿入される。zubi [名]「橋」不定形絶対格, horren

は hori [形]「その」の所有属格「その〜の」で, zubi にかかる。izena は izen [名]「名前」＋定形単数絶対格語尾 -a。ここまで自動詞 da の主語。「その橋の名前は」。

Jentil Zubi: jentil [名] はバスクの伝説に登場するキャラクターの一つで,「異教徒 (クリスト教徒でない者)」を意味し, 魔物的存在として現れる。zubi は [名]「橋」。Jentil Zubi は固有名詞として「魔物の橋」。

da: ＜[自] izan,「3単は〜である」(⇨l. 1, 表3)。

《岩でできたこの橋の名は,「魔物の橋」である》

〈訳〉 この伝説, 言い換えれば昔語は, ビスカイア方面のものです。ディマはビスカイアの美しい村です。ディマには, 周りの山山の中に点々と, 沢山の集落があります。その集落の中の一つがインドゥシで, ウレコアチャ山の傍らに佇んでいます。この集落から30分ばかり行ったところに, バルツォラの洞穴があります。この洞穴の前に, 石でできた天然の橋が掛かっています。その橋の名は,「魔物の橋」といいます。

Kondaira hau leze-zulo horretantxe gertatu omen zen.

Baltzolako lezearen ondoan Iturriondobeti izeneko baserria dago. Leze-zuloa bera baino apurtxo bat beheraxeago aurkitzen da. Aspaldi, etxe horretan zazpi lagun bizi omen ziren: gurasoak eta bost seme-alaba, bi mutil eta hiru neska.

10-11. **Kondaira hau** (主 語) **leze-zulo horretantxe** (副詞句) **gertatu omen zen.** (動 詞)

kondaira hau：自動詞 gertatu zen の主語で絶対格。kondaira は [名]「伝説」，後ろに修飾語を伴うので不定形絶対格。hau は [形]「この」絶対格。「この伝説は」。

leze-zulo horretantxe：場所を表す副詞句。leze-zulo [名]「洞穴」，horretantxe は指示形容詞 hori「その」の内格形 horretan「その～において」＋強調語尾 -txe で「まさにその～において」。「まさにその洞穴において」。

gertatu omen zen：この文の動詞部。gertatu [自]「起こる」は完了分詞。zen は助動詞 izan の直説法過去 NOR 活用，NOR (主語) が 3 単の場合の形。「3単が～した」。つまり da の過去形。活用は下のとおり。『動詞の完了分詞＋

— 表 9 —

izan [自助/自] 直説法過去 NOR 活用

		NOR (主語)	活用
sg.	1	ni	nintzen「私は～した/だった」
	2	hi	hintzen「お前は～した/だった」
	3	hura	zen 「彼(女)は～した/～だった」
pl.	1	gu	ginen 「私達は～した/だった」
	2	zu	zinen 「あなた・君は～した/～だった」
	2′	zuek	zineten「あなた達・君達は～した/～だった」
	3	haiek	ziren 「彼(女)らは～した/～だった」

助動詞の過去形』は過去における完了した行為を表す（過去時制完了相)。omen は伝聞を表す小辞で「～だそうだ」を表す。動詞の複合形と共に用いられる時は必ず本動詞と助動詞の間に挿入され，単純形ではその直前に置かれる。「起こったそうだ」。

《この伝説はまさにその洞穴で起こったのだそうだ》

12-3. **Baltzolako lezearen ondoan** (副詞句) **Iturriondobeti izeneko baserria** (主 語) **dago.** (動詞)

Baltzolako lezearen ondoan：場所を表す副詞句。Baltzolako「バルツォラの」，lezearen は leze [名]「洞穴」＋定形単数所有属格語尾 -aren，「洞穴の」。所有属格は「～の」「～のものであるところの」を表す格でその標識は -(r)en (右表参照)。ondoan は ondo [名]「側」＋定形単数内格語尾 -an の形で，所有属格名詞(句)に後置され，「～の側において」(⇨ I. 5)。「バルツォラの洞穴の側に」。

— 表 10 —

所有属格「～の」
生物・無生物とも

	母音で終わる語	子音で終わる語
不 定 形	-ren	-en
定形単数	-aren	
定形複数	-en	

Iturriondobeti izeneko baserria：この文の主語。自動詞 dago の主語で絶対格。Iturriondobeti は [固名]「イトゥリオンドベティ」，izeneko は izen [名]「名前」＋定形単数位置属格語尾 -eko，「名前の」(⇨ 表2)。『固有名詞＋izeneko』で「～という名

前の」。baserria は baserri [名]「(山の) 農家，田舎家」＋定形単数絶対格語尾 -a。「イトゥリオンドベティと言う名の農家が」。

dago：＜egon [自]「ある，いる」 直説法現在 NOR 活用単純形，NOR＝3単，「3単が存在している」(⇨l. 6, 表8)。

《バルツォラの洞穴の側に，イトゥリオンドベティという名の農家がある》

13–4. **Leze-zuloa bera baino apurtxo bat beheraxeago**
副詞句
aurkitzen da.
動詞

leze-zuloa bera baino apurtxo bat beheraxeago： 場所を表す副詞句。leze-zuloa は leze-zulo [名]「洞穴」＋定形単数絶対格語尾 -a。bera は3単代名詞 hura (絶対格) の強調形。leze-zuloa と同格で，「洞穴それ自体」を表す。「～自体」を表す『名詞句＋bera』の句では，名詞句も bera も同じ格語尾を取る。baino は [接続]「～よりも」。ここまで「洞穴それ自体よりも」。apurtxo bat は apur bat [副]「少し」の apur に指小辞 -txo がついたもので「ほんの少し」。副詞的に用いられている。beheraxeago は behe [名]「下」＋方格語尾 -ra「～へ」＋指小の接中辞 -xe-「ほんの少し」＋形容詞・副詞の比較級語尾 -ago で「もう少し下の方へ」。接続詞 baino と呼応し，「～よりほんの少し下の方に」。

aurkitzen da：aurkitzen は aurki-tu [自]「見出される」の不完了分詞，da は izan [自助] 直説法現在 NOR 活用，NOR＝3単，「3単は～する」(⇨l. 5, 表3)。NOR (主語) は前出の Iturriondobeti izeneko baserria。

《その農家は，その洞穴自体よりもほんの少し下の方にある。》

14–5. **Aspaldi, etxe horretan zazpi lagun bizi omen ziren:**
副詞　副詞句　主語　動詞

aspaldi：[副]「ずっと以前」。

etxe horretan：場所を表す副詞句。etxe [名]「家」，horretan は hori [形]「その」の内格形で「その～で・に」。「その家に」。

zazpi lagun：自動詞 bizi ziren の主語なので絶対格。zazpi は [数]「7」。ここでは「7人の」の意で lagun を修飾する。lagun [名]「友達；人」，数詞に修飾されているので不定形絶対格。「7人の人が」。

bizi omen ziren：bizi ziren は bizi izan [自]「住む，住んでいる，暮らす，生きる」の izan の部分が，直説法過去 NOR 活用，NOR＝3複の場合の形 ziren に活用したもので，「3複は住んでいた」(⇨表9)。bizi は元来「生きている，生き生きしている；生活，生命」の意だが，bizi izan の形で熟語的な動詞となる。バスク語には，このように名詞や形容詞と izan などが結び付いた熟語的な動詞がいくつかある。omen は伝聞の小辞「～だそうだ」(⇨l. 10)。「(3複が) 住んでいたそうだ」。

《その家には，ずっと以前，7人の人間が住んでいたそうだ。》

15–6. **gurasoak eta bost seme-alaba, bi mutil eta hiru neska.**

☆bost seme-alaba と bi mutil eta hiru neska は同格，またこの句全体と前文の zazpi lagun が同格。

gurasoak は guraso [名]「親」＋定形複数絶対格語尾 -ak，「両親」。eta は [接続]「～と～」。

bost seme-alaba：bost [数]「5 (の)」 次の名詞にかかる。seme-alaba [名]「息子と娘」，修飾語を伴うので不定形絶対格。「5人の息子と娘」。

bi mutil eta hiru neska：bi [数]「2」次の名詞にかかる。mutil [名]「少年，青年」。eta [接続]「～と～」。hiru [数]「3」次の名詞にかかる。neska [名]「少女，若い女性」。mutil も neska も修飾語を伴うので不定形絶対格。数詞は形容詞としては被修飾語に前置される（ただし bat は常に後置，bi はどちらでもよい）。また alaba「娘」，neska「少女」のようにもともと -a で終わっている語は，絶対格の不定形と定形単数が同形となる。

《両親と5人の息子と娘，すなわち2人の青年と3人の娘。》

〈訳〉この伝説は，ほかならぬその洞穴で起こったことだそうです。バルツォラの洞穴のそばに，イトゥリオンドベティという名の農家があります。それはその洞穴よりもほんの少しだけ下の方に位置しています。昔，その家には7人の家族，つまり両親と5人の子供―息子がふたりと娘が3人―が住んでいたそうです。

Bazuten nahikoa belardi eta soro, eta ardiak eta behiak, berriz, ugari. Etxeko artzainak mutil biak ziren.

Egun batean, besteetan bezala, goizean goiz, atera zituzten ardiak larrera, eta iluntzean, etxeratzeko ordua iritsi zenean, joan ziren Baltzolako leze-zulora, han utzita zituzten gauzak jasotzera, eta, bapatean, suge handi bat agertu zitzaien.

17-8. Bazuten nahikoa belardi eta soro, eta ardiak eta behiak, berriz, ugari.

Bazuten（動詞） nahikoa belardi eta soro（直接目的語）, eta（接続詞） ardiak eta behiak（主語（動詞省略））, berriz, ugari（補語）.

bazuten：ba- は肯定を表す接頭辞。動詞 zuten「3複が3単を持っていた」を強め，「持っていなかったのではなくて，確かに持っていたのだ」というニュアンスを持たせている。zuten は izan [他]「持っている」の直説法過去 NOR-NORK 活用単純形で，NOR（直接目的語）=3単，NORK（主語）=3複の場合（表11参照）。「3複は3単を持っていた」。dute の過去（⇨1. 2～3, ditu の項）。主語は，3人称複数である事と文脈から，前出の「7人の家族」であることがわかる。

—表 11—

izan [他] 直説法過去 NOR-NORK 活用単純形

NOR（直接目的語）=3単／3複の場合

	NORK（主語）		活用	
sg.	1	nik	n(it)uen	「私は3単/3複を持っていた」
	2	hik	h(it)uen	「お前は3単/3複を持っていた」
	3	hark	z(it)uen	「彼(女)は3単/3複を持っていた」
pl.	1	guk	gen(it)uen	「私達は3単/3複を持っていた」
	2	zuk	zen(it)uen	「あなた・君は3単/3複を持っていた」
	2′	zuek	zen(it)u(z)ten	「あなた達・君達は3単/3複を持っていた」
	3	haiek	z(it)u(z)ten	「彼(女)らは3単/3複を持っていた」

☆ -it- は直接目的語が複数の時現れる複数標識。また -z- は複数標識挿入とともに現れる繋ぎの子音。

nahikoa belardi eta soro： 他動詞 bazuten の目的語。na-hikoa [連]「充分な」，後続の二つの名詞にかかる。belardi [名]「草地」。eta [接続]「～と～」。soro は [名]「畑」だが，通常一種類の作物が植えられているものを指す。belardi, soro ともに数量を表す語 nahikoa に修飾されるので不定形絶対格。

eta： 「そして」。

ardiak eta behiak, berriz, ugari： ardiak は ardi [名]「羊」＋定形複数絶対格語尾 -ak,「羊たちは」。eta は「～と～」。be-hiak は behi [名]「雌牛」＋定形複数絶対格語尾 -ak,「雌牛たちは」。berriz は [接続]「一方，また」，文頭でなく文中で用いられる。ugari は [形]「豊富な」。省略されていると考えられる自動詞 ziren「3複は～だった」(⇨表 9) の主語になる。

《(彼らは) 充分な草地と畑を持っていた，そして一方，羊と牛は豊富であった。》

18-9. **<u>Etxeko artzainak</u> <u>mutil biak</u> <u>ziren.</u>**

主語　　補語　　動詞

etxeko artzainak： 自動詞 ziren の主語で絶対格。etxeko は etxe [名]「家，家庭」＋定形単数位置属格語尾 -ko,「家の，家庭の」。artzainak は artzain [名]「羊飼い，羊の世話をするもの」＋定形複数絶対格語尾 -ak,「家の羊飼いは」。

mutil biak： 自動詞 ziren の補語。mutil [名]「少年，青年」。biak は bi [数]「2」＋定形複数絶対格語尾 -ak で mutil にかかるが，数詞 bi に定形語尾が付いて「その特定の二人の」のニュアンスが加わる。「その二人の青年」。

ziren： ＜izan [自] 直説法現在 NOR 活用単純形，NOR＝

3複，「3複は～だった」(⇨l. 1 da の項，表 9)。

《その家の羊飼いは，二人の息子たちだった》

20-1. **Egun batean, besteetan bezala, goizean goiz,**

<u>atera zituzten</u> <u>ardiak</u> larrera,

動　詞　　直接目的語

egun batean： 副詞句として「ある日」。egun は [名]「日，日中」不定形絶対格，batean は bat [数]「1」＋定形単数内格語尾 -ean。この bat はある不特定のものを指す不定冠詞のような働きをしている。

besteetan bezala： besteetan は beste [名]「ほかの人・物」＋定形複数内格語尾 -etan で，ここでは「他の日々において」「今までは」の意。bezala は [接続]「～のように」。ここまで「他の日々のように→今までのように」。

goizean goiz： 全体として副詞的に「朝早く」。goizean は goiz [名]「朝」＋定形単数内格語尾 -ean,「朝に」。goiz は [副]「早く」。

atera zituzten： この文の動詞部。atera [他]「出す」不完了分詞。zituzten は izan [他助] 直説法過去 NOR-NORK 活用の NORK (主語)，NOR (直接目的語) ともに 3 人称複数の場合。「3複は 3複を～した」。[他助] としての izan と他動詞としての izan は同じ活用をする (⇨表 5, 11)。主語 NORK は二人の兄弟。

ardiak： atera zituzten の直接目的語。ardi [名]「羊」＋定形複数絶対格語尾 -ak,「羊たちを」。

larrera： larre [名]「牧草地」＋定形単数方格語尾 -ra,「牧草地へ」。

《ある日，いつものように朝早く（彼らは）羊たちを牧草地へ出した》

21-2. **eta iluntzean, etxeratzeko ordua iritsi zenean,**

主　語　　動詞＋ean

└─時の副詞節─┘

eta：［接続］「そして」。

iluntzean：ilun-du［他］「暗くなる」の -t(z)ean 形。動詞の -t(z)ean 形は時を表す表現で，動詞の語根に付して作られ，「～する時・した時」を意味する。ここでは「日が暮れる時」。-t(z)ean 形は動詞の -t(z)e 形「～すること」（⇨ l. 41）の内格形と考えられる。動詞の -t(z)e 形は，英語で言えば動名詞にあたるもので，動詞であると同時に名詞の性格をも併せ持つので，格変化する。ここでは内格の形になっていると言うわけである。「日が暮れる時に」。

etxeratzeko ordua：iritsi zenean の主語。etxeratzeko は etxera-tu［自］「家へ帰る」の -t(z)eko 形。動詞の -t(z)eko 形は動詞の語根に付して作られる。ここでは「～するための，～すべき」の意で名詞 ordua を修飾する。英語で言えば to 不定詞の形容詞用法のような働きをする。ordua は ordu［名］「時間」＋定形単数絶対格語尾 -a。「家へ帰るべき時間が」。

iritsi zenean：iritsi は irits-i［自］「着く」の不完了分詞。zenean は zen ＜izan［自助］直説法過去 NOR 活用，NOR＝3単，「3単が～した」（⇨ l. 11，表 9）に，時を表す副詞節を作る語尾 -ean が付いた形。この語尾は動詞または助動詞の活用形に接続して「～する時・した時」の意の節を作る。「着いた時に」。

《日が暮れて家へ帰る時間が来た時》

22-3. **joan ziren Baltzolako leze-zulora,**

動詞　　場所の副詞句

joan ziren：joan は［自］「行く」完了分詞。ziren は ＜izan［自助］直説法過去 NOR 活用，NOR＝3複，「3複が～した」（⇨表 9）。主語は二人の兄弟。

Baltzolako leze-zulora：Baltzolako は「バルツォラの」。leze-zulora は leze-zulo［名］「洞穴」＋定形単数方格語尾 -ra，「洞穴へ」。

《（二人の兄弟は）バルツォラの洞穴へ行った》

23. **han utzita zituzten gauzak jasotzera,**

連体修飾語　　被修飾語　　動詞 -t(z)era 形

(jasotzera の目的語)

☆han utzita zituzten gauzak は jasotzera の直接目的語となる句で，そのうち han utzita zituzten は名詞 gauzak にかかる連体修飾節。

han は［副］「あそこに，そこに」。utzita は utz-i［他］「置く」の完了分詞形＋完了した状態を表す副詞を作る語尾 -ta，「置いてしまった状態で」。zituzten は前出のとおり（⇨ l. 21）izan［他］「持つ」の直説法過去 NOR-NORK 活用単純形，NOR（直接目的語），NORK（主語）ともに 3 複の場合の形で「3 複が 3 複を持っていた」で，utzita zituzten では「3 複が 3 複を置いた状態で持っていた」，つまり「置いておいた」（cf. utzi zituzten は「置いた」）。だが，この zituzten は，次の名詞 gauzak（3 人称複数にあたる）にかかる連体形となっているため「3 複が置いておいたところの（3 複）」の意となる。連体修飾節を形成するための，動詞および助動詞の活用形の連体形は，活用形に語尾 -(e)n

を付して作るが，zituzten の様にもともと語末に -en を含むものには省略されるので同形となるが，連体形では強勢は zituztén と，後ろに置かれる。gauzak は gauza [名]「もの，こと」＋定形複数絶対格語尾 -k。gauza の様にもともと -a で終わる語には絶対格複数標識として -k のみが付く。ここまで「彼らがあそこに置いておいたところの物（複）を」。jasotzera は jaso [他]「取る，受け取る，片付ける」の -t(z)era 形で「取りに」。動詞の -t(z)era 形は，動詞の -t(z)e 形「〜すること」(⇒ l. 41, izatea の項) の方格形と考えられ，「〜しに」を表す。

《彼らがあそこに置いておいた物を取りに》

24. **eta, bapatean, suge handi bat agertu zitzaien.**

eta,	bapatean,	suge handi bat	agertu zitzaien.
接続詞	副詞	主語	動詞

eta：[接続]「すると」。

bapatean：[副]「突然」。

suge handi bat：この文の主語。suge [名]「蛇」，handi [形]「大きな」，ともに修飾語を伴うため不定形絶対格。最後の修飾語 bat「1（の）」も不定形絶対格。「一匹の大きな蛇が」。

agertu zitzaien：agertu は [自]「現れる」完了分詞。zitzaien は izan [自助] 直説法現在 NOR-NORI 活用，NOR（主語）＝3単，NORI（間接目的語＝与格）＝3複の場合。「3単が3複に〜した」。NOR-NORI 活用は，自動詞のもう一つの活用パターンで，その活用には主語 NOR のほかに与格で表される間接目的語 NORI「〜に」が関わってくる。agertu zitzaien は「3複に3単が現れた」だが，ここでは NORI（間接目的語）にあたる3複は「二人の兄弟」，NOR（主語）にあたる3単は suge handi bat である。izan [自助] の直説法現在および過去，NOR-

—表 12—

izan [自助] 直説法現在と過去 NOR-NORI 活用

NOR（主語）が3単／3複の場合

「3単/3複が〜に〜する/した」

		NORI（間接目的語＝与格「〜に」）	現在	過去
sg.	1	niri「私に」	zai(zki)*t	zitzai(zki)dan
	2	hiri「お前に」	zai(zki)k/n**	zitzai(zki)an/nan**
	3	hari「彼(女)に」	zai(zki)o	zitzai(zki)on
pl.	1	guri「私達に」	zai(zki)gu	zitzai(zki)gun
	2	zuri「あなた・君に」	zai(zki)zu	zitzai(zki)zun
	2′	zuei「あなた達・君達に」	zai(zki)zue	zitzai(zki)zuen
	3	haiei「彼(女)らに」	zai(zki)e	zitzai(zki)en

* -zki- は複数標識で，NOR＝主語が3複の時現れる。
** sg. 2 の -k, -an は hiri が男性の時，-n, -nan は女性の時現れる。

NORI, NOR（主語）が3単および3複の場合の活用は上のとおり。なお与格については後述する。

《すると突然彼らに一匹の大きな蛇が現れた》

〈訳〉 彼らは草地と畑を充分持っていました。また，羊と牛は豊富でした。この家族の中で羊の世話をしているのは，二人の息子たちでした。

ある日，彼らはいつものように朝早く羊たちを牧草地へ連れ出しました。そして日暮れ時になって家へ帰る時間が来ると，バルツォラの洞穴のところへ置いてきた物を取りに行きました。する

と突然，彼らの前に1匹の大きな蛇が現れました。

Txikienak, berehala, hartu zuen harri bat eta indar handiaz bota zion sugeari, eta hura, izuturik eta minez, buztana ebaki zion eta, zulorantz abiatu zen lasterrean. Baina, berriz, beste harri bat hartu zuen, berriro ere sugeari jaurtitzeko asmoz; baina, zaharrenak orduan:

— Etzazu hil, utziozu bizirik, ez digu kalterik egin eta!

Zaharrenak hitz hauek esateaz bat zarata ikaragarri bat entzun zuten. Trumoi handi batek edo egin izan balu bezalakoa. Bi mutilek, izuturik lasterka alde egin zuten handik.

25. **Txikienak, berehala, hartu zuen harri bat**
主語　動詞　直接目的語

txikienak: 他動詞 hartu zuen の主語で能格。txiki [形]「小さい」＋最上級語尾 -en＋定形単数能格語尾 -ak,「最も小さい者が」を意味する。このように形容詞や位置属格・所有属格にさらに定形語尾を付すことにより名詞化し「～な人・物」を表す。ここで言う「最も小さな者」とは二人兄弟の弟の方を指す。

berehala: [副]「すぐに」。

hartu zuen: この文の動詞部。hartu は [他]「取る」完了分詞。zuen は izan [他助] 直説法過去 NOR-NORK 活用，NOR

(直接目的語)，NORK (主語) ともに3人称単数の場合の形。「3単が3単を～した」(⇨l. 21, zituzten の項，表 11)。

harri bat: hartu zuen の直接目的語。harri [名]「石」不定形絶対格，bat「1つの」も不定形絶対格。「一つの石を」。

《弟の方がすぐに一つの石を取り上げた》

25-6. **eta indar handiaz bota zion sugeari,**
接続詞　副詞句　動詞　間接目的語

eta: [接続]「そして」。

indar handiaz: indar は [名]「力」不定形絶対格，handiaz は handi [形]「大きな」＋定形単数具格語尾 -az「～でもって」。indar にかかる。具格は道具，手段，方法，材料を表す。「そして大きな力で」。

— 表 13

具格「～でもって」
生物・無生物とも

<table>
<tr><th></th><th>母音で終わる語</th><th>子音で終わる語</th></tr>
<tr><td>不定形</td><td>-z</td><td>-ez</td></tr>
<tr><td>定形単数</td><td colspan="2">-az</td></tr>
<tr><td>定形複数</td><td colspan="2">-ez</td></tr>
</table>

bota zion: bota [他]「投げる」完了分詞。zion は izan [他助] 直説法過去 NOR-NORI-NORK 活用，NOR (直接目的語)，NORI (間接目的語)，NORK (主語) ともに3単の場合の形で「3単が3単に3単を～した」(⇨表 14)。NOR-NORI-NORK 活用は他動詞の活用のもう一つのパターンで，他動詞文中に与格「～に」で表される間接目的語が含まれる時，動詞・助動詞は NOR-NORI-NORK 活用をする。NOR-NORI-NORK 活用においては NOR (直接目的語) は常に3単または3複である。ここでは

―表 14―

izan [他助] 直説法現在と過去 NOR-NORI-NORK 活用
NORI (間接目的語) が 3 単の場合

NORK (主語)			現 在	過 去
sg.	1	nik	di(zki)ot	ni(zki)on
	2	hik	di(zki)ok/n	hi(zki)on
	3	hark	di(zki)o	zi(zki)on
pl.	1	guk	di(zki)ogu	geni(zki)on
	2	zuk	di(zki)ozu	zeni(zki)on
	2′	zuek	di(zki)ozue	zeni(zki)oten
	3	haiek	di(zki)ote	zi(zki)oten

☆ -zki- は -it- 同様複数標識で，NOR＝直接目的語が複数の時現れる。sg. 2 現在の -k は主語が男性の時，-n は女性の時現れる。

NOR (直接目的語) は前文の harri bat, NORI (間接目的語) は sugeari。与格については表 15 参照。

sugeari: suge [名]「蛇」＋定形単数与格語尾 -ari で，「蛇に」。bota zion の間接目的語。与格は「～に」を表す格で，絶対格，能格とともに動詞・助動詞の活用に関わる格である。ここまで「蛇に(石を)投げ付けた」。

―表 15―

与格「～に」
生物・無生物とも

	母音で終わる語	子音で終わる語
不 定 形	-ri	-i
定形単数	-ari	-ari
定形複数	-ei	-ei

《そしてすごい力で石を蛇に投げ付けた》

26-8. eta hura, izuturik eta minez, buztana ebaki zion eta, zulorantz abiatu zen lasterrean.

hura: 主語
buztana: ebaki zion の直接目的語
ebaki zion: 動詞
eta: 接続詞
buztana ～ eta: 理由の副詞節
abiatu zen: 動詞

☆主文は，hura abiatu zen。izuturik eta minez は挿入句，buztana ～ eta は理由を表す副詞節。

eta:「すると」。

hura: 自動詞 abiatu zen の主語で 3 人称単数の代名詞の絶対格形。3 人称単数のものならば人間，動物，無生物にかかわらず使用することができる。ここでは蛇をさしているので「それは」。

―表 16―

人称代名詞
絶対格

sg.	1	ni	「私(が/を)」
	2	hi	「お前(が/を)」
	3	指示代名詞に同じ	
pl.	1	gu	「私達(が/を)」
	2	zu	「あなた・君(が/を)」
	2′	zuek	「あなた達・君達(が/を)」
	3	指示代名詞に同じ	

―表 17―

指示代名詞
絶対格

sg.	hau	「これ，この人」
	hori	「それ，その人」
	hura	「あれ，あの人」
pl.	hauek	「これら(の人達)」
	horiek	「それら(の人達)」
	haiek	「あれら(の人達)」

zulorantz： zulo [名]「穴」＋定形単数方向格語尾 -rantz,「穴の方へ」。

abiatu zen： abiatu は [自]「向かう」完了分詞。zen は izan [自助] 直説法過去 NOR 活用「3単は～した」(⇨ l. 10–1, 表 9)。

— 表 18 —

方向格「～の方へ」

	生物		無生物	
	母音で終わる語	子音で終わる語	母音で終わる語	子音で終わる語
不定形	-renganantz	-enganantz	-tarantz	-etarantz
定形単数	-arenganantz		-rantz	-erantz
定形複数	-enganantz		-etarantz	

lasterrean： [副]「駆け足で，凄い勢いで」。ここまで「するとそれ (蛇) は凄い勢いで穴の方へ向かった」。

izuturik eta minez： izuturik は izu-tu [自]「怯える」＋状態を表す副詞を作る語尾 -rik,「怯えて」。minez は min [名]「痛み」＋不定形具格語尾 -ez。「痛みで，痛がって」。

buztana： 他動詞 ebaki の目的語。buztan [名]「尻尾」＋定形単数絶対格語尾 -a,「尻尾を」。

ebaki zion： ebaki [他]「切る」完了分詞。zion は izan [他助] 直説法過去 NOR-NORI-NORK 活用,「3単が3単に3単を～した」(⇨ l. 26, zion の項，表 14)，ここでは NOR (直接目的語)＝buztana「尻尾を」，NORI (間接目的語)＝sugeari「蛇に」，NORK (主語)＝「弟が」。「弟が蛇に尻尾を切った」。

eta： [接続]「～なので」動詞部の直後 (複合形では助動詞，単純形ではその直後) に付いて「理由」を表す節を作る。

《すると蛇は，(弟が) 尻尾を切ったので，怯えて痛がり，凄い勢いで穴の方へ向かった》

28–9. **Baina, berriz, beste harri bat hartu zuen,**

(beste harri bat: 直接目的語; hartu zuen: 動詞)

baina： [接続]「しかし」。

berriz： [副]「再び」。

beste harri bat： hartu zuen の直接目的語。beste [形]「他の，別の」，harri [名]「石」不定形絶対格，bat [数]「1」も不定形絶対格。「もう一つの石を」。

hartu zuen： hartu は [他]「取る」完了分詞。zuen は izan [他助] 直説法過去 NOR-NORK 活用,「3単が3単を～した」(⇨ l. 25, 表 11)。主語は助動詞の形と文脈から「弟」であることがわかる。

《しかし，(弟は) もう一度，もう一つ石を取った》

29. **berriro ere sugeari jaurtitzeko asmoz ;**

(berriro ere: 副詞句; sugeari: 間接目的語; jaurtitzeko asmoz: 副詞句)

berriro ere： berriro は [副]「もう一度」，ere は [副]「～も」，「またしても」。

sugeari： suge [名]「蛇」＋定形与格語尾 -ari。jaurtitzeko の間接目的語 (⇨ l. 26)。「蛇に」。

jaurtitzeko asmoz： jaurtitzeko は jaurti [他]「投げつける，蹴り上げる」の -t(z)eko 形。ここでの -t(z)eko 形は l. 21–2. etxeratzeko の場合と同様，後続の名詞にかかる修飾語の役割を担う。asmoz は asmo [名]「つもり」＋不定形具格語尾 -z,「つも

りで」。『動詞の -t(z)eko 形＋asmoz』で「～するつもりで」。

《またしても蛇に投げつけるつもりで》

29-30. baina, zaharrenak orduan:

baina: [接続]「しかし」。

zaharrenak: zahar [形]「年長の，年取った」＋繋ぎの子音 -r-＋最上級語尾 -en＋定形単数能格語尾 -ak で，「最も年長の者が」の意。l. 25. Txikienak と同じ構造である。zahar の語末の振るえ音を保つため，-r を重ねている。「最も年長の者」とはここでは二人兄弟の兄の方を指す。この文では動詞が示されていないが，主語が能格なので，「言った」など，他動詞が省略されていると考えられる。

orduan: 「その時，すると」。

《しかしその時兄が(言った)》

31. — Etzazu hil,

etzazu: ez ezazu を発音どおりに綴った形。ez は否定辞，ezazu は izan [他助] 命令法 NOR-NORK，NOR (直接目的語)＝3 単，NORK (主語)＝zuk「あなたが」の場合の形で「あなたは 3 単を～しろ」。また，否定文は，否定辞 ez を動詞の複合形では助動詞の前に，単純形ではその前に置いて作る (⇨ l. 42. ez joatea, および l. 97, l. 104, l. 124 の ez の項)。

hil: [他]「殺す」，語根。命令は，『本動詞の語根＋助動詞の命令法』で表される。動詞 hil は語根と完了分詞形がたまたま同形である。助動詞 izan の命令法の NOR-NORK 活用は次のとおり。

— 表 19 —

izan [他助] 命令法 NOR-NORK 活用

NOR (直接目的語)＝3 単，3 複の場合

NORK (主語)		NOR (直接目的語) 3 単	NOR (直接目的語) 3 複
sg. 2	hik	ezak/n	itzak/n
pl. 2	zuk	ezazu	itzazu
2′	zuek	ezazue	itzazue

☆ 1 人称および 3 人称に対する命令は接続法で表される。(後述。l. 81-3 dadila および Lamia, l. 71-2, gaitezen の項)

《(あなたはそれを)殺すな》

31. utziozu bizirik.

utziozu: utz iezaiozu の短縮された形。utz は utz-i [他]「放っておく，そのままにしておく」の語根。iezaiozu は izan [他助] 命令法 NOR-NORI-NORK 活用，NOR (直接目的語) と NORI (間接目的語)＝3 人称単数，NORK＝zuk「あなたが」

— 表 20 —

izan [他助] 命令法 NOR-NORI-NORK 活用

NORI (間接目的語)＝3 単，NOR (直接目的語)＝3 単，3 複の場合

NORK (主語)		NOR (直接目的語) 3 単	NOR (直接目的語) 3 複
sg. 2	hik	iezaiok/n	iezazkiok/n
pl. 2	zuk	iezaiozu	iezazkiozu
2′	zuek	iezaiozue	iezazkiozue

の場合の形「あなたは3単に3単を～しろ」。命令法の NOR-NORI-NORK 活用は表20のとおり。

bizirik: bizi [形]「生きている」＋状態を表す副詞を作る語尾 -rik。「生きて」。

《(それを)生きたままにしておけ》

31-2. <u>ez digu</u> <u>kalterik</u> <u>egin</u> <u>eta</u>!

(kalterik：直接目的語；ez digu … egin：動詞；eta：接続詞)

ez digu: ez [副] 否定辞。digu は izan [他助] 直説法現在 NOR-NORI-NORK 活用, NOR (直接目的語)=3単, NORI

—表21—

izan [他助] 直説法現在と過去 NOR-NORI-NORK 活用

NOR (直接目的語)=3単/3複, NORI (間接目的語)=1複「私達に」の場合

「～が私達に3単/3複をする/した」

NORK (主語)			現在	過去
sg.	1	nik	—	—
	2	hik	di(zki)guk/n	hi(zki)gun
	3	hark	di(zki)gu	zi(zki)gun
pl.	1	guk	—	—
	2	zuk	di(zki)guzu	zeni(zki)gun
	2'	zuek	di(zki)guzue	zeni(zki)guten
	3	haiek	di(zki)gute	zi(zki)guten

(間接目的語)=1複, NORK (主語)=3単の場合で,「3単が私たちに3単を～する」(⇨ l. 26. zion の項)。

kalterik egin: kalterik は kalte [名]「被害」＋分格語尾 -rik。分格は, 否定文では「少しも～ない」, 肯定文では「少しでも～ある」の意を表す (不定形のみで定形単数, 定形複数はない)。kalte egin は [他]「被害を及ぼす」。

—表22—

分格

生物・無生物とも

	母音で終わる語	子音で終わる語
不定形	-rik	-ik

eta:「～なので」。

《(それは私達に)少しも害を及ばさなかったのだから》

33. Zaharrenak hitz hauek esateaz bat

zaharrenak: esateaz「言う」の主語。定形単数能格。「最も年長の者が→兄が」(⇨ l. 30)。

hitz hauek: esateaz の直接目的語。hitz [名]「言葉」不定形絶対格, hauek [形]「これらの～」絶対格。「これらの言葉を」。

esateaz bat: esateaz は esan [他]「言う」の -t(z)eaz 形。-t(z)eaz 形は -t(z)e 形の具格と考えられる。『動詞の -t(z)eaz 形＋bat』は「～すると同時に」を表す。esateaz bat は「言うと同時に」。

《兄がこれらの言葉を言うと同時に》

33-4. <u>zarata ikaragarri bat</u> <u>entzun zuten</u>.

(zarata ikaragarri bat：直接目的語；entzun zuten：動詞)

zarata ikaragarri bat: 他動詞 entzun zuten の目的語。

zarata [名]「騒音」不定形絶対格, ikaragarri [形]「ものすごい」不定形絶対格, bat [数]「1」も不定形絶対格。

entzun zuten： entzun は [他]「聞く」の完了分詞。zuten は izan [他助] 直説法過去 NOR-NORK 活用, NOR (直接目的語)=3単, NORK (主語)=3複の場合の活用形。「3複が3単を～した」(⇨ l. 21. zituzten の項, 表11)。

《彼らはものすごい音を聞いた》

34-5. **Trumoi handi batek edo egin izan balu bezalakoa.**
(主語: Trumoi handi batek edo; 動詞: egin izan balu; 接続詞+-koa: bezalakoa)

☆全体が前項の zarata ikaragarri bat と同格の名詞句。

trumoi handi batek edo： egin izan balu の主語で全体が能格。trumoi [名] は「雷」, handi [形]「大きな」, ともに不定形絶対格。batek は bat [数]「1」+不定形能格語尾 -ek。edo は語句に後置され,「～など；～か何か；だいたい」を表す。「一つの大きな雷か何かが」。

egin izan balu bezalakoa： egin [他]「する」完了分詞。ここでは雷が「鳴る」の意。izan は,

—表 23—
izan [他助] 条件法条件
NOR-NORK 活用
NOR (目的語)=3単／3複

	NORK (主語)		活用
sg.	1人称	nik	ban(it)u
	2	hik	bah(it)u
	3	hark	bal(it)u
pl.	1	guk	bagen(it)u
	2	zuk	bazen(it)u
	2′	zuek	bazen(it)u(z)te
	3	haiek	bal(it)u(z)te

☆ -it- は NOR が複数の時現れる。-z- は -it- とともに現れる繋ぎの子音。

一つ前の時制を表すため動詞の完了分詞の直後に置かれることがある。balu は, 助動詞 izan の条件法条件 NOR-NORK, NOR (直接目的語), NORK (主語) ともに3単の場合の形で「もし3単が3単を～したら」。bezalakoa は bezala「～のように」+位置属格語尾 -ko+定形単数絶対格語尾 -a で「～のような物・人」の意。～balu bezalakoa のように『条件法条件の動詞+bezala(koa)』で「あたかも～したかのように(ような物・人)」を表す。

《大きな雷か何かが鳴ったかのような音を》

35-6. **Bi mutilek, izuturik, lasterka alde egin zuten handik.**
(主語: Bi mutilek; 動詞: alde egin zuten)

bi mutilek： 他動詞 alde egin zuten の主語。bi「二人の」, mutilek は mutil [名]「青年」の定形複数能格。修飾語として数詞を伴う名詞はふつう不定形絶対格となるが, ここでのように定形になると,「その, くだんの」の意味が加わる。「その二人の青年は」(⇨ l. 18, mutil biak の項)。

izuturik： izu-tu [自]「怯える」+状態を表す副詞を作る語尾 -rik,「怯えて」(⇨ l. 3, zabaldurik の項)。

lasterka： laster [副]「間もなく, すぐに」+語尾 -ka,「大急ぎで, 走って」。

alde egin zuten： alde egin は [他]「去る, 逃げる」完了分詞。zuten は izan [他助]「3複が3単を～した」(⇨ l. 34, zuten の項)。alde egin は, 特に直接目的語を伴うわけではないが他動詞として扱われる動詞で NOR-NORK 活用をする。このような他動詞は他にもいくつかある。

handik： han [名/副]「あそこ(で, に)」の奪格形,「あそこから」。

《二人の青年は，怯えて，大急ぎでそこを去った》

〈訳〉 弟はすぐさま石を一つ拾い，蛇めがけて力を込めて投げつけました。すると蛇は，尻尾をもがれて，怯え，痛がりながら，あっというまに穴の方へ逃げました。しかし弟は，もう一度蛇に投げつけるつもりで，また石を拾い上げました。けれどもその時兄が言いました。

「殺すんじゃない，生かしておけ。おれたちに何もしなかったんだから。」

兄がそう言うと同時に，物凄い大音響が聞こえました。まるで大きな雷か何かのような音でした。二人の若者は，恐ろしくなって大慌てでそこから逃げ去りました。

Etxean, gertaturiko guztia kontatu zieten, bai gurasoei eta bai arrebei ere. Guztiak kezka eta ardura bizitan geratu ziren. Izan ere, etxetik hain hurbil zen Baltzolako lezean halako sugetzar bat izatea ikaratan bizitzeko moduko berria zen! Eta Baltzolako inguruetara gehiago ez joatea erabaki zuten anaia biek. Arrisku handi bat zen eta suge hura, bai ardientzat eta bai beraientzat.

37–8. **Etxean, gertaturiko guztia kontatu zieten,**

直接目的語 　動　詞

bai gurasoei eta bai arrebei ere.

間接目的語

etxean： etxe [名]「家」＋定形単数内格語尾 -an,「家で」。

gertaturiko guztia： 他動詞 kontatu zieten の直接目的語。gertaturiko は gerta-tu [自]「起こる」の完了分詞＋接尾辞 -riko。-riko は動詞の完了分詞に付加され「～したところの」の意の連体修飾語を作る。guztia は guzti [代]「全てのこと」＋定形単数絶対格語尾 -a。「起こったことの全てを」。

kontatu zieten： kontatu [他]「語る」完了分詞。zieten は izan [他助] 直説法過去 NOR-NORI-NORK 活用，NOR (直接目的語)＝3単，NORI (間接目的語)＝3複，NORK (主語)＝3複の場合の形で「3複が3複に3単を～する」(⇨l. 26, zion の項，表24)。ここでは NORK は「二人の兄弟が」，NORI は次項の gurasoei と arrebei。NOR は gertaturiko guztia。

bai gurasoei eta bai arrebei ere： “bai A eta bai B ere”

—表 24—

izan [他助] 直説法現在と過去 NOR-NORI-NORK 活用

NOR (直接目的語)＝3単/3複，NORI (間接目的語)＝3複

「～が3複に3単/3複を～する/～した」

NORK (主語)			現在	過去
sg.	1	nik	di(zki)et	ni(zki)en
	2	hik	di(zki)ek/n	hi(zki)en
	3	hark	di(zki)e	zi(zki)en
pl.	1	guk	di(zki)egu	geni(zki)en
	2	zuk	di(zki)ezu	zeni(zki)en
	2′	zuek	di(zki)ezue	zeni(zki)eten
	3	haiek	di(zki)ete	zi(zki)eten

で「A も B も」。ここでは A, B に当たる語が与格になっているので「A にも B にも」。gurasoei は guraso [名]「親」＋定形複数与格語尾 -ei で,「両親に」。arrebei は arreba [名]「男兄弟からみた姉または妹」＋定形複数与格語尾 -ei で,「姉妹たちに」。-a で終わっている語に複数格標識が付加されるとき -a が落ちる。すなわち与格では *arrebaei でなく arrebei となる。

《家で,(彼らは)両親にも姉妹たちにも,起こった全てのことを語った》

38–9. **Guztiak kezka eta ardura bizitan geratu ziren.**

主語 / 副詞句 / 動詞

guztiak: guzti [代]「全員」＋定形複数絶対格語尾 -ak,「全員が」。自動詞 geratu ziren の主語。

kezka eta ardura bizitan: kezka, ardura ともに [名]「心配, 不安」不定形絶対格。eta「〜と〜」。bizitan は bizi [形]「酷い, 激しい」＋不定形内格語尾 -tan「〜において, 〜の中で」。kezka と ardura にかかる。「激しい不安の中に」。

geratu ziren: geratu は gera-tu [自]「(ある状態に) なる, 陥る」完了分詞。ziren は izan [自助] 直説法過去 NOR 活用, NOR＝3 複,「3 複が〜した」(⇨ I. 15, 表 9)。「(3 複) が陥った」。

《全員激しい不安に陥った》

39–41. **Izan ere, etxetik hain hurbil zen Baltzolako lezean**

連体修飾語 / 被修飾語

主語

halako sugetzar bat izatea ikaratan bizitzeko moduko

izatea の主語 / 動詞の -t(z)ea 形 / 補語

berria zen!

動詞

☆長い文だが, 骨組みは SCV の型。

izan ere:「それというのも, それもそのはず」。

etxetik hain hurbil zen: Baltzolako lezean にかかる連体修飾節。etxetik は etxe [名]「家」＋定形単数奪格語尾 -tik,「家から」。hain [副]「あんなに」形容詞, 副詞を修飾する。hurbil は [副]「近くに」。zen は izan [自] 直説法過去 NOR 活用単純形, NOR (主語)＝3 単の場合の形だが, ここでは egon と同じく「存在」を表し, Baltzolako lezean にかかる連体修飾形で「あったところの」。ここまで「家からあんなに近くにあったところの」。

—表 25—

奪格

	生物		無生物	
	母音で終わる語	子音で終わる語	母音で終わる語	子音で終わる語
不定形	-rengandik	-engandik	-tatik	-etatik
定形単数	-arengandik		-tik	-etik
定形複数	-engandik		-etatik	

Baltzolako lezean: Baltzolako「バルツォラの」, lezean は leze [名]「洞穴」(leze-zulo に同じ)＋定形単数内格語尾 -an。「洞穴の中に」。

halako sugetzar bat izatea: 全体が自動詞 zen の主語で絶対格。halako [連]「あのような」。sugetzar [名]「大蛇」, -tzar

は「大きな～」を表す指大語尾。bat「1匹の」絶対格。ここまで izatea の主語。izatea は izan [自]「いる，ある，～である」の -t(z)ea 形で「いること，～であること」の意。動詞の -t(z)e 形の定形単数絶対格。動詞の -t(z)e 形は普通名詞のように格変化することができるが，その際には定形単数の語尾を取る。「あのような大きな蛇がいることは」。

ikaratan bizitzeko moduko berria： 全体が zen の補語で絶対格。ikaratan は ikara [名]「恐怖」＋不定形内格語尾 -tan「恐怖の中で」。bizitzeko は bizi izan [自]「生きる，暮らす，住む」の -t(z)eko 形で，l. 21-2, l. 29 の -t(z)eko と同じく後続の名詞にかかる。moduko は modu [名]「方法，状態」の定形単数位置属格で，berria にかかる。berria は berri [名]「ニュース」定形単数絶対格。『動詞の -t(z)eko 形＋moduko＋名詞句』で「～するような；～するべき；～するにふさわしい～」。「恐怖の中で暮らすにふさわしいニュース」。なお，bizi izan の -t(z)eko 形は，本来 bizi izateko となるべきところだが，より簡潔な形として bizitzeko がよく使われる。bizi izan のような熟語的な動詞によく見られる傾向である (⇨l. 132, faltako の項)。

zen：＜izan [自] 直説法過去 NOR 活用，「3単は～だった」(⇨表9)。ここまで「恐怖の中で暮らすべきニュースだった」。

《それというのも，家からあんなに近くにあるバルツォラの洞穴にあのような大きな蛇がいるということは，恐怖の中で暮らすべきニュースだったからだ》

41-3. **Eta** **Baltzolako inguruetara gehiago ez joatea**
接続詞　直接目的語
erabaki zuten **anaia biek.**
動　詞　主　語

Baltzolako inguruetara gehiago ez joatea： 他動詞 erabaki zuten の直接目的語。Baltzolako「バルツォラの」。inguruetara は inguru [名]「周囲，近く」＋定形複数方格語尾 -etara,「周囲へ」。gehiago [副]「もっと」，否定文中で用いられると「もうこれ以上～ない」。ez joatea の ez は否定辞。joatea は joan [自]「行く」の -t(z)ea 形で他動詞 erabaki の目的語，「行くことを」(⇨l. 41, izatea の項) だが，否定辞を伴うので「行かないことを」。この ez の位置に注意。-t(z)ea 形や -t(z)eko 形などでは否定辞 ez はその直前に置く。ここまで「バルツォラの周りにはもうこれ以上行かないことを」。

erabaki zuten： erabaki は [他]「決める」完了分詞。zuten は izan [他助] 直説法過去 NOR-NORK 活用，NOR＝3単，NORK＝3複，「3複が3単を～した」(⇨l. 21, zituzten の項，表11)。「(彼らはそれを) 決めた」。

anaia biek： 他動詞 erabaki zuten の主語。anaia [名]「男兄弟」。biek は bi「二人の」＋定形複数能格語尾 -ek。anaia にかかる。「二人の兄弟は」(⇨l. 35, bi mutilek の項)。

《それで二人の兄弟はバルツォラの近くへもう行かないことに決めた》

43-4. **Arrisku handi bat** **zen** **eta** **suge hura,** **bai ardientzat**
主格補語　動詞　接続詞　主語
eta bai beraientzat.

arrisku handi bat： 主格補語。arrisku [名]「危険」，handi [形]「大きな」はともに不定形絶対格。bat「一つの」絶対格。「一つの大きな危険」。zen は＜izan [自]「3単は～だった」(⇨l. 15, ziren の項，表9)。

eta：[接続]「～なので」(⇨l. 27, ebaki zion eta の項)。

suge hura：自動詞 zen の主語。suge [名]「蛇」不定形絶対格，hura [形]「あの」。

bai ardientzat eta bai beraientzat：“bai A eta bai B”で「A も B も」。l. 37-8 の“bai A eta bai B ere”に同じ。ardientzat は ardi [名]「羊」＋定形複数目的格語尾 -entzat，「羊たちにとって」。目的格は「～のために，～にとって」を表し，その標識は -entzat。

beraientzat は beraiek [代]「彼ら自身」の定形複数目的格「彼ら自身にとって」。be-raiek は3人称複数代名詞 haiek「彼(女)ら」の強調形とされる。

—表 26—

目的格

生物・無生物とも

	母音で終わる語	子音で終わる語
不定形	-rentzat	-entzat
定形単数	-arentzat	
定形複数	-entzat	

《その蛇は羊たちにとっても彼ら自身にとっても大きな危険だったので》

〈訳〉 家で，兄弟は，両親にも姉妹たちにも，起こった事を洗いざらい語りました。家族たちは全員激しい不安に襲われました。というのも，家からあんなに近くにあるバルツォラの洞穴にそんな大蛇が住んでいると言う事は，びくびくして暮らさねばならぬような知らせだったからです。

その蛇は，羊にとっても彼ら自身にとっても非常に危険な存在だったので，二人の兄弟はバルツォラの周辺にはもう近寄らないことに決めました。

Guzti hau gertatu eta laster, anaia zaharrenak soldaduzkara joan behar izan zuen, eta urrutira, gainera!

Hilabete batzu igaro ziren, eta Gabon Gaua heldu zen. Anaia zaharrena etxe-txokoaz, etxekoez eta bihotzeko bere maiteaz gogoratzen zen soldadu zegoen lekuan, eta tristetu egin zen… hain ederki ospatzen zituzten jaiak bere etxean…!

---

45. Guzti hau gertatu eta laster,

guzti hau：自動詞 gertatu の主語。guzti [代]「全てのこと」不定形絶対格，hau [形]「この」絶対格。「この全てのことが」。

gertatu eta laster：gertatu [自]「起こる」完了分詞，助動詞 zen が省略されている。laster [副]「間もなく」。『動詞の完了分詞＋eta laster』で「～してすぐ」。

《この全てのことが起こってすぐ》

45-7. anaia zaharrenak soldaduzkara joan behar izan zuen,
(主語: anaia zaharrenak; 動詞: joan behar izan zuen)

eta urrutira, gainera!

anaia zaharrenak：他動詞 joan behar izan zuen の主語。anaia [名]「兄弟」不定形絶対格，zaharrenak は zahar [形]「年長の」＋繋ぎの子音 -r-＋最上級語尾 -en＋定形単数能格語尾 -ak

「最年長の～が」で anaia にかかる。「最年長の兄弟が→長男が」。

soldaduzkara: soldaduzka [名]「兵役」＋定形単数方格語尾 -ra,「兵役へ」。

joan behar izan zuen: joan は [自]「行く」。behar izan は動詞の完了分詞を直前に伴い，「～しなければならない」を表す。つまりここでは「行かなければならない」。この場合 joan は他動詞 behar izan の支配下に置かれるので，全体が他動詞の活用をする。zuen は izan [他助] 直説法過去 NOR-NORK 活用，NOR, NORK ともに3単，「3単が3単を～した」(⇒l. 25, 表 11)。次に izan だが，behar zuen が「(いつも) 必要としていた」を表すのに対し，behar izan zuen は「(その時) 必要になった」を表す。izan が不完了分詞，未来分詞の形をとった場合も含めて比べると：

behar zuen　「(過去において常に) 必要だった」
behar izan zuen　「(過去においてその時) 必要になった」
behar izaten zuen　「(過去において時々) 必要としていた」
behar izango zuen　「(過去において) 必要だったろう」

eta:「そして」。

urrutira: urruti [名]「遠く」＋方格語尾 -ra「～へ」で,「遠くへ」。

gainera: [副]「そのうえ」。たいてい文末に置かれる。

《兄が兵役へ行かねばならなくなった，そのうえ遠くへ》

48. Hilabete batzu igaro ziren.

hilabete batzu: 自動詞 igaro ziren の主語。hilabete [名]「一か月」不定形絶対格，batzu [形]「いくつかの」，不定形絶対

格。「何か月かが」。

igaro ziren: igaro は [自]「(時)が過ぎる」完了分詞。ziren は izan [自助] 直説法過去 NOR 活用「3複が～した」(⇒l. 15, 表 9)。

《数か月が過ぎた》

48-9. eta Gabon Gaua heldu zen.

Gabon Gaua: [名]「クリスマス・イブ」定形単数絶対格，自動詞 heldu zen の主語。Gabon は「クリスマスの日 (12月25日)」, gau は「夜」。

heldu zen: heldu [自]「到来する」完了分詞，zen は izan [自助] 直説法過去 NOR 活用「3単が～した」。(⇒l. 28, 表 9)。

《そしてクリスマス・イブがやって来た》

49-50. Anaia zaharrena etxe-txokoaz, etxekoez eta bihotzeko bere maiteaz gogoratzen zen

(主語: Anaia zaharrena / 副詞句: etxe-txokoaz, etxekoez eta bihotzeko bere maiteaz / 動詞: gogoratzen zen)

anaia zaharrena: 自動詞 gogoratzen zen の主語。「長男」定形単数絶対格 (⇒l. 45)。

etxe-txokoaz eta bihotzeko bere maiteaz: etxe-txoko は etxe [名]「家」と txoko [名]「隅っこ」が合わさった複合語で「暖かな，居心地の良い家庭」のニュアンスを持つ語。複合語である事を示すためにハイフンで繋ぐ。-az は定形単数具格語尾「～について」。etxekoez は etxe [名]「家」＋定形単数位置属格語尾 -ko＋定形複数具格語尾 -ez で「家のものたちについて」。etxeko の原義は「家の」だが定形語尾（ここでは具格の定形語尾 -ez）が付いて名詞化し「家人，家族の者」の意味になる。eta は [接続]

「そして」。bihotzeko bere maiteaz の bihotzeko は bihotz [名]「心」+定形単数位置属格語尾 -eko。「心の」。bere [連]「彼自身の」。maiteaz は maite [名]「愛する人，恋人」+定形単数具格語尾 -az。「懐かしいわが家について，そして心の恋人について」。

gogoratzen zen：gogoratzen は gogora-tu [自]「思い出す」の不完了分詞。『具格の名詞(句)+gogora-tu』は「～を思い出す」。zen は＜izan [助自]「3単が～した」。また，このような，本動詞の不完了分詞と助動詞の過去形の組み合わせ（過去時制不完了相）は「過去における習慣的行為」を表す。(その時/去年/先月/以前 etc. 習慣的に～していた)。

50-1. soldadu zegoen lekuan, …

連体修飾節　　被修飾語

soldadu は [名]「兵士」不定形絶対格。soldadu のあとには bezala [接続]「～として」が省略されていると考えられる。zegoen は [自] egon「いる，ある」直説法過去 NOR 活用単純形，NOR (主語)=3単の場合の形。つまり dago の過去で「3単がいた」。ここでは次の名詞 lekuan にかかる連体修飾形で「3単がいたところの～」(⇨l. 6, dago および l. 40, zen の項)。l. 23 の zituzten 同様 zegoen も -n で終わっているので連体形の標識 -n は省略されるが，強勢は -en に置かれる。egon [自] の直説法過去 NOR 活用，単純形は表27のとおり。lekuan は leku [名]「場所」+定形単数内格語尾 -an，「場所において」。ここまで「兵士として(彼が)いた所において」。

《兵士として(彼が)いた所において長男は家を，家族を，そして心の恋人を思い出していた》

—表 27—

egon [自] 直説法過去 NOR 活用単純形

	NOR (主語)		活用	
sg.	1	ni	nengoen	「私はいた」
	2	hi	hengoen	「お前はいた」
	3	hura	zegoen	「彼(女)はいた」
pl.	1	gu	geunden	「私達はいた」
	2	zu	zeunden	「あなた・君はいた」
	2′	zuek	zeundeten	「あなた達・君達はいた」
	3	haiek	zeuden	「彼(女)らはいた」

51. eta tristetu egin zen …

tristetu egin zen：tristetu [自]「悲しむ」完了分詞。egin は元来 [他]「する，行う，作る」の意だが，本動詞の直後についてその本動詞を強調する役目を果たすことがある。バスク語では一文中の最も強調したい語句は動詞部の直前に置かれるのが原則だが，動詞そのものを強調したいときは，この様に動詞部の本動詞の直後に egin を置く。この egin により「喜んだり怒ったりしたのではなしに，悲しむということをしたのだ」という内容が表現される。その際，分詞としての変化は本動詞（ここでは tristetu）でなく egin が担うことになる。つまりここでは過去完了相の文なので egin は完了分詞であるが，不完了相，未来相の場合はそれぞれ次のようになる。

tristetu egiten zen　(過去不完了相＝悲しんでいた)
tristetu egingo zen　(過去未来相＝悲しんだだろう)

zen は izan [自助] 直説法過去 NOR 活用「3単が～した」(⇨ l. 11, 表 9)。主語は anaia zaharrena。

《そして(長男は)悲しんだ》

51–2. hain ederki ospatzen zituzten jaiak bere etxean…!

動　詞　　直接目的語

hain ederki: hain [副]「あんなに」, ederki [副]「素晴らしく」。

ospatzen zituzten: ospatzen は ospa-tu [他]「祝う」の不完了分詞, zituzten は izan [他助] 直説法過去 NOR-NORK 活用, NOR, NORK ともに 3 複,「3複が3複を～した」(⇨ l. 21, 表 11)。「(彼らはそれらをいつも) 祝っていた」。

jaiak: jai [名]「祭り」＋定形複数絶対格語尾 -ak。「祭りを」。この語は複数形で用いられるのが普通。ここでの祭りとはクリスマスを指す。

bere etxean: bere [連]「彼の」, etxean は etxe [名]「家」＋定形単数内格語尾 -an「家において」。

《彼の家ではあんなにも素晴らしく祭りの祝いをするならいだったのだ…!》

〈訳〉 これらの事が起こって間もなく，兄が兵役を勤めに行かなければならなくなりました。それも遠くへ。

数か月が過ぎ，クリスマス・イブがやって来ました。長男は，兵役の地で懐かしい家を，家族を，そして愛する恋人を思い出し，悲しくなってしまいました…彼の家では本当に素晴らしくクリスマスを祝うならいでしたから…

Honelako pentsakizunetan zegoela, Baltzolako haitzuloa ere etorri zitzaion gogora, eta bere golkorako esan zuen: “Hantxe banengo, etxetik hurbil …!”

Pentsatu bazuen, pentsatu zuen! Ziplo!, gizon itsusi eta zatar bat agertu zitzaion, eta ahots ahul batez, galdetu zion:

— Baltzolako haitzulora joan nahi duzu?

— Bai, Gabon Gaua etxekoekin batera igaro nahi nuke nik!

53. Honelako pentsakizunetan zegoela,

副詞句　　動詞＋-la

☆時を表す副詞節。

honelako pentsakizunetan: honelako [連]「このような」。pentsakizunetan は pentsakizun [名]「考え，思索」＋定形複数内格語尾 -etan,「考えにおいて，考えの中に」。

zegoela: zegoen ＜[自] egon, 直説法現在 NOR 活用単純形, NOR＝3単,「3単がいた」(⇨ l. 51, 表 27)＋時を表す副詞節を作る語尾 -la。接尾辞 -la は主に動詞の単純形または継続相の動詞に付いて「～しているその時」を表す。同じく時を表す接尾辞 -ean「～する時」(⇨ l. 22, zenean の項) に比べると,「時」の範囲が狭く,「～しているまさにその瞬間」の感じがある。

《この様な思索の中にいたその時》

53-4. **Baltzolako haitzuloa ere etorri zitzaion gogora,**
主 語 動 詞

Baltzolako haitzuloa ere: etorri zitzaion の主語。haitzuloa は haitzulo [名]「洞穴」＋定形単数絶対格語尾 -a。ere は「～も」。「バルツォラの洞穴も」。

etorri zitzaion gogora: gogora は, gogo [名]「思い」＋定形単数方格語尾 -ra で「思いへ」。etorri は [自]「来る」, 完了分詞。gogora etor-ri で「頭に浮かぶ, 思い出される」。zitzaion は izan [自助] 直説法過去 NOR-NORI 活用, NOR (主語)=3単, NORI (間接目的語)=3単の場合の形で「3単が3単に～した」(⇨ l. 24, zitzaien, 表 12)。「3単に」は「長男に」を指す。語順が gogora etorri zitzaion ではなく etorri zitzaion gogora となっているのは, この文の galdegaia (最も言いたい事) が Baltzolako haitzuloa ere であり, したがってこの部分が動詞 etorri の直前の位置を占めねばならなかったため。この語順によって「バルツォラの洞穴も」の部分が強調される。

《バルツォラの洞穴も頭に浮かんだ》

54-5. **eta bere golkorako esan zuen:**

bere golkorako: bere は [連]「彼自身の」, golkorako は golko [名]「ふところ」に接尾辞 -rako が付いた形。-rako はさらに方格語尾 -ra＋位置属格語尾 -ko に分析できる。

esan zuen: esan は [他]「言う」完了分詞, bere golkorako esan で「独り言を言う; 心の中で呟く」。zuen は izan [他助] 直説法過去 NOR-NORK 活用, NOR, NORK ともに3単,「3単が3単を～した」(⇨ l. 25, 表 11)。

《そして独り言を言った》

55-6. **"Hantxe banengo, etxetik hurbil ... !"**

hantxe: han [副]「あそこに・で」＋強調の接尾辞 -txe,「まさにあそこに・で」。

banengo: egon [自]「いる, ある」の条件法条件 NOR 活用, 単純形, NOR (主語)=ni「私は」の場合の形で「もし私がいたら」。仮定を表す表現の代表的なものとして, 直説法を用いるやり方と, 条件法を用いるやり方があるが, 前者はある行為や動作や状態が実現可能な場合, または実現可能とみなされる場合に用いられ, 後者は事実に反する仮定を表すのに用いられる。etxetik は etxe [名]「家」＋定形単数奪格語尾 -tik,「家から」。hurbil は [副]「近くに」。

《「(ぼくが) あそこにいればなあ, 家の近くに...」》

— 表 28 —

egon [自] 条件法条件 NOR 活用単純形

		NOR (主語)	活用	
sg.	1	ni	banengo	「もし私がいたら」
	2	hi	bahengo	「もしお前がいたら」
	3	hura	balego	「もし彼(女)がいたら」
pl.	1	gu	bageunde	「もし私たちがいたら」
	2	zu	bazeunde	「もしあなたがいたら」
	2′	zuek	bazeundete	「もしあなたたちがいたら」
	3	haiek	baleude	「もし彼(女)らがいたら」

57. **Pentsatu bazuen, pentsatu zuen!**

pentsatu は [他]「考える」完了分詞, bazuen は zuen＜izan

[他助] 直説法過去 NOR-NORK 活用,「3単が3単を〜した」に条件を表す接頭辞 ba-「もし〜なら」が付いた形で，ここまで「3単が3単を考えたなら」。pentsatu zuen は「考えた」。このように文字どおりに訳すと,「彼がそれを考えたら考えた」となるが,『〈完了分詞＋ba-＋助動詞の直説法過去〉＋〈過去完了相の文〉』で，起こってしまったことへの後悔，慚愧を表す事がある。ここでは「まさかそんな事を考えるとは!」「そんな事を考えるからこんな事になった」。

《こともあろうにそんな事を考えてしまった》

57-8. **Ziplo !, gizon itsusi eta zatar bat agertu zitzaion,**

主　語　　　　　　　　動　詞

ziplo： [副]「突然」，ここでは何かが突然現れた時の擬態音として間投詞のように使われている。

gizon itsusi eta zatar bat： 自動詞 agertu zitzaion の主語で全体が絶対格。gizon は [名]「男」，itsusi は [形]「醜い」，zatar は [形]「汚い」。いずれも不定形絶対格。bat は「一人の」不定形絶対格。itsusi, zatar, bat ともに gizon にかかる。最後の修飾語 bat によってこの名詞句全体が絶対格となっている (⇨ l. 2)。「醜く汚い一人の男」。

agertu zitzaion： agertu [自]「現れる」 完了分詞，zitzaion ＜izan [自助] 直説法過去 NOR-NORI 活用， NOR (主語)，NORI (間接目的語) ともに3単,「3単が3単に〜した」(⇨ l. 54, 表 12)。ここでは NOR は gizon 〜 bat, NORI は「長男」。「醜く汚い一人の男が長男に現れた」。

《突然，ドロン！ と一人の醜く汚い男が(彼に)現れた》

58-9. **eta ahots ahul batez, galdetu zion :**

ahots ahul batez： ahots [名]「声」，ahul [形]「弱々しい」，ともに不定形絶対格。batez は bat [数]「一つ(の)」＋不定形具格語尾 -ez「一つの〜でもって」。最後の修飾語 batez により句全体が具格となる (⇨ l. 2)。「ひとつの弱々しい声でもって」。

galdetu zion： galdetu [他]「尋ねる」 完了分詞。zion は izan [他助] 直説法過去 NOR-NORI-NORK 活用，NOR (直接目的語)，NORI (間接目的語)，NORK (主語) すべて3単,「3単が3単に3単を〜した」(⇨ l. 26, 表 14)。ここでは「その男が長男に(次のことを)尋ねた」。

《そして弱々しい声で(その男が長男に次のことを)尋ねた》

60. **— Baltzolako haitzulora joan nahi duzu?**

Baltzolako haitzulora： haitzulora は haitzulo「洞穴」＋定形単数方格語尾 -ra。「バルツォラの洞穴へ」。

joan nahi duzu： joan [自]「行く」。nahi izan は [他]「欲する，望む」だが，動詞の完了分詞の直後に置かれ，「〜したい」を表す。ここでは「行きたい」。この場合，動詞の完了分詞は nahi izan の支配下に置かれ，全体が他動詞の活用をする。nahi izan は l. 46 の behar izan と同様の使い方をする動詞である。duzu は izan [他助] 直説法現在 NOR-NORK 活用，NOR (直接目的語)＝3単，NORK (主語)＝zuk「あなたが」の場合の形「あなたが3単を〜する」(⇨ 表 5)。joan nahi duzu は「あなたは行きたい」。

《「バルツォラの洞穴へ(君は)行きたいのか」》

61–2. — Bai, **Gabon Gaua** etxekoekin batera **igaro nahi nuke** **nik**!

（Gabon Gaua：直接目的語　igaro nahi nuke：動詞　nik：主語）

bai：[副] 肯定辞「はい，ええ」。

Gabon Gaua：定形単数絶対格，他動詞 igaro nahi nuke の直接目的語で「クリスマス・イブを」。

etxekoekin batera：etxekoekin は etxe [名]「家」＋定形単数位置属格語尾 -ko＋定形複数共格語尾-ekin「～とともに」で，「家人達とともに」。etxeko の原義は「家の」だが，定形語尾をさらに付加して「家の者，家族」の意になる。ここでは共格の定形語尾が付いている（⇨ l. 51）。共格は「～とともに，～と一緒に」を表す格。batera は「一緒に」。『共格形の語句＋batera』で「～と一緒に，～と同時に」。

—表 29—

共格「～とともに」

生物・無生物とも

	母音で終わる語	子音で終わる語
不定形	-rekin	-ekin
定形単数	-arekin	
定形複数	-ekin	

igaro nahi nuke：igaro [他]「過ごす」，nahi izan[他] は動詞の完了分詞を直前に伴い「～したい」（⇨ l. 60）。nuke は izan [他助] 条件法帰結現在 NOR-NORK 活用，NOR（直接目的語）＝3単，NORK（主語）＝nik「私が」の場合の形（⇨ 表 30）。条件法帰結は，条件節なしでそれだけ独立して，実現の可能性の低い事柄を表したり，婉曲表現として用いられる。ここでは nuke でなく直説法の dut を用いてもよいところだが婉曲な感じを出すため nuke が使われている。

—表 30—

izan [他助] 条件法帰結現在

NOR-NORK 活用

NOR（直接目的語）＝3単／3複

		NORK（主語）	活用
sg.	1	nik	n(it)u(z)ke
	2	hik	h(it)u(z)ke
	3	hark	l(it)u(z)ke
pl.	1	guk	gen(it)u(z)ke
	2	zuk	zen(it)u(z)ke
	2′	zuek	zen(it)u(z)kete
	3	haiek	l(it)u(z)kete

☆ -it- は直接目的語が3複の時現れる複数標識，-z- は -it- とともに現れる繋ぎの子音。

—表 31—

人称代名詞　能格

sg.	1	nik	「私が」
	2	hik	「お前が」
	3	hark	「彼(女)が」
pl.	1	guk	「私達が」
	2	zuk	「あなた・君が」
	2′	zuek	「あなた達・君達が」
	3	haiek	「彼(女)らが」

☆ 3人称は指示代名詞からの転用。

nik：この文の主語。人称代名詞 ni の能格形「私が」（⇨ 表 31）。

《「ええ，クリスマス・イブを家族とともに過ごしたいのです」》

〈訳〉こんなことを考えていると，バルツォラの洞穴も思い出され，ひとり呟きました，「あそこにいるんだったらなあ，家の近くに…」

よせばいいのに彼がそんな事を考えると，突然ドーン！と，一人の醜く汚らしい男が目の前に現れました。そして弱々しい声で尋ねました。

「バルツォラの洞穴へ行きたいのかい」

「ええ，クリスマス・イブを家族と一緒に過ごしたいなあと思っているんです!」

— Baltzolako haitzulora neuk eramango zaitut txispa batek dirauen denboran ; hara heldu ondoren, nik emango dizkizudan bi gauza etxera eramango dituzula agintzen badidazu.

— Ongi da ! Eramango ditut zuk esaten dituzun bi gauza horiek.

Hitzok amaitzea eta Baltzolako haitzuloan aurkitzea gauza bat bera izan zen, eta mutilarekin batera hantxe agertu zen gizon itsusi eta zatar hura ere. Eta hark esan zion :

— Itxaron apurtxo batean, etxera eramango dituzula agindu dizkidazun gauzak oraintxe ekarriko dizkizut eta !

63. **Baltzolako haitzulora neuk eramango zaitut**

主語　　動詞

Baltzolako haitzulora: 「バルツォラの洞穴へ」(⇨ l. 60)。

neuk: 他動詞 eramango zaitut の主語。nik [代]「私が」(ni の能格形) の強調形で「ほかならぬ私が」。

eramango zaitut: eramango は eraman [他]「連れて行く」未来分詞, zaitut は izan [他助] 直説法現在 NOR-NORK 活

— 表 32 —

izan [他助] 直説法現在と過去 NOR-NORK 活用

NOR (直接目的語)＝zu「あなた・君を」

「～があなた・君を～する/した」

	NORK (主語)		現在	過去
sg.	1	nik	zaitut	zintudan
	2	hik	—	—
	3	hark	zaitu	zintuen
pl.	1	guk	zaitugu	zintugun
	2	zuk	—	—
	2′	zuek	—	—
	3	haiek	zaituztete	zintuzteten

用, NORK (主語)＝nik「私が」, NOR (直接目的語)＝zu「あなたを」の場合の活用形,「私が (nik) あなたを (zu) ～する」(⇨上表)。eramango zaitut は「私があなたを連れて行こう」。なお, eramango zaitut は, 未来分詞と現在時制の組み合わせで, 現在から見た未来を表す (現在時制未来相)。

《「この私がバルツォラの洞穴へ君を連れて行こう」》

64. **txispa batek dirauen denboran ;**

連体修飾節　　被修飾語

☆全体が副詞句となっている。

txispa batek: dirauen の主語。txispa [名]「火花」, batek は bat「一つの」の能格形で txispa にかかる。「一つの火花が」。

dirauen： 動詞 dirau に連体節を作る語尾 -en が付いた形で denboran にかかる。dirau は，iraun [他]「持続する」直説法現在 NOR-NORK 活用単純形，NOR (直接目的語)＝3単，NORK (主語)＝3単の場合の形 (⇨右表)。「3単が持続する」。iraun は l. 36 の alde egin 同様，特に直接目的語を伴うわけではないが他動詞として扱われる。NORK (主語) は txispa batek。ここまで「一つの火花が持続するところの」。

—表 33—

iraun [他] 直説法現在

NOR-NORK 活用単純形

		NORK (主語)	活用
sg.	1	nik	diraut
	2	hik	dirauk/n
	3	hark	dirau
pl.	1	guk	diraugu
	2	zuk	dirauzu
	2′	zuek	dirauzue
	3	haiek	diraute

denboran： denbora [名]「時間」＋定形単数内格語尾 -n。「時間において」。ここまで「一つの火花が続く時間において」だが，つまり「非常に短い時間で，一瞬のうちに」。

《火花が一つ閃く間に》

64-5. **hara heldu ondoren,**

hara は [副]「あそこへ，そこへ」。heldu は [自]「着く」完了分詞。ondoren は [接続] 動詞の完了分詞を直前に伴い「～したあと」。

《そこに着いた後》

65-6. **nik emango dizkizudan bi gauza etxera eramango dituzula** **agintzen badidazu**

直接目的語 (名詞節)　動詞

☆複雑に見えるが，骨格となる型は『直接目的語＋動詞』。直接目的語にあたるのは名詞節 nik ～ dituzula，動詞は agintzen badidazu。まず動詞部から見ていこう。

agintzen badidazu： agintzen は agin-du [他]「約束する」の不完了分詞，badidazu は didazu＜izan [他助] 直説法現在 NOR-NORI-NORK 活用，NOR (直接目的語)＝3単，NORI

—表 34—

izan [他助] 直説法現在と過去 NOR-NORI-NORK 活用

NOR (直接目的語)＝3単/3複，

NORI (間接目的語)＝niri「私に」

「～が私に3単/3複を～する/した」

		NORK (主語)	現在	過去
sg.	1	nik	—	—
	2	hik	di(zki)dak/n	hi(zki)dan
	3	hark	di(zki)t	zi(zki)dan
pl.	1	guk	—	—
	2	zuk	di(zki)dazu	zeni(zki)dan
	2′	zuek	di(zki)dazue	zeni(zki)daten
	3	haiek	di(zki)date	zi(zki)daten

☆ -zki- は直接目的語が複数の時現れる。sg. 2 の -k は主語 hik が男性の時，-n は女性の時に現れる。

(間接目的語)=niri「私に」, NORK (主語)=zuk「あなたが」の場合の形「あなたが私に3単を～する」に条件を表す接頭辞 ba-「もし～なら」が付いたもの (⇒ 表 34)。「もしあなたが私に約束するなら」。

☆次に直接目的語を見て行こう。まず bi ～ dituzula から：

bi gauza etxera eramango dituzula： bi は「二つの」, gauza は［名］「物」不定形絶対格。eramango dituzu(la) の目的語にあたる。「二つの物を」。etxera は etxe「家」＋定形単数方格語尾 -ra,「家へ」。eramango は eraman［他］「運ぶ，持って

— 表 35 —

izan［他助］直説法現在と過去 NOR-NORI-NORK 活用

NOR (直接目的語)=3単/3複, NORI (間接目的語)=zuri「あなた・君に」/zuei「あなた達・君達に」

「～があなた(達)に3単/3複を～する/した」

NORK (主語)			現在	過去
sg.	1	nik	di(zki)zu(e)t	ni(zki)zu(e)n
	2	hik	—	—
	3	hark	di(zki)zu(e)	zi(zki)zu(e)n
pl.	1	guk	di(zki)zu(e)gu	geni(zki)zu(e)n
	2	zuk	—	—
	2′	zuek	—	—
	3	haiek	di(zki)zu(e)te	zi(zki)zu(e)ten

☆ -zki- は直接目的語が複数の時，-e- は間接目的語が zuei の時現れる。

行く」の未来分詞。dituzula は dituzu＜izan［他助］直説法現在 NOR-NORK 活用, NOR (直接目的語)=3複, NORK (主語)=zuk,「あなたが3複を～する」(⇒ 表 5) に，名詞節を作る語尾 -la が付いた形。「あなたが二つの物を持って行くだろう，と」。

☆残った nik emango dizkizudan は，bi gauza を修飾する連体修飾節。

nik： ni の能格形で emango dizkizudan の主語「私が」。

emango dizkizudan： emango は eman［他］「与える，渡す」の未来分詞。dizkizudan は dizkizut＜izan［他助］直説法現在 NOR-NORI-NORK 活用，NOR (直接目的語)=3複，NORI (間接目的語)=zuri「あなたに」，NORK (主語)=nik「私が」の場合の形で「私があなたに3複を～する」(⇒ 表 35) の連体形。bi gauza を修飾する。従ってこの連体修飾節は「私があなたに与えるであろうところの (bi gauza=3複)」。

《私があなたに渡す二つの物を家へ持って行くと，(あなたが私に) 約束するなら」》

67. **— Ongi da !**

ongi は［副］「良く」。da は izan［自］直説法現在 NOR 活用単純形，「3単は～だ」。全体で慣用句のように「O.K.」の意味で用いられる。

《「いいですよ」》

67-8. **Eramango ditut zuk esaten dituzun bi gauza horiek.**
動詞　　　　直接目的語

☆この文も l.65-6 の文と同じく，骨組みは『動詞＋直接目的語』。

eramango ditut： eramango は eraman［他］「持って行く」

の未来分詞，ditut は izan [他助] 直説法現在 NOR-NORK 活用，NOR (直接目的語)=3複，NORK (主語)=nik「私が」の場合の形「私が3複を〜する」。ここまで「私が (zuk 以下=3複を) 持って行きましょう」。

zuk esaten dituzun： bi gauza horiek を修飾する連体節。まずこの連体節 zuk esaten dituzun だが，zuk は人称代名詞 zu の能格「あなたが」で esaten dituzun の主語。esaten は esan [他]「言う」の不完了分詞，dituzun は dituzu＜izan [他助]「あなたが3複を〜する」(⇨l. 60, 65, 表5) に，連体修飾節を作る語尾 -n がついた形。被修飾語 bi gauza horiek が複数であるため duzu(n) でなく dituzu(n) となる。ここまで「あなたが言うところの〜」。

bi gauza horiek： bi は「二つの」，gauza は [名]「物」，horiek [形] は絶対格で「それらの〜を」。「それらの二つの物を」。

《あなたが言うところのそれらの二つの物を (私は) 持って行きましょう》

69–70. **Hitzok amaitzea eta Baltzolako haitzuloan aurkitzea**

主　語

gauza bat bera izan zen,

主格補語　　動詞

hitzok amaitzea： hitzok は hitz [名]「ことば」の定形近い複数絶対格。近い複数は，「これらの〜」の意味の複数である。普通の複数形は例えば絶対格の形ならば -ak を付して作るのに対して，近い複数は語尾 -ok によって表される。この hitzok は amaitzea の主語で「これらの言葉が」。amaitzea は amai-tu [自]「終わる」の -t(z)ea 形 (⇨l. 41, izatea, l. 42, joatea の項)。

ここでは自動詞の主語となるので「終わることは」。

eta：「〜と〜」。

Baltzolako haitzuloan aurkitzea： haitzuloan は haitzulo [名]「洞穴」＋定形単数内格語尾 -an。「バルツォラの洞穴の中に」。aurkitzea は，前出 amaitzea と同様，aurki-tu [自]「(自分自身を) 見出だす，〜である，〜にいる」の -t(z)ea 形。「いることは」。

gauza bat bera： 主格補語。gauza [名]「こと」，bat [数]「1」，bera [形]「同じその」，絶対格。「同じ一つのこと」。

izan zen： izan [自]「〜である」完了分詞と，zen＜izan [自助] 直説法過去 NOR 活用，NOR=3単，「3単が〜だった」(⇨l. 11, 表9) から成る，izan [自] の複合形。l. 6, dago＜egon の時と同じく，複合形と単純形の違いを比べてみると：

	現　在		過　去
複合形	Polita izan da.「(今まで/たった今) きれいだった」	(完了相)	Polita izan zen.「(それまで/その時) きれいだった」
	Polita izaten da.「(日頃/習慣的に) きれいだ，きれいなものである」	(不完了相)	Polita izaten zen.「(日頃/習慣的に) きれいだった，きれいなものだった」
	Polita izango da.「(将来/未来) きれいだろう」	(未来相)	Polita izango zen.「(将来/未来) きれいだったろう」
単純形	Polita da.「(今/性質として) きれいだ」	(不完了相)	Polita zen.「(その当時/性質として) きれいだった」

同じ不完了相でも複合形では断続性が表現されるが，単純形では継続性が表わされる。また完了相の複合形には瞬間性あるいは

その時までの継続性が表される。またほとんどの動詞は複合形しか持たないが，そうした動詞では複合形の不完了相が単純形によるべき不完了相をも表現する。

《これらの言葉が終わるのとバルツォラの洞穴に自分自身を見出だすのは同じ一つのことだった。(二つの動作が同時に起こったことを表す)》

70-2. **eta mutilarekin batera hantxe agertu zen**
動 詞
gizon itsusi eta zatar hura ere.
主 語

mutilarekin batera： mutilarekin は mutil [名]「青年」＋定形単数共格語尾 -arekin,「青年と共に」。batera は bat [数]「1(の)」＋定形方格語尾 -era の形だが前に共格名詞を伴って「～と同時に」を表す。hantxe は han [副]「あそこに」の強調形「まさにあそこに」。

agertu zen： agertu [自]「現れる」完了分詞。zen は izan [自助] 直説法過去 NOR 活用,「3単が～した」(⇨l. 11, 表9)。

gizon itsusi eta zatar hura ere： この文の主語。gizon [名]「男」, itsusi [形]「醜い」, zatar [形]「汚い」はいずれも不定形絶対格。hura は [形]「あの，その」絶対格。ere「～も」。「その醜くて汚らしい男も」。

《そして青年と同時に，その醜く汚らしい男もそこに現れた》

72. **Eta hark esan zion：**

hark： 3人称代名詞 hura の能格形。ここでは「彼が」。

esan zion： esan [他]「言う」完了分詞，zion は izan [他助]

直説法過去 NOR-NORI-NORK 活用,「3単が3単に3単を～した」(⇨l. 26)。NORK（主語）は hark, NORI（間接目的語）は青年, NOR（直接目的語）は次のせりふを指す。

《そして彼が(彼に)言った》

73. **— Itxaron apurtxo batean,**

itxaron：[他]「待つ」の完了分詞で，ここでは命令形として使われている。命令を表すのに，命令法（⇨l. 31）の代わりに動詞の完了分詞が単独でよく使われる。

apurtxo batean： apurtxo は apur [名]「かけら；少量」＋指小辞 -txo, batean は bat [数]「1」＋定形内格語尾 -ean。全体で副詞的に「少しの間」。

《「少し待て」》

73-5. **etxera eramango dituzula agindu dizkidazun gauzak**
直接目的語
oraintxe ekarriko dizkizut eta！
動 詞　　理由の接続詞

☆この文も複雑に見えるが，骨格となるのは『直接目的語＋動詞』の型である。ekarriko dizkizut がこの文の動詞。gauzak はその直接目的語。etxera ～ dizkidazun は gauzak を修飾する連体節だが，その節の中にさらに agindu dizkidazu(n) という動詞部と，その目的語となる名詞節 etxera ～ dituzula が含まれる。まず骨格となる部分から見ていこう。

… gauzak oraintxe ekarriko dizkizut eta： gauzak は gauza [名]「物」＋定形複数絶対格語尾 -k。ekarriko dizkizut の直接目的語。「(複数の) 物を」。oraintxe は orain [名/副]「今」＋強調

の語尾 -txe, 副詞として「たった今」。ekarriko dizkizut の ekarriko は ekar-ri [他]「持って来る」の未来分詞。dizkizut は izan [他助] 直説法現在 NOR-NORI-NORK 活用, NOR (直接目的語)＝3複, NORI (間接目的語)＝zuri「あなたに」, NORK (主語)＝nik「私が」,「私があなたに3複を～する」(⇨ l. 65, dizkizudan の項, 表35)。3複の NOR (直接目的語) は gauzak。ここまで「私は物(複)をあなたに持ってこよう」。文末の eta は理由を表す接続詞「～なので」(⇨ l. 27)。

☆次に gauzak を修飾する節を見てみよう。まず動詞の連体形から。

agindu dizkidazun: agindu は [他]「約束する」完了分詞。dizkidazun は dizkidazu ＜ izan [他助] 直説法現在 NOR-NORI-NORK 活用, NOR (直接目的語)＝3複, NORI (間接目的語)＝niri「私に」, NORK (主語)＝zuk「あなたが」の場合の形,「あなたが私に3複を～する」に連体節語尾 -n が付いた形。ここまでが gauzak を修飾する節で,「あなたが私に約束したところの (3複の物)」。

etxera eramango dituzula: agindu の目的語となる名詞節。etxera「家へ」。eramango は eraman [他] 未来分詞, dituzula は dituzu ＜ izan [他助] 直説法現在 NOR-NORK 活用,「あなたが3複を～する」＋名詞節を作る語尾 -la「～と」。ここまで「あなたが家へ持って行くだろう, と」(⇨ l. 66)。

《あなたが家へ持って行くと私に約束した物を, 今 (あなたに) 持って来るので》

〈訳〉「このわしが, バルツォラの洞穴に, 火花が一つ閃く間に連れていってあげよう, そこに着いた後, 今わしが渡すある二つの

物を家へ持って行くとわしに約束してくれるなら」

「いいですとも! あなたの言うその二つの品を持って行きましょう」

こう言い終わると同時に, 長男はバルツォラの洞穴にいました。そしてあの醜い汚らしい男も, 彼と一緒にその同じ場所に姿を現しました。男は言いました,

「ちょっと待っていろ, お前が家に持って行くと約束してくれた品物を今すぐ持って来るから」

Eta handik laster han agertu zen urre zati handi batez eta zetazko gerriko bat ekarriz; eta mutilari emanez, esan zion:

—Har itzazu bi zera hauek, eta urrea gorde ezazu zeuretzat, eta zetazko gerrikoa emaiozu zure anaiari, eta, gainera, esaiozu hiru egun barru etor dadila hona, Baltzolako haitzulora, berarekin hitzegin nahi dudala eta!

Mutilak hartu zituen bai urrea eta bai zetazko gerrikoa, eta gizon xahar eta itsusia agurtu eta eskertu ondoren, han joan zen etxera pozez saltoka eta korrika.

76–7. Eta handik laster han agertu zen urre zati handi batez eta zetazko gerriko bat ekarriz;

handik laster: handik は han [副]「あそこで」の奪格形

「あそこから」。ここでは時を表し，「その時から」。laster は [副]「すぐに」。

han：[副]「あそこに」。

agertu zen：agertu [自]「現れる」完了分詞，zen＜izan [自助] 直説法過去 NOR 活用，「3単は～した」(⇨ l. 11)。NOR (主語) は「長男は」。ここまで「そしてそれからすぐに(その男は)そこに現れた」。

urre zati handi batez：urre [名]「黄金」，zati [名]「片」，handi [形]「大きな」はいずれも不定形絶対格，batez は bat [数]「1」＋不定形具格語尾 -ez，「一つの～を伴って」。urre zati は「金の片」のことだが，この urre のように，名詞は不定形絶対格のまま他の名詞の直前に置かれ，形容詞の役をすることができる。「大きな一片の金とともに」。

zetazko gerriko bat ekarriz：ekarriz は ekar-ri [他]「持って来る」の完了分詞＋語尾 -z。『動詞の完了分詞＋語尾 -(e)z』の形で「～しつつ，～しながら」を表す。-e- は，この語尾が子音で終わる語につく時の繋ぎの母音 (⇨ l. 8)。zetazko gerriko bat は ekarriz の直接目的語。zetazko は zeta [名]「絹」＋「～製の」の意の連体詞を作る語尾 -zko (⇨ l. 7, harrizko の項)。gerriko [名]「ベルト，帯」，不定形絶対格，bat「一つの」は絶対格。「そして絹の帯を一本持って来つつ」。

《大きな金塊と，そして絹の帯を持って来つつ》

77–8. **eta mutilari emanez, esan zion :**

eta mutilari emanez：mutilari は mutil「青年」＋定形単数与格語尾 -ari，「青年に」。emanez の間接目的語。emanez は eman [他]「与える」完了分詞＋語尾 -ez で，「与えつつ」(⇨ 前項 ekarriz)。

esan zion：esan [他]「言う」，zion＜izan [他助] 直説法過去 NOR-NORI-NORK 活用，「3単が3単を3単に言った」(⇨ l. 26)。NORK (主語) は醜い男，NORI (間接目的語) は青年を指す。

《そして(男はそれらを)青年に与えながら，彼に言った》

79. **Har itzazu bi zera hauek.**
動詞　直接目的語

har itzazu：har は har-tu [他]「取る」の語根。itzazu は izan [他助] 命令法 NOR-NORK 活用，NOR (直接目的語)＝3複，NORK (主語)＝zuk「あなたが」の場合の形，「あなたは3複を～しなさい」(⇨ 表 19)。

bi zera hauek：他動詞 har itzazu の直接目的語。bi「2」，zera [名]「物」，hauek [形]「これらの」絶対格。「これらの二つの物を」。

《これらの二つの物を受け取りなさい》

79–80. **eta urrea gorde ezazu zeuretzat,**
直接目的語　動詞

urrea：urre [名]「黄金」＋定形単数絶対格語尾 -a，他動詞 gorde ezazu の直接目的語。「黄金を」。

gorde ezazu：gorde は [他]「しまう」の語根 (たまたま完了分詞と同形である)。ezazu は izan [他助] 命令法 NOR-NORK 活用，「あなたは3単を～しなさい」(⇨ l. 31, Etzazu の項，表 19)。

zeuretzat：zu「あなた」の目的格形 zuretzat「あなたのため

に」の強調形で「あなた自身のために」。

《そして黄金はお前自身のためにしまっておきなさい》

80-1. **eta zetazko gerrikoa emaiozu zure anaiari,**

直接目的語　動詞　間接目的語

zetazko gerrikoa： emaiozu の直接目的語。 zetazko「絹製の」(⇨ l. 77)。gerrikoa は gerriko [名]「帯, ベルト」＋定形単数絶対格語尾 -a,「絹製の帯を」。

emaiozu： eman iezaiozu の短縮された形。 eman は [他]

—表 36—

eman [他] 命令法 NOR-NORI-NORK 活用短縮形

NOR＝3単/3複 NORI (間接目的語)「～に」

NORK＝zuk, zuek の場合

「あなた/あなた達は～に3単/3複を与えなさい」

		NORI (間接目的語)	活用
sg.	1	niri	emai(zki)dazu(e)
	2	hiri	—
	3	hari	emai(zki)ozu(e)
pl.	1	guri	emai(zki)guzu(e)
	2	zuri	—
	2'	zuei	—
	3	haiei	emai(zki)ezu(e)

☆ -zki- は NOR が3複の時, -e は NORK が zuekの時現れる。

「与える」の語根 (たまたま完了分詞と同形), iezaiozu は izan [他助] 命令法 NOR-NORI-NORK 活用, NOR (直接目的語) および NORI (間接目的語)＝3単, NORK (主語)＝zuk で「あなたは3単に3単を～しなさい」(⇨ l. 31, utziozu の項)。NOR は zetazko gerrikoa, NORI は zure anaiari。このようにいくつかの動詞は, 短縮された命令形を持つ。次項に出て来る esan もその一つ (⇨ 表 37)。

zure anaiari： emaiozu の間接目的語。 zure は [連]「あなたの」。anaiari は anaia [名]「兄弟」＋定形単数与格語尾 -ri,「兄弟に」。

《そして絹の帯はお前の弟に与えるのだ》

81-3. **eta, gainera, esaiozu hiru egun barru etor dadila**

動詞　直接目的語 1

hona, Baltzolako haitzulora,

(直接目的語 1 のつづき)

berarekin hitzegin nahi dudala eta!

直接目的語 2

☆文全体の構造は, 動詞 esaiozu に, 直接目的語となる名詞節が二つ続いている形。

gainera：[副]「そのうえ」。

esaiozu： esan iezaiozu「あなたは3単に3単を言いなさい」の短縮された形。esan は [他]「言う」の語根 (たまたま完了分詞と同形), iezaiozu は izan [他助] 命令法 NOR-NORI-NORK 活用「あなたは3単に3単を～しなさい」(⇨ l. 31, utziozu の項)。esan は, 命令法の NOR-NORI-NORK 活用において前項の emaizkiozu と同じタイプの短縮形を持つ。前頁の eman の活用

—表 37—

esan [他] 命令法 NOR-NORI-NORK 活用短縮形

NOR=3単, NORK=zuk, zuek「あなた・あなた達は～に3単を言いなさい」

		NORI (間接目的語)	活用
sg.	1	niri	esaidazu(e)
	2	hiri	—
	3	hari	esaiozu(e)
pl.	1	guri	esaiguzu(e)
	2	zuri	—
	2′	zuei	—
	3	haiei	esaiezu(e)

☆ -e は NORK が zuek の時現れる。

形の ema- の部分が esa- に変わるだけで他は同じである。

hiru egun barru etor dadila hona, Baltzolako haitzulora: この部分は esaiozu の目的語となる名詞節。hiru egun barru は hiru [数]「3(の)」, egun [名]「日」, barru は後置詞で時を表す語句の不定形絶対格を伴い「～以内に」。ここでは hiru egun「三日」を伴い「三日後に」。従属節の中の動詞部 etor dadila の etor は etor-ri [自]「来る」の語根, dadila は izan [自助] 接続法現在 NOR 活用, NOR (主語)=3単の場合の形。接続法の活用形には -n で終るものと -la で終わるものの2形があり dadila の -n 形は dadin である。-la は既出の dituzula (l. 66) などに見られる, 名詞節を作る語尾 -la に由来する。接続法では, 命令法のときと同じく動詞は語根の形で現れる。接続法の用法はいろ

—表 38—

izan [自助] 接続法現在 NOR 活用

		NOR (主語)	-n 形	-la 形
sg.	1	ni	nadin	nadila
	2	hi	hadin	hadila
	3	hura	dadin	dadila
pl.	1	gu	gaitezen	gaitezela
	2	zu	zaitezen	zaitezela
	2′	zuek	zaitezten	zaiteztela
	3	haiek	daitezen	daitezela

いろあるが, そのうちの一つが, 直接話法での命令文を間接話法にする時, 接続法を用いる, というものである。ここでの用法もそれである。つまり動詞 esaiozu の支配下にある節 hiru ～ haitzulora の基底には命令文があるので, 間接話法にするにあたり接続法が使われた。hona は [副]「ここへ」。hemen「ここ(で・に)」の方格形。Baltzolako haitzulora「バルツォラの洞穴へ」, hona と同格。ここまで「そしてそのうえ, 彼に言いなさい, 三日後にここへ, バルツォラの洞穴へ来るように, と。」

berarekin hitzegin nahi dudala eta!: この文も前項の動詞 esaiozu の目的語となる名詞節。berarekin は3人称単数代名詞 bera の共格形「彼と共に」。hitzegin は [他]「話す」完了分詞。hitz egin とも綴る。nahi izan [他]+動詞の完了分詞で「～したい」(⇨l. 60)。dudala は dut＜izan [他助] 直説法現在 NOR-NORK 活用, NOR (直接目的語)=3単, NORK (主語)=nik「私が」の場合の形「私は3単を～する」に, 名詞節を作る

語尾 -la が付いた形。「私が彼と話したい，と」。eta は［接続］「～なので」。ここまで「私が彼と話をしたいので，と」。

《そしてそのうえ彼に言いなさい，私が彼と話したいから，三日後にここへ，バルツォラの洞穴へ来るように，と》

84–5. **Mutilak** **hartu zituen**
主語　　動詞
bai urrea eta bai zetazko gerrikoa,
直接目的語

mutilak： 他動詞の主語。mutil［名］「青年」＋定形単数能格語尾 -ak。「青年は」。

hartu zituen： hartu［他］「取る」完了分詞，zituen は izan［他助］直説法過去 NOR-NORK 活用，NOR（直接目的語）＝3複，NORK（主語）＝3単の場合の形で「3単が3複を～した」。

bai urrea eta bai zetazko gerrikoa： hartu zituen の直接目的語。bai A (eta) bai B で「AもBも」の意 (⇨ l. 44)。urrea は urre［名］「黄金」＋定形単数絶対格語尾 -a，「黄金を」。zetazko gerrikoa も定形単数絶対格。「絹製の帯を」(⇨ l. 77)。

《青年は金も絹の帯も受け取った》

85–6. **eta gizon xahar eta itsusia** **agurtu eta eskertu**
agurtu と eskertu の直接目的語
ondoren,

gizon xahar eta itsusia： 他動詞 agurtu と eskertu の目的語。gizon「男」，xahar は zahar［形］「年老いた」の指小辞だが，ここでは「非常に年老いた」の含みがある。itsusia は itsusi［形］「醜い」＋定形単数絶対格語尾 -a。「非常に年老いた醜い男を」。

agurtu eta eskertu ondoren： agurtu［他］「挨拶する」，eskertu［他］「感謝する」，ともに不完了分詞。ondoren［後］「～したあと」(⇨ l. 64–5)。『動詞の完了分詞＋ondoren』は「～したあと」。

《そして醜い老人に挨拶し，感謝した後》

86–7. **han joan zen etxera pozez saltoka eta korrika.**

han： もともとは場所を表す語で「あそこ，そこ（で，に）」の意だが，ここでは「それから；やがて」を表す。

joan zen： joan［自］「行く」完了分詞，zen＜izan［自助］直説法現在 NOR 活用「3単が～した」(⇨ l. 11)。「彼は行った」。

etxera：「家へ」。

pozez saltoka eta korrika： pozez は poz［名］「喜び」＋不定形具格語尾 -ez，「喜んで」。saltoka は salto［名］「跳躍」＋動作の繰り返しを表す副詞語尾 -ka，korrika は korri-tu［他］「走る」の語根 korri-＋副詞語尾 -ka（saltoka の -ka に同じ），「走って」。ここまで「それから喜んで跳びはねて家へ走って行った。」

《そして醜い老人に挨拶し，感謝した後，喜んで跳びはねながら家へ走って行った。》

〈訳〉そしてしばらくして，男は大きな金塊と絹の帯を一本持って現れました。そして青年に手渡しつつ，言いました，

「この二つの品を受け取るのだ，金はお前が自分の物として取っておき，絹の帯はお前の弟にやるのだ，そして三日後にここへ，バルツォラの洞穴へ来るように弟に伝えるのだ，わしが話があると言ってな！」

青年は，金も絹の帯も受け取ると，醜い老人に挨拶をし，礼を

述べ，喜びのあまり，跳び上がりながら走って家へ帰って行きました。

Mutil zaharrena ikustean etxekoek izan zuten poza, hura bai poza! Ongi-etorriaren algarak igaro zirenean, hark gertatu zitzaiona kontatu zien etxekoei, eta ondoren, urrearena eta zetazko gerrikoarena ere azaldu zien.

—Begira, gizon xahar eta itsusi hark urre multzo hau eta zetazko gerriko hau eman dizkit. Urrea niretzat dela esan dit, eta gerrikoa neure anaiarentzat.

88-9. **Mutil zaharrena ikustean**
時の副詞句
etxekoek izan zuten poza, hura bai poza!
感嘆文構文

mutil zaharrena ikustean: mutil zaharrena は ikustean の直接目的語。mutil [名]「青年」不定形絶対格，zaharrena は zahar [形]「年長の」＋繋ぎの子音 -r-＋最上級語尾 -en＋定形単数絶対格語尾 -a,「最も年長の～を」(⇨ l. 49)。「長男を」。ikustean は ikus-i [他]「見る」の -t(z)ean 形「見たとき，見るとき」(⇨ l. 21, iluntzean の項)。ここまで「長男を見たとき」。

etxekoek izan zuten: poza にかかる連体修飾節。etxekoek は etxe [名]「家」＋定形単数位置属格語尾 -ko＋定形複数能格語尾 -ek,「家の者たちが」。izan zuten の主語。izan zuten の izan は他動詞で「持つ」，zuten＜izan [他助] 直説法過去 NOR-NORK 活用,「3 複が 3 単を～した」(⇨ l. 17) は連体形で，poza にかかる。「家人たちが持ったところの (3 単)」。

poza: poz [名]「喜び」＋定形単数絶対格語尾 -a。

hura bai poza: hura bai ～ は感嘆文の一種。「～といったら!」。

《家の者たちが彼を見た時に抱いた喜び，その喜びといったら!》

89-91. **Ongi-etorriaren algarak igaro zirenean,**
主語　　動詞＋-ean
従属節 (時の副詞節)

hark gertatu zitzaiona kontatu zien etxekoei,
主語　直接目的語　動詞　間接目的語
主 節

ongi-etorriaren algarak: 従属節の主語。ongi-etorriaren は ongi-etorri [名]「歓迎」＋定形単数所有属格語尾 -aren,「歓迎の」。algarak は algara [名]「大騒ぎ，大歓声」＋定形複数絶対格語尾 -k,「大騒ぎが」。

igaro zirenean: igaro は [自]「過ぎる」完了分詞，ziren は izan [自助] 直説法過去 NOR 活用「3 複が～した」(⇨ l. 15) に，時を表す語尾 -ean が付いた形で「3 複が過ぎ去ったとき」。ここまで「歓迎の騒ぎが過ぎ去ったとき」。

hark: 主節の主語。3 人称代名詞 hura の能格形，ここでは「彼が」。長男を指す。

gertatu zitzaiona: kontatu zien の直接目的語。gertatu は [自]「起こる」完了分詞，zitzaiona は zitzaion＜izan [自助] 直説法過去 NOR-NORI 活用，NOR (主語) および NORI (間接目的語)＝3 単,「3 単が 3 単に～した」(⇨ l. 54)＋定形単数絶対

格語尾 -a。定形語尾は動詞・助動詞の活用形に付加されそれを名詞化する。NOR は「(起こった)そのこと」で，ここでは -a で表される。NORI は「彼に」。「彼に起こった(その)こと」。

etxekoei： etxe [名]「家」＋定形単数位置属格語尾 -ko＋定形複数与格語尾 -ei，「家の者たちに」(⇨ l. 49, 61)。

kontatu zien： kontatu は [他]「語る」完了分詞，zien は izan [他助] 直説法過去 NOR-NORI-NORK 活用，NOR (直接目的語)＝3単，NORI (間接目的語)＝3複，NORK (主語)＝3単の場合の形で「3単が3複に3単を～した」。NOR は gertatu zitzaiona，NORI は etxekoei，NORK は hark。ここまで「彼は家の者たちに彼に起こった事を語った」。

《歓迎の騒ぎが過ぎ去った時，彼は家の者たちに，彼の身に起こった事を語った》

91-2. **eta ondoren, urrearena eta zetazko gerrikoarena ere** (直接目的語) **azaldu zien.** (動詞)

ondoren：[副]「次に」。

urrearena eta zetazko gerrikoarena ere： 他動詞 azaldu zien の直接目的語。urrearena は urre [名]「黄金」＋定形単数所有属格語尾 -aren＋定形単数絶対格語尾 -a で「(例の)黄金のこと」の意 (⇨ l. 1, aldekoa の項)。

zetazko gerrikoarena： zetazko は「絹製の」(⇨ l. 80)。gerrikoarena も urrearena の場合と同じく，gerriko [名]「帯」＋定形単数所有属格語尾 -aren＋定形単数絶対格語尾 -a で「(例の)帯のこと」の意。ere は「～も」。

azaldu zien： azaldu [他]「説明する」完了分詞。zien は

＜izan [他助] 直説法過去 NOR-NORI-NORK 活用，NOR および NORK＝3単，NORI＝3複，「3単が3単を3複に～した」。NOR は urrearena ～ ere，NORI は前項の etxekoei「家人たちに」，NORK は同じく前項の hark「彼は」。

《(彼は)金のことと帯のことも(家人たちに)説明した》

93. **Begira,**

begira： 元来，begira-tu [他]「見る，見つめる」の語根だが，ここでは命令形の代わりに用いられている。このように，命令を表すのに助動詞なしで語根のみまたは完了分詞のみが使われる (⇨ l. 73, itxaron の項)。

93-4. **gizon xahar eta itsusi hark** (主語) **urre multzo hau eta zetazko gerriko hau** (直接目的語) (直接目的語の続き) **eman dizkit.** (動詞)

gizon xahar eta itsusi hark： 他動詞 eman dizkit の主語。gizon [名]「男」，xahar [形]「とても老いた」，itsusi [形]「醜い」全て不定形絶対格，hark は指示形容詞 hura「あの・その」の能格形「あの・その～が」。「あのとても年老いた醜い男が」。

urre multzo hau eta zetazko gerriko hau： eman dizkit の直接目的語。urre multzo hau は urre [名]「黄金」，multzo [名]「塊」，hau [形]「この」絶対格で「この黄金の塊を」。この urre は l. 76 の urre と同じく，形容詞のように multzo にかかる。zetazko gerriko hau は絶対格で「この絹の帯を」。

eman dizkit： eman [他]「与える」完了分詞，dizkit＜izan [他助] 直説法現在 NOR-NORI-NORK 活用，NOR (直接目

的語)＝3複，NORI（間接目的語)＝niri「私に」，NORK（主語)＝3単，「3単が私に3複を～する」。NORK は gizon ～ hark，NOR は urre ～ hau。またこの動詞部は，完了分詞と現在時制の組み合わせで，「今日/今/今まで～した」（現在完了相）を表す。

《その醜い老人が僕にこの金の塊とこの絹の帯をくれたんだ》

94-6. **Urrea niretzat dela esan dit, eta**

目的語 1（名詞節）　動詞

gerrikoa neure anaiarentzat.

目的語 2（名詞節，dela が省略）

urrea niretzat dela： esan dit の目的語になる名詞節。urrea は urre［名］「黄金」＋定形単数絶対格語尾 -a，de(la) の主語，「金は」。niretzat は［代］ni の目的格形「私のために」。dela は da ＜izan［自］直説法現在 NOR 活用単純形「3単が～だ」（⇨ l. 5）に，名詞節を作る語尾 -la が付いた形。「金は私のためにだ，と」。

esan dit： esan［他］「言う」完了分詞，dit は izan［他助］直説法現在 NOR-NORI-NORK 活用，NOR（直接目的語)＝3単，NORI（間接目的語)＝niri「私に」，NORK（主語)＝3単，「3単が私に3単を～する」。NORK は前項の gizon ～ hark。「彼が私に言った」。ここまで「金は僕のためにだと(彼が僕に)言った」。

eta gerrikoa neure anaiarentzat： この文も他動詞 esan dit の目的語となる名詞節だが，dela（動詞＋名詞節語尾）が省略されている。gerrikoa は gerriko［名］「帯」＋定形単数絶対格語尾 -a，「帯は」。neure は nire「私の」の強調形。anaiarentzat は anaia「兄弟」＋定形単数目的格語尾 -rentzat，「兄弟のために」。ここでは「弟のために」。ここまで「そして帯は僕の弟のために(だ，

と)」。

《「(彼は) 金はぼくに，帯は弟にだと言ったよ」》

〈訳〉 長男の姿を認めたときの家族の喜びと言ったら！ 歓迎の大騒ぎが一段落したあと，長男は自分の身に起こったことを家族に話し，続けて金塊のことと絹の帯のことも説明しました。

「ごらんよ，その醜い老人はこの金の塊とこの絹の帯をくれたんだ。金はぼくに，帯は弟にだと言ったんだ」。

Baina, anaiak ez zuen gerrikorik hartu nahi izan.

— Zertarako behar dut nik zetazko gerriko bat? Hori baino politagoa da aldean dudana! — zioen.

— Baina, gizon xaharrak zuretzat dela esan dit; eta hiru egun barru Baltzolako haitzulora berarekin hitzegitera joateko ere esan dit — esan zion anaia zaharrenak.

---

97. **Baina, anaiak ez zuen gerrikorik hartu nahi izan.**

接続詞　主語　直接目的語　動詞

baina：「しかし」。

anaiak： 他動詞部 ez zuen ... hartu nahi izan の主語。anaia［名］「兄弟（ここでは弟)」＋定形単数能格語尾 -k，「弟が」。

gerrikorik： gerriko「帯」＋分格語尾 -rik。分格は否定文では「ひとつも～ない，少しも～ない」を表す（l. 31，kalterik の項)。「帯など少しも」。

ez zuen ... hartu nahi izan： ez は否定辞。zuen は ＜izan [他助] 直説法過去 NOR-NORK 活用,「3単が3単を～した」。hartu は [他]「取る」完了分詞。nahi izan [他] 動詞の完了分詞とともに「～したい」(⇨l. 60)。最後の izan は，ここでは l. 46 の joan behar izan zuen に現れる izan と同様の働きをする。izan を含む場合と含まない場合を比べると：

現　在	過　去
Urrea hartu nahi du. 「(今/常に)金を取りたがっている」	Urrea hartu nahi zuen. 「(その当時いつも)金を取りたがっていた」
Urrea hartu nahi izan du. 「(たった今/今まで)金を取りたがった，取りたがってきた」	Urrea hartu nahi izan zuen. 「(その時)金を取りたがった，取りたかった」
Urrea hartu nahi izaten du. 「(日頃/習慣的に)金を取りたがっている，取りたがるものだ」	Urrea hartu nahi izaten zuen. 「(当時日頃/習慣的に)金を取りたがっていた」
Urrea hartu nahi izango du. 「(将来)金を取りたがるだろう」	Urrea hartu nahi izango zuen. 「(将来)金を取りたがっただろう」

すなわち hartu nahi zuen が「いつも取りたがっていた」を意味するのに対し hartu nahi izan zuen は「(その時) 取りたがった」を意味する。ここでは否定文なので「取りたがらなかった」。なお, nahi を含む否定文の語順に注意。肯定文＝Gerrikoa hartu nahi zuen. 否定文＝Ez zuen gerrikorik hartu nahi.

《しかし，弟は帯など受け取りたがらなかった》

98. **— Zertarako behar dut nik zetazko gerriko bat?**

Zertarako	behar dut	nik	zetazko gerriko bat?
疑問副詞	動詞	主語	直接目的語

zertarako：[副]「何のために」。疑問詞を含む疑問文では，疑問詞がその文の galdegaia（文の focus）とみなされるため，動詞部の直前に置かれる。また疑問詞は原則として文頭に置かれ易いので，結局,『疑問詞＋動詞部＋他の要素』という語順が原則となる。

behar dut： behar izan [他]「必要とする」, dut ＜izan [他助] 直説法現在 NOR-NORK 活用,「私が3単を～する」(⇨l. 67)。

nik： ni「私」の能格形「私が」。他動詞 behar dut の主語。

zetazko gerriko bat： behar dut の直接目的語。「一本の絹の帯を」(⇨l. 77)。

《何のために(おれは)絹の帯が必要なのだ》

99. **Hori baino politagoa da aldean dudana!**

Hori baino politagoa	da	aldean dudana!
補　語	動詞	主　語

hori baino politagoa： hori [代]「それ」絶対格。baino [接続]「～よりも」。「それよりも」。politagoa は polit [形]「すてきな」＋比較級語尾 -ago＋定形単数絶対格語尾 -a,「よりすてきな」。

da：＜izan [自] 直説法現在 NOR 活用,「3単は～だ」。(⇨l. 5, 表 3)

aldean dudana： aldean は alde [名]「側，脇」の定形単数内格「側に」。dudana は，dut ＜izan [他] 直説法現在 NOR-

NORK 活用単純形，「私は3単を持っている」の連体形 dudan に，定形単数絶対格語尾 -a が付いた形。この定形語尾によって動詞が名詞化し「私が持っている(3単の)もの」の意になる(⇨ l. 90, zitzaiona の項)。

《それよりもおれの隣にあるもののほうがすてきだ》

99. **— zioen.**

zioen： esan [他]「言う」直説法過去 NOR-NORK 活用単純形，NOR (直接目的語)=3単，NORK (主語)=3単の場合の活用形，「3単は言う」。egon (⇨ l. 112) や izan (⇨ l. 70) のように単純形と複合形を比べてみると：

	現在	過去
複合形	esan du. 「(今/今まで)言った」	esan zuen. 「(その時)言った」
	esaten du. 「(いつも/通常)言っている」	esaten zuen. 「(いつも/通常)言っていた」
	esango du. 「(将来/いつか)言うだろう」	esango zuen. 「(将来/いつか)言っただろう」
単純形	dio. 「(今)言う，言っている」	zioen. 「(その時)言った，言っていた」

《彼は言った》

100. **— Baina, gizon xaharrak zuretzat dela esan dit ;**

Baina,	gizon xaharrak	zuretzat dela	esan dit ;
接続詞	主語	直接目的語(名詞節)	動詞

— 表 39 —

esan [他] 直説法現在と過去 NOR-NORK 活用単純形

「〜が言う/言った」

		NORK (主語)	現在	過去
sg.	1	nik	diot	nioen
	2	hik	diok/n	hioen
	3	hark	dio	zioen
pl.	1	guk	diogu	genioen
	2	zuk	diozu	zenioen
	2′	zuek	diozue	zenioten
	3	haiek	diote	zioten

☆主節は gizon xaharrak esan dit。zuretzat dela は名詞節で動詞 esan dit の直接目的語。

gizon xaharrak： 主節の主語。gizon [名]「男」，xaharrak は xahar [形]「とても老いた」＋繋ぎの子音 -r-＋定形単数能格語尾 -ak。「とても年老いた男は」(⇨ l. 85)。

zuretzat dela： zuretzat は zu [代] の目的格「あなたのために」。dela は da ＜izan [自] NOR「3単は〜だ」＋名詞節を作る語尾 -la，「(帯は) あなたのためにだ，と」(⇨ l. 95)。

esan dit： esan [他]「言う」完了分詞，dit ＜izan [他助] 直説法現在 NOR-NORI-NORK「3単が私に3単を〜した」(⇨ l. 95)。NOR (直接目的語) は zuretzat dela，NORI (間接目的語) は「私に」，NORK (主語)=gizon xaharrak。

《しかし，老人は，お前にだ，と(私に)言った》

101–2. **eta hiru egun barru Baltzolako haitzulora berarekin hitzegitera joateko ere esan dit,**

☆hiru ～ joateko は他動詞 esan dit の目的語となる名詞句。

hiru egun barru Baltzolako haitzulora joateko ere: hiru egun barru は「三日後に」。hiru「3」, egun［名］「日」,『時間を表す語句＋barru』は「～後に」を表す。Baltzolako haitzulora は「バルツォラの洞穴へ」。berarekin は bera［代］の共格形「彼と共に」。hitzegitera は hitzegin［他］「話す」の -t(z)era 形「話しに」(⇨l. 23, jasotzera の項)。joateko は joan［自］「行く」の -t(z)eko 形。ここでの -t(z)eko 形は,「～するように」を表し, l. 82 の助動詞の接続法 dadila と同じく, 直接話法での命令文を間接話法にする時, 用いられる。ここでは esan dit とともに「行くように言った」。(-t(z)eko 形については l. 29, jaurtitzeko, l. 41, bizitzeko の項)。ere は「～も」, hiru～joateko を受ける。

esan dit: esan［他］完了分詞, dit＜izan［他助］直説法現在 NOR-NORI-NORK 活用, NOR（直接目的語）＝hiru～joateko, NORI（間接目的語）＝niri「私に」, NORK（主語）＝gizon xaharrak。「彼が私に（hiru 以下を）言った」(⇨l. 95)。

《そして三日後に, バルツォラの洞穴へ彼と話をしに行くようにとも(私に)言った》

102–3. **esan zion anaia zaharrenak.**
　　　動　詞　　　主　語

esan zion: esan［他］完了分詞, zion＜izan［他助］直説法過去 NOR-NORI-NORK 活用,「3単が3単に3単を～した」(⇨l. 26)。NOR は上のせりふ, NORK は anaia zaharrenak, NORI は「弟に」。

anaia zaharrenak: anaia［名］「兄弟」, zaharrenak［形］「もっとも年老いた」能格 (⇨l. 45),「長男が」。esan zion の主語。

《長男が(弟に)言った》

〈訳〉「おれが何のために絹の帯が要るんだよ? それよりも隣にあるもののほうがいいよ!」と弟は言いました。

「でもじいさんは帯はお前にだって言ったんだよ。それに三日後にじいさんと話をしにバルツォラの洞穴に行くようにとも言ったよ。」と長男は言いました。

—Ez, ez, nik ez dut jantziko. Gure etxe aurreko intxaurrondoari lotuko diot!

Eta gerrikoa hartu eta intxaurrondoari lotzera joan zen. Lotu zion eta intxaurrondoa berotzen eta berotzen hasi zen; ketan jarri zen ondoren, eta su-garretan azkenik.

Etxeko denek ikusi zuten harriturik nola etxe aurreko intxaurrondoa kiskalita geratu zen eta hura egon zen lekuan ikaragarrizko zuloa egin zen.

---

104. **—Ez, ez, nik ez dut jantziko.**
　　　　　　　主語　　動詞

ez: 否定辞「いいえ」。

nik: 1人称単数代名詞 ni の能格形「私が」。

ez dut jantziko： ez は否定辞。dut は ＜izan［他助］直説法現在 NOR-NORK 活用「私は3単を～する」。NOR（直接目的語）は文脈と助動詞の形から「帯」であることがわかる。jantziko は jantz-i［他］「着る，身に着ける」の未来分詞。否定文の語順に注意。否定辞 ez は，自動的に文の focus になるので，動詞の複合形では助動詞の直前，動詞の単純形ではその直前に置かれる。

《いや，いや，おれは（それを）身に着けないだろう》

104–5. **Gure etxe aurreko intxaurrondoari lotuko diot !**
間接目的語　動詞

gure etxe aurreko intxaurrondoari： 他動詞 lotuko diot の間接目的語。gure［連］「私たちの」，etxe は［名］「家」不定形絶対格で，aurreko に形容詞のようにかかる。aurreko は aurre［名］「前方」＋定形単数位置属格語尾 -ko，「前方の」。intxaurrondoari は intxaurrondo［名］「胡桃の木」＋定形単数与格語尾 -ari，「胡桃の木に」。ここまで「私たちの家の前の胡桃の木に」。

lotuko diot： lotuko は lot-u［他］「結び付ける」の未来分詞。diot は izan［他助］直説法現在 NOR-NORI-NORK 活用，NOR（直接目的語）＝3単，NORI（間接目的語）＝3単，NORK（主語）＝nik「私が」，「私が3単に3単を～する」。NOR（直接目的語）は「帯」，NORI（間接目的語）は intxaurrondoari を指す。

《（おれはその帯を）おれたちの家の前の胡桃の木に結び付けよう》

106–7. **Eta gerrikoa hartu eta intxaurrondoari lotzera joan zen.**
gerrikoa：動詞1の目的語　hartu：動詞1　intxaurrondoari：lotzera の間接目的語　joan zen：動詞2

gerrikoa： gerriko［名］＋定形単数絶対格語尾 -a，「帯を」。他動詞 hartu の直接目的語。hartu は［他］「取る」完了分詞。助動詞が省略されているが，『主語＋動詞1＋動詞2＋…eta 動詞n』の構文では，最後の動詞のみが完全な活用をし，それ以外の動詞は全て完了分詞の形で現れることが多い。この文では，主語である「弟が」に対して「取った」hartu と「行った」joan zen という二つの動詞が並んでおり，最初の hartu は完了分詞のみ，最後の joan zen は完了分詞＋助動詞の完全な活用をしている。

intxaurrondoari lotzera： intxaurrondoari は intxaurrondo［名］「胡桃の木」＋定形単数与格語尾 -ari，「胡桃の木に」。lotzera の間接目的語。lotzera は lot-u［他］「結び付ける」の -t(z)era 形「結び付けに」（⇨ l. 23, jasotzera）。直接目的語は「帯を」。

joan zen： joan［自］「行く」，zen は ＜izan［自助］直説法過去 NOR 活用「3単が～した」（⇨ l. 10）。hartu の主語も joan の主語も「弟」である。

《そして（弟は）帯を取り上げ，（その帯を）胡桃の木に結び付けに行った》

107–8. **Lotu zion eta intxaurrondoa berotzen eta berotzen hasi zen ;**

lotu zion： lotu は［他］「結び付ける」の完了分詞，zion は izan［他助］直説法過去 NOR-NORI-NORK 活用「3単が3単

に3単を～した」(⇨ l. 26)。NORK は「弟は」, NOR は「帯を」, NORI は「胡桃の木に」。

eta：[接続]「すると」。

intxaurrondoa： intxaurrondo [名]「胡桃の木」＋定形単数絶対格語尾 -a。hasi zen の主語。「胡桃の木は」。

berotzen eta berotzen hasi zen： hasi は [自]「始まる」。『動詞の不完了分詞＋has-i』は「～し始める」を表す。ここでは bero-tu [自]「熱くなる」の不完了分詞 berotzen とともに「熱くなり始める」。berotzen eta berotzen と，不完了分詞を繰り返すことによって「だんだん，ますます」の意味が添えられる。zen は izan [自助] 直説法過去 NOR 活用「3単が～した」(⇨ l. 10)。

《(弟は帯を胡桃の木に)結び付けた，すると胡桃の木はだんだん熱くなり始めた》

108. **ketan jarri zen ondoren,**

ketan： ke [名]「煙」＋不定形内格語尾 -tan,「煙の中に」。

jarri zen： jarri [自]「ある状態の中に身をおく」完了分詞, zen は izan [自助] 直説法過去 NOR 活用「3単が～した」。NOR は前項の intxaurrondoa。「煙の中に身をおいた→煙に包まれた」の意。

ondoren：「次に」。

《次に(胡桃の木は)煙に包まれた》

109. **eta su-garretan azkenik.**

su-garretan： su-gar [名]「炎」＋繋ぎの子音 -r-＋不定形内格語尾 -etan,「炎の中に」。su-gar は su「火」と gar「火炎」から成る複合名詞。

azkenik：「最後に，ついに」。前項と同じ動詞 jarri zen が省略されている。

《そしてついに炎に(包まれた)》

110-2. **Etxeko denek ikusi zuten harriturik nola etxe aur-**
主　語　動　詞　直接目的語 1
reko intxaurrondoa kiskalita geratu zen eta hura egon
(直接目的語 1 の続き)　直接目的語 2
zen lekuan ikaragarrizko zuloa egin zen.
(直接目的語 2 の続き)

☆動詞部に直接目的語となる nola に導かれる名詞節が二つ付いている。

Etxeko denek ikusi zuten harriturik： etxeko denek は他動詞 ikusi zuten の主語。etxeko は etxe [名]「家」＋定形単数位置属格語尾 -ko,「家の」。denek は den [代]「全員」の定形複数能格。「全員が」。動詞部 ikusi zuten の ikusi [他]「見る」完了分詞，zuten は izan [他助] 直説法過去 NOR-NORK 活用, NOR＝3単, NORK＝3複,「3複が3単を～した」。NOR (直接目的語) は nola 以下。NORK＝etxeko denek。harriturik は harri-tu [自]「驚く」＋状態を表す副詞を作る語尾 -rik,「驚いて」。ここまでが主節で「家の者全員が驚いて (nola 以下の事を) 見た」。

nola etxe aurreko intxaurrondoa kiskalita geratu zen： nola は，元来，疑問副詞「どのように」だが，『nola＋動詞・助動詞の -n 節』が名詞節を表すことがある。この nola もそれにあたり，前項の ikusi zuten の目的語となる名詞節を導く。etxe aurreko は「家の前の」(⇨ l. 104)。intxaurrondoa は intxaur-

rondo [名]「胡桃の木」+定形単数絶対格語尾 -a,「胡桃の木が」。geratu zen の主語。kiskalita geratu zen の kiskalita は kiskali [自]「焼け焦げる」に完了した状態を表す語尾 -ta が付いた形(⇨ l. 23, utzita)。geratu は [自]「(ある状態に) なる, 陥る」完了分詞, zen は izan [自助] 直説法過去 NOR 活用「3単が～した」。ここまで「家の前の胡桃の木が焼け焦げてしまったのを」。

eta hura egon zen lekuan ikaragarrizko zuloa egin zen: この文も前項の nola に導かれる名詞節でやはり ikusi zuten の目的語となる。hura egon zen は lekuan にかかる連体修飾節。hura は egon zen の主語で [代]「あれ・それが」。intxaurrondoa を指す。egon は [自]「いる, ある」完了分詞, zen は izan [自助] 直説法過去 NOR 活用「3単が～した」だが, ここでは lekuan にかかる連体形で「3単が～したところの」。lekuan は leku [名]「場所」+定形単数内格語尾 -an,「場所に」。ここまで「それがあったところの場所に」。なお, egon zen と zegoen は, それぞれ egon 動詞の主語が3人称単数の場合の直説法過去の複合形と単純形であるが, 複合形 egon zen の方は「(それまで) あった」, 単純形 zegoen は「(その時) あった」を表す。複合形と単純形の双方を持つ動詞は, egon に限らず, この様な使い分けのあるものが多い (⇨ l. 6 dago, l. 70 izan zen, l. 99 zioen)。ikaragarrizko zuloa の ikaragarrizko は [連]「ものすごい」, zuloa は zulo [名]「穴」+定形単数絶対格語尾 -a。「ものすごい穴が」。動詞部 egin zen の egin は本来他動詞だが, ここでは zuloa と結び付き,「穴があく」という自動詞を形成する。完了分詞。zen は izan [自助] 直説法過去 NOR 活用「3単が～した」。ここまで「それがあった場所にものすごい穴があいたのを」。

《家のみんなは, 家の前の胡桃の木が焼け焦げてしまったのを,

そしてそれがあった場所にものすごい穴ができたのを, 驚嘆のうちに見た》

〈訳〉「いや, 嫌だね, 身に着けたりするもんか。家の前の胡桃の木に結びつけてやる!」

そして帯を取り上げ, 胡桃の木に結びつけに行きました。帯を結びつけると, 胡桃の木はだんだん熱くなり始めました, そして次には煙に包まれ, とうとう火を噴いて燃え出しました。

家の者全員が, 家の前の胡桃の木が焼けこげたさまを, そして胡桃があった場所には巨大な穴ができたのをあっけにとられて見つめました。

Handik hiru egunetara joan ziren bi anaiak Baltzolako leze-zulora, eta gizon xahar eta mantxu bat agertu zitzaien, eta gazteenari zuzen-zuzen begiraturik, galdera hau egin zion:

— Zergatik ebaki zenidan besoa?

— Nik? Noiz ebaki dizut zuri besorik, inoiz ikusi ere ez zaitut egin eta?

Baina, gizonak, falta zitzaion beso-zatia erakutsiz, honela esan zion:

—Ahazturik duzu, biok hementxe zeundeten behin suge bati buztana ebaki zeniola?

— Ez, ez dut ahaztu. Badakit ebaki niola.

113–4. **Handik hiru egunetara joan ziren bi anaiak**

動詞　主語

Baltzolako leze-zulora,

handik hiru egunetara: handik [副]「その時から」(⇒ l. 76)。hiru [数]「3」。egunetara は egun [名]「日」＋不定形方格語尾 -etara, 数詞を伴って「～日後に」。ここまで「それから三日後に」。

joan ziren: joan [自]「行く」完了分詞, ziren ＜izan [自助] 直説法過去 NOR 活用「3複が～した」(⇒ l. 22)。

bi anaiak: 自動詞 joan ziren の主語。bi「二人の」, anaiak は anaia [名]「兄弟」＋定形複数絶対格語尾 -k,「その二人の兄弟は」。

Baltzolako leze-zulora:「バルツォラの洞穴へ」。

《二人の兄弟はバルツォラの洞穴へ行った》

114–5. **eta gizon xahar eta mantxu bat agertu zitzaien,**

主　語　動　詞

gizon xahar eta mantxu bat: agertu zitzaien の主語。gizon [名]「男」, xahar「非常に年老いた」, mantxu [形]「片腕の」, いずれも不定形絶対格。bat [数]「1」絶対格。「ひとりの片腕のとても年取った男が」。

agertu zitzaien: agertu [自]「現れる」, zitzaien ＜izan [自助] 直説法過去 NOR-NORI 活用「3単が3複に～した」(⇒ l. 24)。NOR (主語)＝gizon ～ bat, NORI (間接目的語) は「二人の兄弟に」を指す。

《すると片腕の年老いた男が (兄弟に) 現れた》

115–6. **eta gazteenari zuzen-zuzen begiraturik,**

galdera hau egin zion:

直接目的語　動詞

gazteenari zuzen-zuzen begiraturik: gazteenari は gazte [形]「年少の」＋最上級語尾 -en＋定形単数与格語尾 -ari,「最年少の者に」。begiraturik の間接目的語。最年少の者とはここでは弟を指す。zuzen-zuzen [副]「まっすぐに」。begiraturik は begira-tu [他]「見つめる」＋状態を表す副詞を作る語尾 -rik で「見つめながら」。

galdera hau: egin zion の直接目的語。galdera [名]「質問」不定形絶対格, hau [形]「この」絶対格。「この質問を」。

egin zion: egin [他]「する」完了分詞, zion ＜izan [他助] 直説法過去 NOR-NORI-NORK 活用「3単が3単に3単を～した」。NOR (直接目的語)＝galdera hau, NORI (間接目的語)＝gazteenari, NORK (主語) は「老人が」。

《そしてまっすぐに弟を見つめながら (老人は弟に) この質問をした》

117. **—Zergatik ebaki zenidan besoa?**

疑問副詞　動　詞　直接目的語

zergatik: [副]「なぜ」。

ebaki zenidan: ebaki は [他]「切断する」完了分詞, zenidan は ＜izan [他助] 直説法過去 NOR-NORI-NORK 活用, NOR (直接目的語)＝3単, NORI (間接目的語)＝niri「私に」, NORK (主語)＝zuk「あなたが」の場合の活用形「あなたが私に3単を～した」(⇒ 表 34)。3単の NOR は besoa。

besoa: beso [名]「腕」＋定形単数絶対格語尾 -a。ebaki zeni-

dan の NOR (直接目的語)「3単を」にあたる。

《なぜ(お前は私に)腕を切り落としたのだ?》

118. — **Nik? Noiz ebaki dizut zuri besorik,**

疑問副詞　動詞　間接目的語　直接目的語

nik：[代] 能格「私が」。

noiz：[副]「いつ」。

ebaki dizut： ebaki [他]「切断する」, dizut＜izan [他助] 直説法現在 NOR-NORI-NORK 活用, NOR (直接目的語)＝3単, NORI (間接目的語)＝zuri「あなたに」, NORK (主語)＝nik「私が」の場合の形「私があなたに3単を～する」(⇨ 表 35)。「私があなたに(3単を) 切断した」。

zuri： zu [代] の与格「あなたに」。ebaki dizut の間接目的語。

besorik： ebaki dizut の直接目的語。beso [名]「腕」＋分格語尾 -rik (⇨ l. 31, kalterik の項)。他動詞の直接目的語として絶対格を取っても良いところだが, 分格を用いることにより,「腕など少しでも」の意味が含まれる。疑問詞を含む疑問文の語順については l. 98, zertarako の項参照。

《おれが? いつ(おれが)あんたの腕を切断した?》

118-9. **inoiz ikusi ere ez zaitut egin eta?**

副詞　動詞部　接続詞

inoiz：[副] 否定文中で「今まで一度も～ない」を表す。

ikusi ere ez zaitut egin： ez zaitut ikusi の, ez は否定辞, zaitut は izan [他助] 直説法現在 NOR-NORK 活用, NOR (直接目的語)＝zu「あなたを」, NORK (主語)＝nik「私が」,「私があなたを～する」(⇨ 表 32), ikusi は [他]「見る, 会う」完了分詞で,「私はあなたに会わなかった, 会ったことがない」の意。ere は,「～も」だが, この語は, 日本語の「も」によく似て, 普通この語によって限定したい語句の直後に置かれる。が, 限定したい語句が動詞の場合は,『動詞の完了分詞＋ere＋egin』の形を取らねばならない。また, その場合, egin が分詞としての変化をする。この文はたまたま完了相の文なので, egin は完了分詞形であるが, 不完了相, 未来相の場合は次のようになる (⇨ l. 51, tristetu egin zen)。

ikusi ere ez zaitut egin：　(今まで) あなたに会いもしなかった

ikusi ere ez zaitut egiten：(日頃) あなたに会ってもいない

ikusi ere ez zaitut egingo：(将来) あなたに会いもしないだろう

語順は ez zaitut ikusi ere egin / egiten / egingo でも可。

eta：「～なので」。

《あんたに会ったこともないのだから》

120-1. **Baina, gizonak, falta zitzaion beso-zatia erakutsiz,**

主語

honela esan zion:

動詞

gizonak： gizon [名]「男」＋定形単数能格語尾 -ak,「男が」。erakutsiz と esan zion の主語。

falta zitzaion beso-zatia： erakutsiz の直接目的語。falta zitzaion は beso-zatia にかかる連体修飾節。falta zitzaion は falta izan [自]「欠けている」の izan の部分が zitzaion＜izan [自助] 直説法現在 NOR-NORI 活用, NOR および NORI＝

3単,「3単が3単に～した」の形に活用したもの (⇨l. 54, 表12)。falta izan は bizi izan (l. 15) 同様, 熟語的な動詞。また zitzaion は連体形。動詞・助動詞の活用形でもともと -n で終わるものはそのまま連体形にもなるが, 強勢は最後の音節に置かれるのが普通 (⇨l. 23 zituzten, l. 51 zegoen の項)。beso-zatia は beso-zati [名]「腕の一部」+定形単数絶対格。「彼に欠けている腕の一部を」, つまり「とれてしまった腕の一部を」。

erakutsiz: erakuts-i [他]「見せる」に語尾 -z が付いた形で「見せながら」(⇨l. 77, ekarriz の項)。

honela: 「この様に」。

esan zion: esan [他]「言う」完了分詞, zion＜izan [他助] 直説法過去 NOR-NORI-NORK 活用,「3単が3単に3単を～した」(⇨l. 26)。NOR (直接目的語) は次のせりふ, NORI (間接目的語) は弟, NORK (主語) は gizonak。「(男は弟に次のことを) 言った」。

《しかし, 男は, とれてしまった腕を見せながら, (彼に) 次の様に言った》

122-3. **—Ahazturik duzu, biok hementxe zeundeten**

動詞

behin suge bati buztana ebaki zeniola?

直接目的語 (名詞節)

☆『動詞+直接目的語』の型だが, 目的語が名詞節になっている。

ahazturik duzu: ahazturik は ahaz-tu [自/他]「忘れる」に, 状態を表す副詞を作る語尾 -rik が付いた形「忘れて」(⇨l. 3, zabaldurik の項)。duzu は izan [他] 直説法現在 NOR-NORK 活用単純形, NOR (直接目的語)=3単, NORK (主語)

=zuk「あなたが」,「あなたが3単を持っている」だが,『動詞の完了分詞+-rik+izan [他]』は「～してしまっている」を表す。ここでは「忘れてしまっている」。ここまで「お前は忘れてしまっている」。

biok hementxe zeundeten behin: biok は zeundeten の主語。bi [数]「二人」+近い複数形の絶対格語尾 -ok,「あなたたち二人が」。hementxe は「ほかならぬここに」(⇨l. 10, horretantxe, l. 71, hantxe)。zeundeten は egon [自]「いる, ある」直説法過去 NOR 活用, 単純形 NOR (主語)=zuek の場合の形「あなたたちがいた」(⇨表27)。ここでは behin を修飾する連体形 (⇨l. 23, zituzten の項)。behin は [名/副]「一度, ある時, かつて」。ここまで「一度おまえたち二人がこの場所にいたとき」。

suge bati: ebaki zeniola の間接目的語。suge「蛇」は不定形絶対格, bati は bat [数]「1」+与格語尾 -i。「一匹の蛇に」。

buztana: buztan [名]「尻尾」+定形単数絶対格語尾 -a。ebaki zeniola の直接目的語。「尻尾を」。

ebaki zeniola: ebaki [他]「切断する」完了分詞, zeniola は, zenion＜izan [他助] 直説法過去 NOR-NORI-NORK 活用, NOR (直接目的語)=3単, NORI (間接目的語)=3単, NORK (主語)=zuk「あなたが」の場合の形「あなたが3単に3単を～した」(⇨表14) に, 名詞節を作る語尾 -la が付いた形 (⇨l. 66, dituzula の項)。NORI (間接目的語) は suge bati, NOR (直接目的語) は buztana。

《かつて一度お前たち二人がこの場所にいたとき, 一匹の蛇の尻尾を切断したことをお前は忘れてしまっている》

124. **—Ez, ez dut ahaztu.**

ez：「いいえ」。

ez dut ahaztu： ez は否定辞。dut は izan [他助] 直説法現在 NOR-NORK 活用「私が3単を～する」。ahaztu [他]「忘れる」完了分詞。ahaz-tu は自動詞としても他動詞としても用いられるが，ここでは他動詞扱い。否定文の語順に注意 (⇨ l. 104)。

《いや，(私は)忘れてはいない》

124. **Badakit ebaki niola.**

動詞　直接目的語 (名詞節)

badakit： ba- は肯定を強調する接頭辞 (⇨ l. 17, bazuten の項)。dakit は jakin [他]「知る」直説法現在 NOR-NORK 活用単純形, NOR (直接目的語)＝3単, NORK (主語)＝nik「私が」の場合の形で「私が3単を知っている」(⇨ 右表)。

— 表 40 —

jakin [他] 直説法現在
NOR-NORK 活用単純形

	NORK (主語)	活用
sg.	1 nik	daki(zki)t
	2 hik	daki(zki)k/n
	3 hark	daki(zki)
pl.	1 guk	daki(zki)gu
	2 zuk	daki(zki)zu
	2′ zuek	daki(zki)zue
	3 haiek	daki(zki)te

☆ -zki- は NOR＝直接目的語が3複の時現れる。

ebaki niola： badakit の目的語となる名詞節。ebaki は [他]「切断する」完了分詞, niola は nion＜izan [他助] 直説法過去 NOR-NORI-NORK 活用, NOR (直接目的語)＝3単, NORI (間接目的語)＝3単, NORK (主語)＝nik「私が」の場合の形「私が3単に3単を～した」に，名詞節を作る語

尾 -la が付いた形。NOR (直接目的語), NORI (間接目的語) は，それぞれ前項の buztana, suge bati。

《(私が蛇に尻尾を)切断したということはわかっている》

〈訳〉 それから三日経って，二人の兄弟はバルツォラの洞穴へ行きました。すると片腕のない老人が彼らの前に現れ，次男を真っ直ぐに見据えながら，こう尋ねました。

「なぜ私の腕をもいだのだ?」

「おれが? いつおれがあんたの腕をもいだんだ? あんたに会ったことさえないのに」

しかし男はとれてしまった腕を見せ，このように言いました。

「以前一度お前たち二人がこの場にいたとき，一匹の蛇の尻尾をもいだことを，お前は忘れてしまったのだな」

「いや，忘れてはいないよ。蛇の尻尾をもいだことは知っているよ」

— Ba, ez zenion suge bati ebaki, niri baizik. Suge hura neu naiz, eta orain hemen nago besorik gabe. Emaizkiozu eskerrak lepoan daramazun kuttun horri (gazteak beti erabiltzen zuen bat). Hori aldean ez bazenu izan, errukikarri zinatekeen! Baina, hala ere, Iturriondobetiar guztiok madarikatzen zaituztet: "Zuen artean mantxurik, herrenik, gorrik edo itsurik ez da inoiz faltako!"

Madarikazioa esan eta haitzulo barrura joan zen,

eta han ezkutatu zen.

125.　— **Ba, ez zenion suge bati ebaki, niri baizik.**

間接目的語1　間接目的語2

動詞

ba: [間]「だから」。

ez zenion ebaki: ez は否定辞, ebaki は [他]「切断する」, zenion は izan [自助] 直説法過去 NOR-NORI-NORK 活用, NOR (直接目的語) および NORI (間接目的語)=3単, NORK (主語)=zuk「あなたが」。「あなたが3単に3単を～した」(⇨ l. 123)。否定文の語順に注意 (⇨ l. 104)。NOR は buztana, NORI は suge bati。ここまで「あなたは(蛇に尻尾を)切断しなかった」。

suge bati: bati は bat [数]「1」+不定形与格語尾 -i。ebaki zenion の間接目的語。「一匹の蛇に」。

niri baizik: niri は ni [代] の与格形「私に」。baizik [接続] は否定文の文末に置かれ,「(～ではなく) ～である」。ここでは suge bati を打ち消し, niri を肯定している。「蛇にではなく, 私に」。

《だから, (お前は)蛇に(尻尾を)切断したのではない, 私に(腕を切断したの)だ》

126.　**Suge hura neu naiz,**

主語　補語　動詞

suge hura: この文の主語。suge「蛇」不定形絶対格, hura は [形]「あの・その」絶対格。「あの蛇は」。

neu: [代] ni の強調形で「私こそ」。絶対格。強調形の語は,

つねに galdegaia (文の focus) として動詞の直前の位置を占める。

naiz: izan [自] 直説法現在 NOR 活用, 単純形 NOR (主語)=ni「私は」の場合の形「私は～である」(⇨表3)。

《その蛇は, だれあろうこの私だ》

126-7.　**eta orain hemen nago besorik gabe.**

orain: [副]「今」。

hemen: [副]「ここに」。

nago: egon [自]「いる, ある」直説法現在 NOR 活用, 単純形, NOR (主語)=ni「私が」,「私がいる」(⇨表8)。

besorik gabe: besorik は beso [名]「腕」+分格語尾 -rik で, gabe と結び付いて「一つもない」を表す。gabe は [後]「～なしで」。「腕なしで, 腕のない状態で」。

《そして今ここに腕なしでいる》

127-8.　**Emaizkiozu eskerrak**

動詞　直接目的語

lepoan daramazun kuttun horri

間接目的語

emaizkiozu: eman iezazkiozu の短縮形「(あなたは)3単に3複を与えなさい」(⇨ l. 80, emaiozu の項, 表36)。

eskerrak: emaizkiozu の直接目的語。esker [名]「感謝」+繋ぎの子音 -r-+定形複数絶対格語尾 -ak で「感謝を」。eskerrak eman は「感謝する」。

lepoan daramazun kuttun horri: emaizkiozu の間接目的語, lepoan daramazun は kuttun を修飾する連体節。lepoan

—表 41—

eraman [他] 直説法現在
NOR-NORK 活用単純形

		NORK (主語)	活用
sg.	1	nik	darama(tza)t
	2	hik	darama(tza)k/n
	3	hark	darama(tza)
pl.	1	guk	darama(tza)gu
	2	zuk	darama(tza)zu
	2′	zuek	darama(tza)zue
	3	haiek	darama(tza)te

☆ -tza- は NOR＝直接目的語が 3 複の時現れる。

は lepo [名]「首」＋定形単数内格語尾 -an,「首に」。daramazun は，daramazu＜eraman [他]「持って行く，連れていく（ここでは「身に着けている」)」の直説法現在 NOR-NORK 活用単純形，NOR (直接目的語)＝3 単，NORK (主語)＝zuk「あなたが」の場合の形で「あなたが 3 単を身に着けている」(⇨ 表 41) に，連体形語尾 -n が着いた形。「あなたが身に着けているところの (3 単)」。kuttun は [名]「お守り」不定形絶対格，horri は指示形容詞 hori「その～」の与格形，「その～に」。

《お前が首にかけているそのお守りに感謝しろ》

128. **(gazteak beti erabiltzen zuen bat).**

連体修飾節　　　被修飾語

gazteak： erabiltzen zuen の主語。gazte [名]「若者」＋定形単数能格語尾 -ak。「若者が」。

beti：[時]「いつも」。

erabiltzen zuen： erabiltzen は erabil-i [他]「使う」不完了分詞，zuen は izan [他助] 直説法過去 NOR-NORK 活用「3 単が 3 単を～した」の連体形で bat にかかる。

bat： ここでは名詞的に「一つのもの」，kuttun「お守り」の代わりに代名詞として使われている。

《若者がいつも用いていたもの》

128-9. **Hori aldean ez bazenu izan, errukikarri zinatekeen !**

直接目的語　　動　詞　　主格補語　　動　詞
条件節　　帰結節

☆事実に反する仮定を表す条件法過去の文。

hori： [代]「それ」定形単数絶対格，他動詞 ez bazenu izan の直接目的語，「それを」。お守りを指す。

aldean： 「側に」。

ez bazenu izan： ez は否定辞。bazenu は izan [他助] 条件法条件 NOR-NORK 活用，NOR (直接目的語)＝3 単，NORK (主語)＝zuk「あなたが」，「もしあなたが 3 単を～したら」(⇨ 表 23)。izan はここでは [他]「持つ」完了分詞。izan bazenu は『完了分詞＋助動詞の条件法』で過去の事実に反する仮定を表している。「もしあなたがそれ (おまもり) を持っていなかったら」。

errukikarri：[形]「あわれな」。

zinatekeen： izan [自] 条件法帰結過去 NOR 活用，NOR (主語)＝zu「あなたは」の場合の形で「あなたは～だっただろう」。主語は 2 人称単数，すなわち弟。(⇨ 表 42)。

—表 42—

izan [自/自助] 条件法帰結現在と過去 NOR 活用

		NORK (主語)	活　用
sg.	1	ni	nintzateke(en)
	2	hi	hintzateke(en)
	3	hura	litzateke/zatekeen
pl.	1	gu	ginateke(en)
	2	zu	zinateke(en)
	2′	zuek	zinatekete(n)
	3	haiek	lirateke/ziratekeen

☆ -en が付くと過去形になる。3 人称では前者が現在形，後者が過去形。

《(お前が) それを傍らに持っていなかったら，(お前は) あわれなことになっていただろう》

130–1. **Baina, hala ere, Iturriondobetiar guztiok**
直接目的語
madarikatzen zaituztet:
動　詞

baina:「しかし」。

hala ere:「とはいうものの」。

Iturriondobetiar guztiok: madarikatzen zaituztet の直接目的語。Iturriondobetiar「イトゥリオンドベティの家の人」定形単数絶対格。家の名や名字や地名に語尾 -(t)ar を付して「～家の人」「～の人」の意味になる。guztiok は guzti [形]「全ての」

＋近い複数の絶対格語尾 -ok「あなたたち全ての～を」で，Iturriondobetiar にかかる。

madarikatzen zaituztet: madarikatzen は madarika-tu [他]「呪う」の不完了分詞，zaituztet は izan [他助] 直説法現在 NOR-NORK 活用，NOR (直接目的語)＝zuek「あなたたちを」，NORK (主語)＝nik「私が」の場合の形で「私があなたたちを～する」(⇨ 表 43)。

《お前たちイトゥリオンドベティ家の者全員を (私は) 呪う》

—表 43—

izan [他/他助] 直説法現在と過去 NOR-NORK
NOR (直接目的語)＝zuek「あなた達・君達を」

		NORK (主語)	現在	過去
sg.	1	nik	zaituztet	zintuztedan
	2	hik	—	—
	3	hark	zaituzte	zintuzten
pl.	1	guk	zaituztegu	zintuztegun
	2	zuk	—	—
	2′	zuek	—	—
	3	haiek	zaituztete	zintuzteten

131–2. **“Zuen artean mantxurik, herrenik, gorrik edo**
主　語
itsurik ez da inoiz faltako!”
動　詞

zuen artean: zuen は [連]「あなたたちの」，artean は arte

[名]「あいだ」+定形単数内格語尾 -an,「あなたたちの間において」。

mantxurik, herrenik, gorrik edo itsurik: それぞれ mantxu [名]「片腕の人」, herren [名]「足の悪い人」, gor [名]「耳の聞こえない人」, itsu [名]「目の見えない人」+分格語尾 -rik。いずれも自動詞 ez da faltako の主語となっている。edo は「または」。

ez da inoiz faltako: inoiz は否定文中で「一度も～ない」。ez da faltako の ez は否定辞。da は izan [自助] 直説法現在 NOR 活用「3単が～する」, faltako は falta izan [自]「欠けている」の未来分詞で, 本来 falta izango となるべきところだが, falta izan, bizi izan などの熟語的な動詞から分詞や動名詞 (-t(z)ea 形, -t(z)eko 形など) を作る時, 特に口語では faltako, biziko などとより簡単な形に短縮する傾向が強い (⇨ l. 41, bizitzeko の項)。

《お前たちのあいだには, 片腕の者, 足の悪い者, 耳の聞こえない者, または目の見えない者が欠けることがないだろう》

133-4. Madarikazioa esan eta haitzulo barrura joan zen, eta han ezkutatu zen.

madarikazioa: esan の直接目的語。madarikazio [名]「呪いの言葉」+定形単数絶対格語尾 -a,「呪いの言葉を」。

esan: [他]「言う」。助動詞 zuen が省略されている (⇨ l. 106, hartu の項)。

haitzulo barrura: haitzulo [名]「岩穴」は不定形絶対格で barrura に形容詞的にかかる。barrura は barru [名]「中」+定形単数方格語尾 -ra,「中へ」。不定形絶対格の名詞に後置され「～の中へ」。

joan zen: joan [自]「行く」, zen < izan [自助] 直説法過去 NOR 活用「3単が～した」(⇨ l. 10)。

han: 「あそこに」。

ezkutatu zen: ezkutatu は [自]「隠れる」完了分詞, zen は izan [自助] 直説法過去 NOR 活用「3単が～した」。

《呪いの言葉を言い, (彼は) 洞穴の中へ入った, そしてそこに隠れた》

〈訳〉「それだよ, おまえは蛇の尻尾をもいだのではない。わしの腕を切り落としたのだ。その蛇はだれあろうこのわしだ。そして今腕をなくしてここにいるのだ。首に掛けているそのお守り (若者がいつも用いていたもの) に感謝するのだな, それが側になかったらお前はあわれなことになっていただろうよ! だがそれでもお前たちイトゥリオンドベティの者ども全てを呪ってやるぞ, 『お前たちのうちには片腕, 片足, 耳の聞こえぬ者, または目の見えぬ者の欠けることがないであろう!』」

老人はこの呪いの言葉を吐いて, 洞穴の中に入って行き, そこに姿を消しました。

2. LAMIA ETA GIZON APUSTULARIA

ラミアと賭けの好きな男

Lamia: [名]「ラミア」。バスクの伝説，民話に登場するキャラクター。定形単数絶対格。
eta: [接続]「〜と〜」。
gizon: [名]「男」。不定形絶対格。
apustularia: apustulari [形/名]「賭をする(人)，賭好きな(人)」＋定形単数絶対格語尾 -a。ここでは gizon にかかる形容詞。

Euskalerriko Kondaira edo Elezaharretako beste pertsonaia batzu LAMIAK dira.

Batzuren ustez, Lamiak itsasneskak edo itsasandereak bezalakoak ziren, hau da, gerritik gora emakume gorputza zuten, eta gerritik behera arraiena bezalakoa. Beste batzuk esaten zutenez, gorputz osoa, oinak ezik, emakumeena bezalakoa zuten. Oinak, ordea, hegaztienak bezalakoak, eta ibaietan bizi omen ziren.

1-2. **Euskalerriko Kondaira edo Elezaharretako beste pertsonaia batzu LAMIAK dira.**

Euskalerriko Kondaira edo Elezaharretako beste pertsonaia batzu：この文の主語。Euskalerriko は Euskalerria [名]「バスク地方，バスク国」＋位置属格語尾 -ko「〜の」。共通バスク語では Euskal Herria と綴る。Kondaira は [名]「伝説」の定形単数絶対格。もともと -a で終わる語なので絶対格では定形・不定形同形である。edo は [接続]「または」。Elezaharretako は elezahar [名]「古くから伝わるお話」＋繋ぎの子音 -r-＋定形複数位置属格語尾 -etako。beste は [連]「別の，他の，それ以外の」。pertsonaia は [名]「登場人物」，後ろに修飾語を伴うので不定形絶対格。kondaira 同様，もともと -a で終わる語。batzu は [形]「いくつかの」不定形絶対格，pertsonaia にかかる。「バスク地方の伝説または説話の他の登場キャラクターのいくつかは」。

LAMIAK： lamia「ラミア」＋定形複数絶対格語尾 -k。主格補語。

dira： ＜izan [自] 直説法現在 NOR 活用単純形，「3複は〜である」(⇨ 表 3)。

《バスク地方の伝説または昔話の他の登場キャラクターのいくつかはラミアたちである》

3-4. **Batzuren ustez, Lamiak itsasneskak edo itsasandereak bezalakoak ziren,**

batzuren ustez： batzuren は batzu [代]「何人かの人々；ある人々」＋不定形所有属格語尾 -ren。「ある人々の」。ustez は uste [名]「考え」＋具格語尾 -z，「考えでもって」。

lamiak： この文の主語。lamia の定形複数絶対格，「ラミアたちは」。

itsasneskak edo itsasandereak bezalakoak： itsasneskak は

itsasneska [名]「人魚」＋定形複数絶対格語尾 -k, itsasandereak は itsasandere [名]「人魚」＋定形複数絶対格語尾 -ak。itsas- は itsaso [名]「海」から派生した，複合語を作る要素。neska は [名]「少女，娘」，andere は [名]「婦人」。andre とも言う。edo は「または」。bezalakoak は bezala＋位置属格語尾 -ko＋定形複数絶対格語尾 -ak (⇨ Baltzola, l. 35) で「〜のようなもの・こと・人(複)」の意。ここまで「人魚のような者たち」。

ziren：＜izan [自] 直説法過去 NOR 活用単純形，NOR (主語)＝3複の場合の形で「3複は〜であった」(⇨表9)。3複の NOR (主語) は lamiak。

《ある人々の考えでは，ラミアたちは人魚のような者たちだった》

4. **hau da,**

hau は [代]「これ」の絶対格「これは」，da は izan [自] 直説法現在 NOR 活用「3単は〜だ」。直訳すると，「これだ」となるが，さらに詳しい説明，さらにわかりやすい説明を付け加えたいときに「つまりこういうことです」ぐらいの意味で使われる語句。

《つまり》

4–5. **gerritik gora emakume gorputza zuten.**

gerritik gora：gerritik は gerri [名]「腰」＋定形単数奪格語尾 -tik,「腰から」。gora は「上へ」。goi [名]「上」＋方格語尾 -ra と考えられる。「腰から上へ」。

emakume gorputza：zuten の目的語。emakume は [名]「女」の不定形絶対格で，ここでは形容詞的に gorputza に前置

されている (⇨ Baltzola, l. 76, urre zati の項)。gorputza は gorputz [名]「体」＋定形単数絶対格 -a。「女の体を」。

zuten：＜izan [他] 直説法過去 NOR-NORK 活用，NOR (直接目的語)＝3単，NORK (主語)＝3複，「3複は3単を持っていた」。NOR は emakume gorputza, NORK は「ラミアたち」。

《腰から上は女性の体を持っていた》

5–6. **eta gerritik behera arraiena bezalakoa.**

eta：「そして」。

gerritik behera：gerritik は前項と同じく「腰から」。behera は behe [名]「下」＋方格語尾 -ra で「下へ」。「腰から下へ」。

arraiena bezalakoa：arraiena は arrai [名]「魚」の定形複数所有属格 arraien「魚の」に，定形単数絶対格語尾 -a が付いて名詞化した形で「魚たちのもの」。この「もの」とはここでは gorputza「体」を指している。つまり arraien gorputza となるべきところを，前項ですでに用いている語 gorputza を繰り返さないために定形語尾 -a のみを代名詞のように用いたもの (上表参照)。

arraien gorputza
↓
arraien (gorputz)a
↓
arraien -a
↓
arraiena

bezalakoa は「〜のようなもの」(⇨ Baltzola, l. 35, Lamia, l. 4)。

《腰から下は魚の(体の)ようなのを(持っていた)》

6. **Beste batzuk esaten zutenez,**

beste batzuk：beste [連]「他の」，batzuk は batzu [代]「何

人かの人々；ある人々」＋不定形能格語尾 -k。「他の何人かの人たちが」。

esaten zutenez： esaten は esan［他］「言う」不完了分詞。zutenez は zuten ＜ izan［他助］直説法過去 NOR-NORK 活用「3 複が 3 単を～した」＋接尾辞 -ez。動詞・助動詞の活用形に付く -ez の用法は様々であるが，ここでは「彼らが言っていたのによると」の意。

《また別の人達が言っていたことによると》

7–8. **gorputz osoa, oinak ezik, emakumeena bezalakoa zuten.**

gorputz osoa： zuten の直接目的語。gorputz［名］「体」不定形絶対格，osoa は oso［形］「全～」の定形単数絶対格。「全身を」。

oinak ezik： oinak は oin［名］「足」の定形複数絶対格。ezik は［後］「～以外」。「足以外」。

emakumeena bezalakoa： 目的格補語。emakumeena は，l. 5–6, arraiena と同じ構造。emakume［名］「女性」＋定形複数所有属格語尾 -en「女性の」に，定形単数絶対格語尾 -a が付いて名詞化した形で「女たちのもの」。この「もの」とはここでは gorputza「体」を指している。bezalakoa は「～のようなもの」（⇨ l. 3–4）。

zuten： ＜ izan［他］直説法過去 NOR-NORK 活用単純形「3 複が 3 単を持っていた」。

《体全体は，足以外は，女性の（体の）ようなのを持っていた》

8. **Oinak, ordea, hegaztienak bezalakoak,**

☆他動詞 zuten が省略されている。

oinak： oin［名］「足」＋定形複数絶対格語尾 -ak。省略されている動詞 zuten の直接目的語で「足を」。

ordea：［接続］「しかし」。同じ逆説の接続詞 baina が文頭で用いられるのに対し，ordea は文中または文末で用いられる。

hegaztienak は l. 5–6 の arraiena, l. 7 の emakumeena と同じ構造の語。hegazti［名］「鳥類」＋定形複数所有属格語尾 -en「～たちの」＋定形複数絶対格語尾 -ak で「鳥類たちのもの（複）」。この「もの」とはここでは oinak「足」を指している。bezalakoak は「～のようなもの（複）」（⇨ l. 4）。

《足は，しかし，鳥の（足の）ようなのを（持っていた）》

8–9. **eta ibaietan bizi omen ziren.**

ibaietan： ibai［名］「川」＋定形複数内格語尾 -etan,「川（複）に」。

bizi omen ziren： bizi ziren は bizi izan の izan の部分が「3 複は～した」に活用したもの。omen は伝聞の小辞「～だそうだ」。「住んでいたそうだ」（⇨ Baltzola, l. 10）。主語は lamiak「ラミアたち」。

《そして（ラミアたちは）川に住んでいたそうだ》

〈訳〉 バスク地方の伝説または昔話のもう一つの登場キャラクターは，ラミアたちです。

ある人たちの考えでは，ラミアは人魚のようなものでした，つまり，腰から上は婦人の体をしていて，腰から下は魚のような体をしていました。また別の人たちが言うには，足以外，全身が婦人の体でした。しかし足は鳥類のそれの様で，河川に住んでいたそうです。

Orain aspaldi, Lekeitio ondoan gizon apustulari handi bat bizi zen.

Bere lagunekin zegoen batetan, laminez, sorginez, basajaunez hitzegiten hasi ziren eta lagunetariko batek esan zuen :

— Badakizue atzo lamia batek ikaraldi ederra pasarazi ziola nire auzoko bati?

---

10. **Orain aspaldi,**

orain は［名/副］「今」。aspaldi は「しばらく，長い間」。全体で「今から(数えて)ずっと前」。

《今から何年も前》

10. **Lekeitio ondoan**

Lekeitio は［固名］「レケイティオ」。スペイン側バスク地方ビスカイア県の海岸部（ビスケー湾沿岸）にある景勝の漁師町。ondoan は名詞の不定形絶対格に後置され「～のそばに」(⇨ Baltzola l. 5)。

《レケイティオのそばに》

10-1. **gizon apustulari handi bat bizi zen.**

gizon apustulari handi bat： bizi zen の主語。gizon は［名］「男」，apustulari は「賭けをする(人)」の意だが，「しじゅう賭けをしている(人)」「賭けの好きな(人)」をも表す。名詞にも形容詞にもなり得るが，ここでは形容詞として gizon を修飾する。handi［形］「大きな，偉大な，すごい」。これらの語はいずれも不定形絶対格で bat［数］「一人の」，不定形絶対格に修飾される。

bizi zen： bizi izan は［自］「住む，暮らす」。zen は izan［自助］直説法過去 NOR 活用「3単が～した」。「3単が住んでいた」。

《非常に賭けの好きな男が住んでいた》

12. **Bere lagunekin zegoen batetan,**

☆時を表す副詞節。bere ～ zegoen は batetan にかかる連体修飾節。

bere［連］「彼の」，lagunekin は lagun［名］「友だち」の定形複数共格。「友人たちとともに」。zegoen は egon［自］直説法過去 NOR 活用単純形「3単がいた」の連体形（⇨ Baltzola, l. 51）で batetan にかかる。zegoen の NOR（主語）は gizon apustularia。batetan は bat［数］「1(の)」の不定形内格で，ここでは「ある時に」の意。

《(彼が)彼の友人達といたある時》

12-3. **laminez, sorginez, basajaunez hitzegiten hasi ziren**

laminez, sorginez, basajaunez： それぞれ lamin（lamia に同じ）［名］「ラミニャ」，sorgin［名］「魔法使い，魔女」，basajaun［名］「森の主」＋定形複数具格語尾 -ez，「～について」。これらはいずれも，バスクの神話伝説の重要な登場キャラクターである。

hitzegiten hasi ziren： hitzegiten は hitzegin［他］「話す」の不完了分詞。hasi［自］「始める」完了分詞，ziren は izan［自助］直説法過去 NOR 活用「3複が～した」。『動詞の不完了分詞

＋has-i」で「〜し始める」(⇨ Baltzola l. 108)。3 複の NOR (主語) は gizon apostulari handia とその友人たち。

《彼の友人たちといたある時，ラミアや，魔法使いや，森の主について(彼らは)話を始めた》

13–4. **eta lagunetariko batek esan zuen :**

lagunetariko batek : esan zuen の主語。lagunetariko は lagun [名]「友だち，仲間」に，「〜のうちの」を表す語尾 -etariko が付いた形で「友だちのうちの」。batek は bat [数]「1」＋不定形能格語尾 -ek。ここでは「一人；ある人」を表す不定代名詞。「友人達のうちの一人が」。

esan zuen : esan [他]「言う」完了分詞，zuen ＜ izan [他助] 直説法過去 NOR-NORK 活用「3 単が 3 単を〜した」(⇨ Baltzola l. 25)。

《すると友だちのうちの一人が言った》

15–6. **— Badakizue atzo lamia batek ikaraldi ederra pasarazi ziola nire auzoko bati?**

☆Badakizue は動詞，以下はその直接目的語となる名詞節。

badakizue : jakin [他]「知る」直説法現在 NOR-NORK 活用単純形，NOR (直接目的語) 3 単，NORK＝zuek「あなたたち は，君たちは」の場合の形「あなたたちは 3 単を知っている」(⇨表 40) に，肯定を表す接頭辞 ba- が付いた形。“ez dakizue” が「あなたたちは知らない」を表すのに対し，“badakizue” は「あなたたちは(知らないのではなく)知っている」を表している。ただし ez は自立語，ba- は接頭辞であることに注意 (⇨Baltzola

l. 17)。3 単の NOR (目的語) は atzo 以下。「あなたたちは (atzo 以下のこと) を知っているか」。

☆atzo 〜 bati は動詞 badakizue の目的語となる名詞節。助動詞 ziola は名詞節語尾 -la を含むが，この部分は，Baltzola の l. 66, l. 95 でのように常に従属文の文末に置かれるとは限らず，ここでのように文の途中に置くこともできる。

atzo : [副]「昨日」。

lamia batek : 他動詞 pasarazi zio(la) の主語。lamia は不定形絶対格，batek は bat「一人の」＋不定形能格語尾 -ek。「一人のラミアが」。

ikaraldi ederra : 動詞の直接目的語。ikaraldi [名]「恐ろしい時間，恐怖のひととき」不定形絶対格。ikara [名]「恐怖」と，aldi [名]「時間，期間」から成る複合語。ederra は eder [形]「美しい，素晴らしい」＋繋ぎの子音 -r-＋定形単数絶対格語尾 -a。ここでは皮肉に使われている。「酷く恐ろしい時を」。

pasarazi ziola : pasarazi [他] は pasa [他]「過ごす」＋araz-i [他]「〜させる」で，「(時を)過ごさせる」完了分詞。araz-i (または eraz-i) は使役を表す動詞。使役動詞は他動詞となるので助動詞は他動詞用の活用をする。ziola は zion ＜ izan [他助] 直説法過去 NOR-NORI-NORK 活用，「3 単が 3 単に 3 単を〜した」＋名詞節を作る語尾 -la。NOR (直接目的語) は ikaraldi ederra, NORI (間接目的語) は次項の nire auzoko bati, NORK (主語) は lamia batek。

nire auzoko bati : pasarazi zion の間接目的語。nire [連]「私の」。auzoko は auzo [名]「地区」＋定形単数位置属格語尾 -ko。bati は bat「1」＋不定形与格語尾 -i。ここでは不定代名詞として「ある人に」。「私の地区のある人に」。

《昨日，一人のラミアが，おれの地区のある者に，ひどい恐怖の時間を過ごさせたって(君たちは)知ってるかい》

〈訳〉 今から何年も前のこと，レケイティオの近くにとても賭けの好きな男が住んでいました。

彼が，仲間たちといたある時，ラミアや，魔法使いや，森の主の話になり，その中の一人が言いました，「昨日，ラミアがおれんとこの近所のやつにものすごく恐ろしい思いをさせたって知ってるかい?」

— Bai zera! Nora joan zen, ba? — galdetu zion batek.

— Ea, ea, esaiguzu zer gertatu zen! — esan zuen mahai ertzekoak.

— Ba, begira, — hasi zen — nire lagunari presaz egin beharreko errekadu bat eman zioten, eta afal ostean irten zen etxetik errekadua egitera. Erreka igarotzerakoan, hots arraro bat entzun zuen. Gaua zen arren, ur ondoan zebilen lamia baten silueta ikusi ahal izan zuen.

---

17. **— Bai zera!**

間投詞。相手の言ったことを強く否定する。《まさか》

17. **Nora joan zen, ba?**

nora: [副]「どこへ」。

joan zen: joan [自]「行く」完了分詞，zen ＜ izan [自助] 直説法過去 NOR 活用「3単が～した」(⇨ Baltzola, l. 11)。

ba: [間] 懐疑や驚きを表す。「いったい；それなら」。

《(彼は)どこへ行ったんだ，いったい》

17-8. **— galdetu zion batek.**

galdetu zion: galdetu は「尋ねる」完了分詞。zion ＜ izan [他助] 直説法過去 NOR-NORI-NORK 活用，NOR (直接目的語)，NORI (間接目的語)，NORK (主語) 全て3単。「3単が3単に3単を尋ねた」(⇨ Baltzola, l. 26)。

batek: [数]「1」＋不定形能格語尾 -ek。ここでは「ある人が」。

《ある者が尋ねた》

19. **— Ea, ea,**

ea は [間]「どれどれ；さあ」。人に何かを促す時などに用いる。《さあ》

19. **esaiguzu zer gertatu zen!**

☆間接疑問文で，zer gertatu zen は他動詞 esaiguzu の目的語となる名詞節。

esaiguzu: 命令形 esan iezaguzu の短縮形で「あなたは私たちに3単を言いなさい」。iezaguzu は ＜ izan [他助] 命令法 NOR-NORI-NORK 活用，NOR (直接目的語)=3単，NORI (間接目的語)=guri「私たちに」，NORK (主語)=zuk「あなたが」の形。esaiozu (⇨ Baltzola, l. 81) の間接目的語「3単に」が guri「私たちに」に変わった形。

zer gertatu zen: 動詞 esaiguzu の直接目的語にあたる名詞

節。zer [代]「何」絶対格形で，gertatu zen の主語「何が」。gertatu は [自]「起こる」完了分詞，zen＜izan [自助] 直説法過去 NOR 活用「3単が～した」。主語の3単は疑問代名詞 zer。間接疑問文の従属節では，duzu → duzun，du → duen の様に，動詞・助動詞の活用形に語尾 -(e)n が付されるが（つまり連体形と同形），ここでの zen のようにもともと -n で終わる活用形には省略される。ここまで「何が起こったのか」。

《さあ，何が起こったのか(あなたは私たちに)言いなさい》

19-20. **— esan zuen mahai ertzekoak.**

esan zuen： esan [他]「言う」完了分詞，zuen＜izan [他] 直説法過去 NOR-NORK 活用，「3単が～した」（⇨ Baltzola l. 25)。

mahai ertzekoak： mahai は [名]「テーブル」の不定形絶対格で ertzekoak に修飾語としてかかる（⇨ Baltzola l. 76, urre zati)。ertzekoak は ertz [名]「端」＋定形単数位置属格語尾 -ko ＋定形単数能格語尾 -ak で「端の人が」の意。「テーブルの端の人が」。

《テーブルの端の者が言った》

21. **— Ba, begira, — hasi zen —**

ba：[間]「よし；えーと」。

begira：[間]「いいかい」。説明などを始める際の切り出しとして使われる。

hasi zen： hasi [自]「始める」完了分詞，zen＜izan [自助] 直説法過去 NOR 活用「3単が～した」(⇨ Baltzola l. 11)。

《「よし，いいか」(彼は)話し始めた》

21-2. **nire lagunari presaz egin beharreko errekadu bat eman zioten,**

nire lagunari： 他動詞 eman zioten の間接目的語。nire [連]「私の」，lagunari は lagun [名]「友だち，仲間」＋定形単数与格語尾 -ari。「私の友だちに」。

presaz egin beharreko errekadu bat： eman zioten の直接目的語となる名詞句。presaz は presa [名]「緊急」＋不定形具格語尾 -z，「緊急に」。次に errekadu は [名]「おつかい」不定形絶対格，bat「1」も不定形絶対格で「一つのおつかいを」。egin beharreko の beharreko は behar [名]「必要，義務」＋繋ぎの子音 -r- 位置属格語尾 -eko の形で，直前に動詞の完了分詞を伴い「～しなければならないところの」を表す連体詞。ここでは errekadu bat にかかり「急いでしなければならない一つのおつかい」となる。

eman zioten： eman は [他]「与える」完了分詞，zioten は izan [他助] 直説法過去 NOR-NORI-NORK 活用，NOR＝3単，NORI＝3単，NORK＝3複，「3複が3単に3単を～した。」NORK (主語)＝3複は漠然とした非人称の不特定多数を指す。このように3複を主語とする活用形で非人称を表すことができる。

《おれの友達に，緊急に成さねばならない用事を与えた》

22-3. **eta afal ostean irten zen etxetik errekadua egitera.**

afal ostean：「夕食後に」。afal は afari [名]「夕食」から派生した語で連体詞として働く。ostean は oste [名]「あと」＋定形単数内格語尾 -an，「後で」。

irten zen： irten [自]「出る」完了分詞，zen＜izan [自助] 直説法過去 NOR 活用「3単が～した」。NOR (主語) は「その

友達」。

etxetik： etxe「家」＋定形単数奪格語尾 -tik「～から」。「家から」。

errekadua egitera： errekadua は errekadu [名]「おつかい」＋定形単数絶対格語尾 -a で egitera の目的語。egitera は，egin [他]「する」の -t(z)era 形，「しに」(⇨ l. 23, jasotzera)。

《それで夕食後，用事をしに(彼は)家を出た》

23-4. Erreka igarotzerakoan, hots arraro bat entzun zuen.

erreka igarotzerakoan： erreka は [名]「小川」の定形単数絶対格（もともと -a で終わる語なので *errekaa とならない）で igarotzerakoan の直接目的語。igarotzerakoan は igaro [他]「通過する」の -t(z)erakoan 形，「通過するときに」。動詞の -t(z)erakoan 形は「～するときに」を表す。-t(z)ean 形 (⇨ Baltzola l. 21, iluntzean) も「～するときに」を表すが，前者は「～する直前に；～する間際に」を表すとされる。しかし実際には両者はほとんど区別なく用いられているようである。「小川を通過するときに」。

hots arraro bat： 他動詞の entzun zuen の直接目的語。hots [名]「音」，arraro [形]「変な」，ともに不定形絶対格，bat [数]「1」絶対格。「一つの変な音を」。

entzun zuen： entzun [他]「聞く」完了分詞，zuen ＜ izan [他助] 直説法過去 NOR-NORK 活用，「3単が3単を～した」。

《小川を渡るときに，(彼は)変な音を聞いた》

24-5. Gaua zen arren,

gaua zen： gau [名]「夜」＋定形単数絶対格語尾 -a。zen ＜ izan [自] 直説法過去 NOR 活用単純形「3単は～だった」。ここまで「夜だった」。

arren： 動詞の完了分詞または動詞・助動詞の連体形（語尾 -(e)n の付いた形）に接続し，譲歩を表す句または節を作る。「～だけれども」。ここでは助動詞の活用形である zen の連体形に接続している。

《夜だったけれども》

25-6. ur ondoan zebilen lamia baten silueta ikusi ahal izan zuen.

☆ ur ～ silueta は他動詞 ikusi ahal izan zuen の直接目的語。

ur ondoan zebilen： lamia にかかる連体修飾節。ur は [名]「水」不定形絶対格で，l. 20 の mahai ertzekoak の場合同様，後ろの名詞 ondo(an) にかかる。ondoan は「そばで」。zebilen は ibil-i [自]「歩く」直説法過去 NOR 活用単純形，NOR (主語)

—表 44—

ibil-i [自] 直説法現在と過去 NOR 単純形

		NOR (主語)	現在	過去
sg.	1	ni	nabil	nenbilen
	2	hi	habil	henbilen
	3	hura	dabil	zebilen
pl.	1	gu	gabiltza	genbiltzan
	2	zu	zabiltza	zenbiltzan
	2′	zuek	zabiltzate	zenbiltzaten
	3	haiek	dabiltza	zebiltzan

こ＝3単の場合の形「3単が歩いていた」。ここでは連体形なので，ここまで「水のそばを歩いていたところの (3単)」。

lamia baten silueta： lamia は不定形絶対格，baten は bat [数]「1」＋所有属格語尾 -en「～の」。silueta [名]「シルエット」定形単数絶対格，「一人のラミアのシルエットを」。

ikusi ahal izan zuen： ikusi [他]「見る」完了分詞。ahal izan は動詞の完了分詞の直後に置かれ，「～できる」を表す。その際，動詞部の語順は『動詞の完了分詞＋ahal＋助動詞』となる。またこの語は前出の behar izan, nahi izan と文法的によく似た使い方をされるが，これらの動詞が本来他動詞であり，本動詞の自・他にかかわらず助動詞が他動詞用の活用をするのに対し，ahal izan およびその反意語である ezin izan (⇨ 後出，l. 60) はそれ自体他動詞でも自動詞でもなく，あくまでも本動詞の自・他が助動詞 izan の活用を決める。次に izan についてだが，この izan は，Baltzola l. 46 の behar izan および同じく l. 97 の nahi izan に見られるのと同様の働きをしている。つまり izan のあるなし，また izan の分詞の形によって次のような違いがある：

現在	過去
ikusi ahal du 「(今) 見ることができる」	ikusi ahal zuen 「(その当時) 見ることができた」
ikusi ahal izan dut 「(たった今/今までに) 見ることができた」	ikusi ahal izan zuen 「(その時/その瞬間) 見ることができた」
ikusi ahal izaten du 「(日頃/習慣的に) 見ることができる」	ikusi ahal izaten zuen 「(その当時日頃/習慣的に) 見ることができた」
ikusi ahal izango du 「(将来) 見ることができるだろう」	ikusi ahal izango zuen 「(将来) 見ることができただろう」

zuen は izan [他助] 直説法過去 NOR-NORK 活用「3単が3単を～した」。

《水辺を歩く一人のラミアのシルエットを (彼はその瞬間) 見ることができた》

〈訳〉「まさか！」

「どこへ行ったんだ，いったいそいつは」と，ある者が尋ねました。

「さあ，何が起こったのか，聞かせろよ！」と，テーブルの端にいた者が言いました。

「よし，いいか」と，話し始めました，「おれの友達が急を要する用事を言いつかったので，夕食の後，その用を足しに家を出た。と，小川を渡るときに，変な音を聞いた。夜だったが，水辺を歩く一人のラミアのシルエットが見えた。」

— Ene, bada! Hark pasako zuen estuasuna! — esan zuen beste ertzekoak.

— Eta zer egin zuen lamia hain hurbil ikustean? — galdetu zuen beste batek.

— Ba, ahal zuen arinen eta ahalik zarata ttikienaz, inguru hartatik, ihes, izerdi-patsetan eta hasperenka etxeratu zen, gauez, gehiago ez zela hara

hurbilduko, munduko urre guztia emanda ere, esanez.

---

27. **— Ene, bada !**

ene : [間] 驚き，歓喜，悲嘆などを表す。

bada : [間]「まあ!」。

《なんと，まあ》

27. **Hark pasako zuen estuasuna !**

☆感嘆文。hark pasako zuen は estuasuna を修飾する連体節。

hark : [代] hura の能格形「彼(女)が」。

pasako zuen : pasako は pasa [他]「(時を)過ごす」の未来分詞，zuen は izan [他助]「3単が3単を～した」。ここでは後ろの名詞にかかる連体形。また『未来分詞＋過去時制』の組み合わせで，過去における未来を表す（過去時制未来相)。「彼が過ごしたであろうところの（3単)」。

estuasuna : estuasun [名]「緊急事態，危機状態」＋定形単数絶対格語尾 -a。

《彼が陥ったであろう危機と言ったら!》

28. **— esan zuen beste ertzekoak.**

esan zuen :「彼が言った」(⇨ Baltzola l. 55)。

beste ertzekoak : esan zuen の主語。beste は [連]「他の」，ここでは「もう一つの」。ertzekoak は ertz [名]「端」＋定形単数位置属格語尾 -ko＋定形単数能格語尾 -ak「端の者が」(⇨ l. 28)。この語句は l. 20 の mahai ertzekoak「テーブルの端の人が」に

呼応する表現で，「もう一方の端の人が」。

《もう一つの端の者が言った》

29. **— Eta zer egin zuen lamia hain hurbil ikustean?**

zer egin zuen : zer は [代]「何」絶対格。他動詞 egin zuen の直接目的語で「何を」。egin [他]「する」完了分詞，zuen は izan [他助] 直説法過去 NOR-NORK 活用「3単が3単を～した」。NOR（直接目的語）は zer，NORK（主語）は件の友達。「(彼は) 何をしたか」。

lamia hain hurbil ikustean : lamia は絶対格で ikustean の直接目的語「ラミアを」。hain は「あんなに，そんなに」，hurbil は「近くで」。ikustean は ikus-i [他]「見る」の -t(z)ean 形 (⇨ Baltzola l. 21, iluntzean) で「見たとき」。ここまで「そんなに近くでラミアを見たとき」。

《それで，ラミアをそんなに近くで見たとき，(彼は) どうした?》

30. **— galdetu zuen beste batek.**

galdetu zuen : galdetu [他]「尋ねる」完了分詞，zuen＜izan [他助] 直説法過去 NOR-NORK 活用「3単が3単を～した」。NORK (主語)＝3単は beste batek，NOR (直接目的語)＝3単は上のせりふ。

beste batek : beste [連]「他の，別の」，batek は bat [数]「1」＋不定形能格語尾 -ek，ここでは「別のある人が」(⇨ l. 18)。

《別の人が尋ねた》

31. **— Ba, ahal zuen arinen**

ba : [接続] それで。

ahal zuen arinen :『ahal zuen＋形容詞・副詞の最上級』で,「可能な限り～」。zuen は izan [他助] 直説法過去 NOR-NORK 活用, NORK＝3単の場合の形。「(3単に) 可能な限り～」。zuen の部分は時制や主語の人称によって変わってくる。arinen は arin [副]「速く」＋最上級語尾 -en,「最も速く」。「(彼にとって) 可能な限り速く」。

《それで, できるだけ速く》

31-2. eta ahalik zarata ttikienaz,

ahalik zarata ttikienaz :『ahalik (eta)＋形容詞・副詞の最上級』で「可能な限り～」を表す。zarata は [名]「騒音」不定形絶対格, ttikienaz は ttiki [形]「小さい」＋最上級語尾 -en＋定形単数具格語尾 -az で, zarata にかかる。「できる限り小さな騒音でもって」, つまり「できる限り騒音をたてずに」。

《可能な限り音を立てずに》

32-3. inguru hartatik, ihes, izerdi-patsetan eta hasperenka etxeratu zen,

inguru hartatik : inguru [名]「周囲, 付近」不定形絶対格, hartatik は hura [形]「あの, その」の奪格形で「あの・その～から」。ihes [副]「逃げて」。izerdi-patsetan [副]「大汗をかいて」。izerdi [名]「汗」と pats [名]「大きな滴」から成る複合語の不定形内格。hasperenka [副]「息を切らして, あえいで」。hasperen [名]「ため息, 吐息」＋動作の繰り返しを表す副詞語尾 -ka が付いたもの (⇨ Baltzola, l. 86-7)。

etxeratu zen : etxeratu は [自]「帰宅する」完了分詞。zen ＜izan [自助]「3単は～した」(⇨ 10)。「彼は家へ帰った」。

《その付近から, 逃げて, 大汗をかいて, 息を切らして (彼は) 家へ帰った》

33-5. gauez, gehiago ez zela hara hurbilduko, munduko urre guztia emanda ere, esanez.

☆gauez ～ ere までは文末の esanez の目的語となる名詞節。名詞節中, munduko ～ ere は譲歩を表す句。文末の esanez は esan [他]「言う」＋語尾 -ez (⇨ Baltzola l. 77, ekarriz の項) で,「言いながら」。

gauez, gehiago ez zela hara hurbilduko : gauez は gau [名]「夜」＋不定形具格語尾 -ez,「夜間に」。gehiago は否定文中で「これ以上～ない」。ez は否定辞。zela は zen ＜ izan [自助] 直説法過去 NOR 活用「3単が～した」＋名詞節を作る語尾 -la。hara は「あそこへ」。hurbilduko は hurbil-du [自]「近付く」の未来分詞。ここまで「夜間にはあそこへは (彼は) もうこれ以上近づかないだろう, と」。

munduko urre guztia : munduko urre guztia は emanda の直接目的語。munduko は mundu [名]「世界」＋定形単数位置属格語尾 -ko。urre は [名]「黄金」不定形絶対格, guztia は guzti [形]「全ての」＋定形単数絶対格語尾 -a で urre にかかる。ここまで「世界の全ての金を」。

emanda ere :『動詞の完了分詞＋-da＋ere』は譲歩表現の一つで「たとえ～でも」を表す。eman は [他]「与える」の完了分詞。「たとえ (～を) 与えたとしても」。

《たとえ世界の全ての黄金をもらっても, もう夜にはあそこへは近づかないだろうと, 言いながら》

〈訳〉「おやまあ! どんなに恐ろしかったことか!」
テーブルの端に座っていたもう一人が言いました。

「それでどうしたって，そんな近くでラミアを見た時?」
別の仲間が尋ねました。

「うん，できるだけ素速く，なるたけ音を立てないようにしてその付近を脱出し，汗だくになって息も切れ切れに家に帰ったよ，世界中の金を全部くれたって夜にはもう二度とあそこへは近づくものか，と言ってね」

Orduan, ordurarte isilik egon zen batek, hain zuzen ere, apustulari handia zenak, hau esan zuen:

—Afari on bat jokatzen dizuet guztioi, baietz bakar-bakarrik eta gauez, lamiak bizi direla dioten leku horretatik igaro!

— Ezetz egin! — erantzun zion batek.

— Baietz! — apustulariak.

— Ongi da! Bihar afal ostean izango da, eta nire auzokoa joan leku berberetik joango zara zu ere — esan zion auzokoarena kontatu zuenak.

36–7. **Orduan, ordurarte isilik egon zen batek, hain zuzen ere, apustulari handia zenak, hau esan zuen:**

☆ordurarte ～ batek と apustulari ～ zenak は同格で esan zuen の主語。

orduan: [副]「その時」。

ordurarte isilik egon zen batek: この文の主語。ordurarte は「その時まで」。isilik は [副]「静かに」「黙って」。isil [形]「静かな」＋状態を表す副詞を作る語尾 -ik。egon zen の egon は [自]「～である」完了分詞。zen は izan [自助] 直説法過去 NOR 活用「3単が～した」。ここでは連体形で，batek にかかる。batek は bat [数]「1」＋不定形能格語尾 -ek。ここでは「ある人が」(⇨ l. 18)。ここまで「そのときまで黙っていたある人が」。

hain zuzen ere: ある語句をさらに詳しく言いなおす時に使われる。「つまり；言い換えれば」。

apustulari handia zenak: ordurarte ～ batek と同格。apustulari [名]「賭けをする人」不定形絶対格。handia は handi [形]「大きな；偉大な」＋定形単数絶対格語尾 -a, apustulari を修飾する。zenak は zen＜izan [自] 直説法過去 NOR 活用「3単は～だった」＋定形単数能格語尾 -ak。apustulari handia zen は「(彼は)非常に賭け好きだった」の意だが，動詞部に定形語尾 (ここでは能格語尾 -ak) が付いて名詞化し「～だった人が」となる。

hau: [代]「これ」絶対格で esan zuen の直接目的語，「これを」。

esan zuen: esan [他]「言う」, zuen [他助] 直説法過去 NOR-NORK 活用「3単が3単を～した」(⇨ Baltzola l. 55)。

《その時，それまで黙っていたある人が，つまり，非常に賭け好きだった男が，こう言った》

38. **—Afari on bat jokatzen dizuet guztioi,**

afari on bat: 他動詞 jokatzen dizuet の直接目的語。afari

は［名］「夕食」, on bat に修飾されるので不定形絶対格。on は［形］「良い，素晴らしい」, bat に修飾されるので不定形絶対格。bat は［数］「1」絶対格。「一つの素晴らしい夕食を」。

jokatzen dizuet： jokatzen は joka-tu［他］「賭ける」の不完了分詞。dizuet は ＜izan［他助］直説法現在 NOR-NORI-NORK 活用，NOR（直接目的語）＝3単，NORI（間接目的語）＝zuei「あなたたちに，君たちに」，NORK（主語）＝nik「私が」，「私があなたたちに3単を～する」（⇨表35）。

guztioi： jokatzen dizuet の間接目的語。guzti［代］「全員」＋定形近い複数与格語尾 -oi。「あなたたち全員に」。

《(私は)君たち全員に，素晴らしい晩餐を賭けよう》

38-40. baietz bakar-bakarrik eta gauez, lamiak bizi direla dioten leku horretatik igaro!

baietz ... igaro!： baietz は本来「そうだ，と」を意味するが『baietz ... 動詞の完了分詞』で，「～できると賭けてもいい!；絶対に～できる!；～してみせる!」を表すことがある。ここでは文末の動詞 igaro［自］「通過する」(完了分詞）とともに，「(～を)通過できると賭けてもいいよ!」「(～を)絶対に通れる!」ということ。

bakar-bakarrik：「たった一人で」。bakarrik は bakar［形］「唯一の」＋繋ぎの子音 -r-＋副詞を作る語尾 -ik,「一人で」。bakar の反復によって意味を強めている。

gauez： gau［名］「夜」＋不定形具格語尾 -ez,「夜間に」。

lamiak bizi direla dioten： leku を修飾する連体節。また lamiak ～ direla は動詞 dioten の目的語となる名詞節。lamiak は lamia「ラミア」＋定形複数絶対格語尾 -k, bizi direla の主

語で「ラミアたちが」。bizi direla は bizi izan［自］「住む，生きる，暮らす」の izan が主語の人称に合わせて活用して dira ＜izan［自助］直説法現在 NOR 活用「3複が～する」となったものに名詞節を作る語尾 -la が付いた形。「ラミアたちが住んでいる，と」。この名詞節は dioten の直接目的語となる。dioten は esan［他］「言う」の直説法現在 NOR-NORK 活用単純形，NOR＝3単，NORK＝3複の場合の形 diote「3複が言っている」(⇨表39）に連体節を作る語尾 -n が付いた形。この場合の3複の主語は不特定多数の「彼ら」のことで非人称表現である（⇨l. 22, zioten の項)。「(…と）彼らがいっているところの→(…と）言われているところの」。ここまで「ラミアたちが住んでいると言われているところの」。

leku horretatik： 前項の lamiak ～ dioten に修飾される。leku は［名］「場所」不定形絶対格，horretatik は hori［形］「その」の奪格形で「その～から」。ここまで「その場所から」。

《夜，たった一人で，ラミアたちが住んでいると言われているその場所を絶対に通ってみせる!》

41. — Ezetz egin! — erantzun zion batek.

ezetz egin!： 前項『Baietz ... 動詞の完了分詞』の反対の表現の『Ezetz ... 動詞の完了分詞』は，「絶対に～できっこない!；～しないと賭けてもいい!」を表す。ezetz は baietz の反対語で「違う，と」。ここでは egin［他］「する」完了分詞とともに，「できっこないね!」。

erantzun zion： erantzun［他］「答える」完了分詞，zion は izan［他助］直説法過去 NOR-NORI-NORK 活用「3単が3単に3単を～した」。NOR は上のせりふ，NORI は「賭け好き

な男に」，NORK は batek。

batek：erantzun zion の主語。bat [数]「1」＋不定形能格形語尾 -ek (⇨l. 18)。ここでは「一人が」。

《「できっこないね!」と，一人が言った》

42. — **Baietz! apustulariak.**

baietz：「できるとも」。bai よりも強い肯定辞。

apustulariak： apustulari [名]「賭けをする人」＋定形単数能格語尾 -ak。動詞 esan zion「(彼は) 言った」，erantzun zion「(彼は) 答えた」などが省略されている。

《「できるとも!」と賭け好きな男(が言った)》

43. — **Ongi da! Bihar afal ostean izango da,**

ongi da：「よし；O.K.」。

bihar：[副]「明日」。

afal ostean：「夕食後に」。afal は afari [名]「夕食」からの派生語。afari は他の名詞(句)に修飾語的に前置される際に afal の形をとる。ostean は oste [名]「後」＋定形単数内格語尾 -an「〜後に」(⇨l. 22-3)。

izango da：izango は izan [自]「〜である；いる，ある」の未来分詞。ここでは「ある」の意。da は izan [自助] 直説法現在 NOR 活用，「3単は〜する」。NOR (主語) は「賭け」。

《よし，明日，夕食後に(その賭けは)あるだろう》

43-5. **eta nire auzokoa joan leku berberetik joango zara zu ere.**

eta：「そして」。

nire auzokoa joan：leku にかかる修飾句。nire auzokoa は自動詞 joan の主語。nire は「私の」。auzokoa は auzo [名]「地区」＋定形単数位置属格語尾 -ko＋定形単数絶対格語尾 -a で「地区の者が」(⇨l. 20)。「私の地区の者が」。joan は [自]「行く」完了分詞。本来ならば助動詞の連体形 zen が付いて joan zen となり被修飾語にかかるべきところだが，ここではその助動詞が省略されている。ここまで「私の地区の者が行ったところの」。

leku berberetik：前項の nire 〜 joan に修飾される。leku [名]「場所」不定形絶対格，berberetik は berber [形]「同じ一つの」＋定形単数奪格語尾 -etik で leku にかかる。「同一の場所から」。

joango zara： joango は joan [自]「行く」の未来分詞。zara は izan [自助] 直説法現在 NOR 活用，NOR＝zu「あなた，君」，「あなたは〜する」。ここでの未来相は婉曲な命令を表す。

zu：[代]「あなた，君」絶対格。joango zara の主語。

ere：「〜も」。

《そして，おれの地区の者が行ったその同じ場所から，お前も行くのだぞ》

45. — **esan zion auzokoarena kontatu zuenak.**

esan zion：esan [他]「言う」完了分詞，zion＜izan [他助] 直説法過去 NOR-NORI-NORK 活用，「3単が3単に3単を〜した」。

auzokoarena： auzo [名]「地区」＋定形単数位置属格語尾 -ko＋定形単数所有属格語尾 -aren＋定形単数絶対格語尾 -a。auzoko までで「地区の」，-aren が付いて「地区の人の」を表す。そこへさらに -a が付いて「地区の人のこと・もの」を表す (⇨右

表)。kontatu zuen(ak) の目的語で「地区の人のことを」。

kontatu zuenak: esan zion の主語。kontatu は [他]「語る」完了分詞, zuenak は zuen＜izan [他助] 直説法過去 NOR-NORK 活用,「3単が3単を～した」＋定形単数能格語尾 -ak。この -ak により動詞部 kontatu zuen「(彼は)語った」が名詞化し,「語った人が」となる。

auzo	地区
auzo-ko	地区 の
auzo-ko-a	地区 の 人
auzo-ko-a-ren	地区 の 人 の
auzo-ko-a-ren-a	地区 の 人 の こと

《地区の人のことを語った者が言った》

〈訳〉 と,その時,それまで黙っていた一人が,つまり,くだんのすごく賭け好きな男が,このように言いました。

「お前さんたち全員と,晩の御馳走を賭けよう,夜,一人きりでラミアたちが住んでいるという場所を通り抜ける!」

「できるわけないね!」

仲間の一人が答えました。

「できるとも!」

と,賭け好きな男。

「よし,明日の夕食後にしよう,おれの近所のやつが行ったその場所へ,お前も行くんだぞ」

近所の住人の話をした仲間が言いました。

Esan bezala, bada, hurrengo egunean, zeharo ilundu zuenean, han joan zen gure apustularia erreka aldera.

Baina, bertaratu baino lehen, norbait hurbil zebilela ohartu zen lamia bat, eta bidera irtenez, esan zion:

— Gabon! Bakarrik al zatoz? Ez al zara beldur, ala?

Eta lagunen aurrean hain harro agertu zen gizona, eta hain ausarta zegoena, ikaraturik geratu zen lamiaren ahotsa entzutean. Ez zekien zer esan. Baina, noiz edo noiz, horratio, zerbait erantzun zion lamiari:

— Ba… ba… nik… ez… nekien…

46-7. **Esan bezala, bada, hurrengo egunean, zeharo ilundu zuenean,**

esan bezala:『動詞の完了分詞＋bezala』で「～したように」。ここでは esan [他]「言う」とともに「言ったように」。

bada: [接続]「そして;そこで」。

hurrengo egunean: hurrengo は「次の」。egunean は egun [名]「日」＋定形単数内格語尾 -ean。「次の日に」。

zeharo ilundu zuenean: zeharo [副]「全く」。ilundu は [他]「日が暮れる」完了分詞。zuenean は zuen＜izan [他助]「3単が3単を～した」＋時を表す副詞節を作る語尾 -ean。「暗くなったとき」。バスク語では,ilun-du のように自然現象を表す動詞は,主語として目に見えぬ大きな力,神の力を想定している

ので他動詞扱いである。

《そこで，言ったように，次の日，完全に日が暮れたとき》

47–8. han joan zen gure apustularia erreka aldera.

han：「やがて；いよいよ」。

joan zen： joan ［自］「行く」 完了分詞，zen ＜ izan ［自助］直説法過去 NOR 活用「3単が～した」（⇨ Baltzola l. 11）。

gure apustularia： joan zen の主語。gure ［連］は「私たちの」だが「くだんの，例の」をも表す。apustularia は定形単数絶対格。「くだんの賭け好きな男は」。

erreka aldera： erreka ［名］「小川」不定形絶対格。修飾語として他の名詞句に前置されている（⇨ Baltzola l. 76, urre zati）。aldera は alde ［名］「側，方」＋定形単数方格語尾 -ra。「小川の方へ」。

《くだんの賭け好きな男は，小川の方へ行った》

49–50. Baina, bertaratu baino lehen, norbait hurbil zebilela ohartu zen lamia bat,

bertaratu baino lehen： bertaratu は ［自］「目的地に着く」完了分詞。『動詞の完了分詞＋baino lehen』は「～する前に」。「目的地へ着く前に」。主語は apustularia。

norbait hurbil zebilela： ohartu zen の直接目的語となる名詞節。 norbait ［代］「誰か」 絶対格で自動詞 zebile(la) の主語。「誰かが」。hurbil は「近くを」。zebilela は zebilen ＜ ibil-i ［自］「歩く」 直説法過去 NOR 活用単純形， NOR＝3単の場合の形，「3単は歩いていた」（⇨ l. 25）＋名詞節を作る語尾 -la。ここまで「誰かが近くを歩いている，と」。

ohartu zen： ohartu は ［自］「気づく」 完了分詞。 zen は izan ［自助］ 直説法過去 NOR 活用「3単が～した」。主語3単は lamia bat。「3単は気づいた」。

lamia bat： lamia ［名］「ラミア」 不定形絶対格， bat ［数］「1」不定形絶対格，「一人のラミアが」。自動詞 ohartu zen の主語。

《しかし，（彼が）目的地へ着くより先に，一人のラミアが，誰かが近くを歩いているのに気づいた》

50–1. eta bidera irtenez, esan zion:

bidera： bide ［名］「道」＋定形単数方格語尾 -ra。「道へ」。

irtenez： irten ［自］「出る」に語尾 -ez が付いた形で「出ながら」（⇨ Baltzola l. 77, ekarriz の項）。

esan zion： esan ［他］「言う」 完了分詞， zion ＜ izan ［他助］直説法過去 NOR-NORI-NORK 活用「3単が3単に3単を～した」（⇨ Baltzola l. 26）。NORK＝3単はラミア，NORI＝3単は apustularia，NOR＝3単は次項のせりふ。

《そして道に出ながら，（ラミアは賭け好きな男に次のことを）言った》

52. — Gabon! Bakarrik al zatoz?

Gabon!：「こんばんは」。本来の形は gau on。

bakarrik： ［副］「一人で」。

al： 疑問を表す小辞。いわゆる YES-NO 疑問文で，動詞の複合形では助動詞の直前に，単純形ではその直前に置かれる。

zatoz： etor-ri ［自］「来る」の直説法現在 NOR 活用単純形，NOR＝zu「あなた，君」の場合，「あなたは来つつある」（⇨ 次頁の表）。

— 表 45 —

etor-ri [自] 命令法/直説法現在と過去 単純形

	NOR(主語)		現在	過去
sg.	1	ni	nator	nentorren
	2	hi	hator	hentorren
	3	hura	dator	zetorren
pl.	1	gu	gatoz	gentozen
	2	zu	zatoz	zentozen
	2′	zuek	zatozte	zentozten
	3	haiek	datoz	zetozen

☆ 命令法は 2 人称現在のみ。

《こんばんは! 一人で来たの?》

52-3. Ez al zara beldur, ala?

☆否定疑問文。

ez は否定辞。al は疑問を表す小辞 (⇨ 前項)。zara beldur は熟語的な動詞 beldur izan [自]「怖い」の izan が zara「あなたは～だ」に活用したもの。beldur は [名]「恐怖」。ala は疑問文の文末で用いられる小辞で「一体全体；それにしても」。否定疑問文の語順に注意。肯定文などと比べると：

肯定文	Beldur zara.
疑問文	Beldur (al) zara?
否定文	Ez zara beldur.
否定疑問文	Ez (al) zara beldur?

《あなた, 怖くないの?》

54-6. Eta lagunen aurrean hain harro agertu zen gizona, eta hain ausarta zegoena, ikaraturik geratu zen lamiaren ahotsa entzutean.

eta : [接続]「すると」。

lagunen aurrean hain harro agertu zen gizona : この文の主語。lagunen ～ zen は gizona にかかる連体修飾節。lagunen は lagun [名]「友だち」+定形複数所有格語尾 -en,「友人たちの」。aurrean は aurre [名]「前方」+定形単数内格語尾 -an,「前で」。ここまで「友人たちの前で」。hain は「あんなに」, harro は [副]「誇って, 得意気に」。ここまで「あんなに得意気に」。agertu は [自]「現れる」完了分詞, zen ＜ izan [自助] 直説法過去 NOR 活用「3単が～した」(⇨ Baltzola l. 11) の連体形。「現れたところの」。gizona は gizon [名]「男」+定形単数絶対格語尾 -a,「男が」。「あんなに大威張りで友人たちの前に現れた男が」。

hain ausarta zegoena : 主語 lagunen ～ gizona と同格。hain は「あんなに」, ausarta は ausart [形]「大胆な」+定形単数絶対格語尾 -a。zegoena は zegoen ＜ egon [自] 直説法過去 NOR 活用単純形「3単は～だった」+定形単数絶対格語尾 -a。zegoen の完了分詞 egon は「存在する」を意味するが, ここでは形容詞 (ausarta) を伴って izan「～だ」と似た働きをしている。つまり ausarta zegoen は「大胆だった」の意であるが, izan との違いは, “ausarta da” が,「彼はその性質が大胆である」を表すのに対し, “ausarta dago” は,「彼は今の状態が大胆である；彼は今大胆になっている」を表す。zegoena はその zegoen に定形単数絶対格語尾 -a が付いて名詞化した形で「～だった人が」。ここまで「そしてあんなに大胆だった人が」。

ikaraturik geratu zen : ikaraturik は ikara-tu [自]「怯え

る」＋状態を表す副詞を作る語尾 -rik,「怯えて」。geratu は［自］「(ある状態に) なる」完了分詞 (⇨ Baltzola l. 111)。zen＜izan［自助］直説法過去 NOR 活用「3単が～した」。NOR＝3単は前項の lagunen ～ zegoena。

lamiaren ahotsa entzutean: lamiaren ahotsa は entzutean の目的語。lamiaren は lamia＋定形単数所有属格語尾 -ren,「ラミアの」。ahotsa は ahots［名］「声」＋定形単数絶対格語尾 -a。「ラミアの声を」。entzutean は entzun［他］「聞く」の -t(z)ean 形,「聞いたとき」(⇨ Baltzola l. 21, iluntzean の項)。ここまで「ラミアの声を聞いたとき」。

《そして友達の前ではあんなに得意になって大胆だった男が，ラミアの声を聞いた時，怯えてしまった》

—表 46—
jakin［他］直説法過去
NOR-NORK 活用単純形
NOR＝3単／3複

	NORK (主語)	活用
sg. 1	nik	neki(zki)en
2	hik	heki(zki)en
3	hark	zeki(zki)en
pl. 1	guk	geneki(zki)en
2	zuk	zeneki(zki)en
2′	zuek	zeneki(zki)ten
3	haiek	zeki(zki)ten

☆ -zki- は NOR (直接目的語) が3複の時現れる。

56. Ez zekien zer esan.

ez: 否定辞。

zekien: jakin［他］「知る」直説法過去 NOR-NORK 活用単純形，NOR＝3単，NORK＝3単の場合の形で「3単は3単を知っていた」(⇨右表)。NORK＝3単は apustulariak，NOR＝3単は zer 以下。

zer esan: jakin の直接目的語。zer［代］「何」は esan の目的語で「何を」。esan は［他］「言う」完了分詞。『jakin＋zer＋動詞の完了分詞』は「何を～していいかわかっている」。zer の部分には様々な疑問詞が立つことができる。

《(彼は) 何を言っていいかわからなかった》

57–8. Baina, noiz edo noiz, horratio, zerbait erantzun zion lamiari:

noiz edo noiz:「そのうち」。

horratio:「やっと」。

zerbait:［代］「何か」。絶対格で erantzun zion の直接目的語「何かを」。

erantzun zion: erantzun［他］「答える」完了分詞，zion＜izan［他助］直説法過去 NOR-NORI-NORK 活用，NORK＝3単は apustulariak，NOR＝3単は zerbait，NORI＝3単は lamiari。

lamiari: erantzun zion の間接目的語。lamia＋定形単数与格語尾 -ri「ラミアに」。

《しかし，そのうち，やっと，なにがしかラミアに答えた》

59. — Ba ... ba ... nik ... ez ... nekien ...

ba:［間］「その…」「えーと」。

nik: ni の能格形「私が」。

ez nekien: ez は否定辞。nekien は jakin［他］「知る」直説法過去 NOR-NORK 活用単純形，NOR＝3単，NORK＝nik「私が」,「私は知っていた」(⇨表 46)。

《えーと…その…おれは…知らなかった》

〈訳〉その言葉どおり，翌日，あたりが完全に闇につつまれたとき，くだんの賭け好きな男は小川の方へ向かいました。

しかし，彼が目的の場所に着くより早く，一人のラミアが，誰かが近くをうろついているのに気づき，道端に出て彼に言いました，

「こんばんは！ あんた，一人で来たの？ 怖くないの？」

すると，仲間の前にあんなに大威張りで現れた男が，あんなに大胆だった男が，ラミアの声を聞くや，すっかり怯えてしまいました。何を喋っていいのかわかりませんでした。しかしそれでもなんとか，ラミアに何がしか言いました，

「そ…その…おれ…し…知らなかったんだ…」

— Baina, zer da, gazte, ezin al duzu hitz egin? Hara! Ikaratan zaude! — esan zion lamiak, farre-zantzu bat eginez; eta jarraitu zuen — Zatoz nirekin; bihar zeu janez egingo dut gosaria eta!

Eta erreka behera joan zen lamiarekin.

Baina, apustularia, beldurraren beldurraz, nola ihes egin hasi zen pentsatzen, eta halako batetan ... zapa! "Badakit!" — esan zuen bere golkorako. Eta lamiari:

—Aizu, ni jan baino lehen ez al duzu lihoaren historia entzun nahi?

— Bai, nahi dut! Eser gaitezen harriotan, nahi adina denbora dugu eta. Ni, gainera, oso kon-

dairazale naiz — erantzun zion lamiak.

---

60. **Baina, zer da, gazte, ezin al duzu hitz egin?**

baina:「しかし；それにしても」。驚き，非難を表す。

zer da: zer は［代］「何」定形単数絶対格，da の主語。da は izan［自］「3単は～だ」。「何だ」。

gazte:［名］「若者」。ここでは呼び掛けとして用いられている。

ezin al duzu hitz egin: ezin izan は ahal izan の反意語で「～できない」を表し，動詞の完了分詞とともに用いられる（⇨ l. 26, ahal）。その際の語順は，原則として『ezin izan＋(他の要素)＋動詞の完了分詞』となる。ここでは疑問文なので ezin と izan の間に疑問を表す小辞 al が挿入されている。duzu は izan［他助］直説法現在 NOR-NORK 活用，NOR＝3単，NORK＝zuk「あなたが，君が」，「あなたが3単を～する」。hitz egin［他］「話す」完了分詞。

《それにしても，何なの，若いの，しゃべれないの？》

61. **Hara! Ikaratan zaude!**

hara!:［間］「おや！；あら！」。

ikaratan zaude: ikaratan は ikara［名］「恐怖」＋不定形内格語尾 -tan，zaude は egon［自］直説法現在 NOR 活用単純形，NOR＝zu「あなたが」，「あなたがいる」。「あなたは恐怖の中にいる → 怖がっている」。

《おや！ 怖いの？》

61-2. **— esan zion lamiak, farre-zantzu bat eginez;**

esan zion: esan［他］「言う」完了分詞，zion ＜ izan［他助］

直説法過去 NOR-NORI-NORK 活用「3単が3単に3単を～した」(⇨Baltzola l. 26)。NOR＝3単は前項のせりふ, NORI＝3単は apustulariari, NORK＝3単は lamiak。

lamiak : lamia＋定形単数能格語尾 -k,「ラミアが」。esan zion の主語。

farre-zantzu bat eginez : farre-zantzu [名]「かすかな笑い」は, farre [名]「笑い」と zantzu [名]「徴候」から成る複合語。不定形絶対格。bat [数]「1」, 不定形絶対格。farre-zantzu を修飾する。ここまで eginez の直接目的語。eginez は egin [他]「作る」＋語尾 -ez,「作りながら」(⇨Baltzola l. 77, ekarriz の項)。「かすかな笑いを作りながら→かすかに笑いながら」。

《ラミアはかすかに笑いながら(彼に)言った》

62. **eta jarraitu zuen —**

jarraitu zuen : jarraitu [他]「続ける」完了分詞。zuen＜izan [他助]「3単が3単を～した」。主語は lamiak。「(彼女は)続けた」。

《そして(ラミアは)続けた》

62-3. **Zatoz nirekin ;**

zatoz : etor-ri [自]「来る」命令法 NOR 活用単純形, NOR＝zu「あなた・君」の場合の形,「あなたは来なさい」。hi, zuek に対する命令はそれぞれ "hator", "zatozte"。etor-ri の命令法単純形は直説法現在単純形と同様の活用をする (⇨l. 52, zatoz の項, 表 45)。

nirekin : [代] ni の共格形,「私とともに」。

《私といっしょに来なさい》

63. **bihar zeu janez egingo dut gosaria eta !**

bihar : [副]「明日」。

zeu janez : zeu は zu [代]「あなた」絶対格の強調形。janez の目的語。「ほかならぬあなたを」。janez は jan [他]「食べる」に語尾 -ez が付いた形で「食べながら」(⇨Baltzola l. 77, ekarriz の項)。

egingo dut : egingo は egin [他]「する」の未来分詞。dut は izan [他助] 直説法現在 NOR-NORK 活用, NOR＝3単, NORK＝nik「私が」の場合の形,「私は3単を～する」。NOR＝3単は次項の gosaria。

gosaria : gosari [名]「朝食」＋定形単数絶対格語尾 -a, egingo dut の目的語。「朝食を」。

eta : [接続]「～なので」。

《明日, あなたを食べつつ朝食をするから》

64. **Eta erreka behera joan zen lamiarekin.**

erreka behera : erreka [名]「小川」不定形絶対格, behera に修飾語としてかかる。behera は behe [名]「下方」＋定形方格語尾 -ra で,「下方へ」。「小川の下方へ」。

joan zen : joan [自]「行く」完了分詞, zen＜izan [自助] 直説法過去 NOR 活用「3単が～した」。NOR は apustularia。

lamiarekin : lamia＋定形単数共格語尾 -rekin,「ラミアとともに」。

《そしてラミアといっしょに小川の下の方へ行った》

65-6. **Baina, apustularia, beldurraren beldurraz, nola ihes egin hasi zen pentsatzen,**

apustularia： この文の主語。apustulari＋定形単数絶対格語尾 -a。

beldurraren beldurraz：「恐怖のあまり」。beldurraren は beldur [名]「恐怖」＋繋ぎの子音 -r- ＋定形単数所有属格語尾 -aren, beldurraz は beldur＋-r-＋定形単数具格語尾 -az。このように『同じ名詞の定形単数所有属格＋定形単数具格』で「～のあまり」を表すことがある。例：pozaren pozaz（poz は「喜び」）「喜びのあまり」。

nola ihes egin： pentsatzen の目的語となる。nola は [副]「どのように」, ihes egin は [他]「逃げる」完了分詞。「どのように逃げるべきか」。『疑問詞＋動詞の完了分詞』の形の間接疑問については l. 56, zer esan の項参照。

hasi zen pentsatzen： hasi は [自]「始める」完了分詞。zen は izan [自助] 直説法過去 NOR 活用「3単は～した」。pentsatzen は pentsa-tu [他]「考える」不完了分詞。『不完了分詞＋has-i』で「～し始める」(⇨ Baltzola, l. 108)。

《しかし，賭けの好きな男は，恐怖のあまり，どのように逃げるべきか，考え始めた》

66–7. eta halako batetan … zapa! "Badakit!" — esan zuen bere golkorako,

eta：「すると」。

halako batetan：「突然」。

zapa!：[間]「パッ！；ピカッ！」。

badakit： ba- 肯定を強調する接頭辞＋jakin [他]「知る」直説法現在 NOR-NORK 活用単純形, NOR＝3単, NORK＝nik「私は」,「私は3単を知っている」(⇨ Baltzola l. 124)。

esan zuen bere golkorako： esan [他]「言う」完了分詞, zuen＜izan [他助] 直説法過去 NOR-NORK 活用,「3単は3単を～した」。bere は [連]「彼の」, golkorako は golko [名]「ふところ」＋定形単数方格語尾 -ra＋位置属格語尾 -ko, bere golkorako esan は「自分の胸のうちで言う」(⇨ Baltzola l. 54–5)。

《すると，突然…ピカッ！「わかったぞ!」（彼は）自分の胸のうちで言った》

68. Eta lamiari:

lamiari： lamia＋定形単数与格語尾 -ri,「ラミアに」。動詞 esan zion「(3単が3単に3単を) 言った」が省略されている。

《そしてラミアに（言った）》

69–70. —Aizu, ni jan baino lehen ez al duzu lihoaren historia entzun nahi?

aizu：[間]（単数の人に対する呼びかけとして）「ねえ；ちょっと」。

ni jan baino lehen： ni は絶対格, jan の目的語で「私を」。jan は [他]「食べる」。『動詞の完了分詞＋baino lehen』は「～する前に」(⇨ l. 49)。「私を食べる前に」。

ez al duzu entzun nahi： この文の動詞部。ez は否定辞。al は疑問を表す小辞。duzu は izan [他助] 直説法現在 NOR-NORK 活用,「あなたは3単を～する」。entzun は [他]「聞く」完了分詞。『動詞の完了分詞＋nahi izan』は「～したい」(⇨ Baltzola l. 60)。「あなたは3単を聞きたくありませんか」。NOR＝3単は次項 lihoaren historia。

lihoaren historia: 動詞の直接目的語。lihoaren は liho [名]「亜麻」+定形単数所有属格語尾 -aren,「亜麻の」。historia は [名]「歴史;物語」定形単数絶対格。ここでは「物語, お話」。

《おい, おれを食べる前に亜麻の話を聞きたくないかい》

71. **— Bai, nahi dut!**

bai: 肯定辞。

nahi dut: nahi izan が直説法現在 NOR-NORK 活用, NOR=3単 NORK=nik「私が」の形に活用したもの。entzun が省略されている。「私は(聞くことを)望む」。

《ええ, 聞きたいわ》

71-2. **Eser gaitezen harriotan, nahi adina denbora dugu eta.**

eser gaitezen: eser は eser-i [自]「座る」の語根。gaitezen は izan [自助] 接続法現在 NOR 活用, NOR=gu「私たちが」の場合の形 (⇨ Baltzola l. 82, dadila の項, 表 38)。ここでは gu に対する命令「私たちは～しよう」を表す。このように, 1人称, 3人称に対する命令表現では, 命令法の代わりに接続法が用いられる。「(私たちは) 座りましょう」。

harriotan: harri [名]「石」+近い複数の定形内格語尾 -otan。「これらの石において」。

nahi adina denbora: dugu の目的語となる名語句。nahi adina は名詞(句)の前に置かれ「欲しいだけの」。被修飾語は不定形絶対格をとる。denbora は [名]「時間」不定形絶対格。「欲しいだけの時間を」。

dugu: izan [他]「持っている」直説法現在 NOR-NORK

活用単純形, NOR=3単, NORK=guk「私たちが」の場合の形「私たちは3単を持っている」。NOR=3単は nahi adina denbora。

eta:「～なので」。

《これらの石の上に座りましょう, (私たちは) 欲しいだけの時間を持っているから》

72-3. **Ni, gainera, oso kondairazale naiz**

ni: [代] 絶対格, naiz の主語「私は」。

gainera:「そのうえ」。

oso kondairazale: oso は「とても」。kondairazale は, kondaira [名]「伝説, 物語」+zale [名/形]「愛好者(の)」から成る複合語で, [形/名]「伝説・物語好きの(人)」。主格補語, 不定形絶対格。

naiz: ＜izan [自] 直説法現在 NOR 活用単純形「私は～だ」。

《そのうえ私は大の物語好きなの》

73. **— erantzun zion lamiak.**

erantzun zion: erantzun [他]「答える」完了分詞, zion＜izan [他助] 直説法過去 NOR-NORI-NORK 活用「3単が3単に3単を～した」(⇨ Baltzola l. 26)。NOR=3単は前項のせりふ, NORI=3単は apustulariari, NORK=3単は lamiak (⇨ l. 41)。

lamiak: lamia+定形単数能格語尾 -k,「ラミアが」。erantzun zion の主語。

《ラミアが答えた》

〈訳〉「ちょっと，何よ，あんた，ちゃんとしゃべれないの? あら! 怖がってるのね!」ラミアは微かな笑いを浮かべて言いました。そして続けました，「私と一緒においで，明日朝食にあんたを食べてやるから!」

そして賭け好きな男は，ラミアと一緒に川下へと下って行きました。

しかし賭け好きな男は，恐怖のあまり，どうやって逃げようか考え始めました。そして突然…パッとひらめいて，「わかったぞ!」と胸のうちで言いました。それからラミアに，

「おい，おれを食べる前に亜麻の話を聞きたくはないかね?」

「ええ，聞きたいわ! この石の上に座りましょう，時間は望むだけあるから。そのうえ，私って，大の物語好きなのよ」

とラミアは答えました。

Eseri ziren, bada, eta gizonak, astiro-astiro, inolako presarik gabe ekin zion lihoaren historiari:

— Lehenik egin behar dena zera da: lurra goldatu, lurra landu. Goldatu ondoren, simaurtu egiten da, hazia indartsuagoa izan dadin, eta lurra samur-samur jarri denean, orduan ereiten da lihoa …

---

74. Eseri ziren, bada,

eseri ziren: eser-i [自]「座る」完了分詞，ziren <izan [自助] 直説法過去 NOR 活用「3複が～した」。NOR=3複は la-

mia と apustularia。「彼らは座った」。

bada: [接続]「そして」。

《そして彼らは座った》

74-5. eta gizonak, astiro-astiro, inolako presarik gabe ekin zion lihoaren historiari:

gizonak: この文の主語。gizon+定形単数能格語尾 -ak。「男は」。

astiro-astiro: astiro は [副]「ゆっくり」だが，同じ語を二度重ねてその程度を強調している。「とてもゆっくりと」(⇨l. 39, bakar-bakarrik)。

inolako presarik gabe: inolako は連体詞で，否定辞 ez, gabe などとともに用いられ「どんな～もない」を表す。presarik は presa [名]「緊急(性)，急ぎ」+分格語尾 -rik (⇨Baltzola l. 31, kalterik)。gabe [後]「～なしで」。gabe は分格形名詞句を伴うことが多い。「どのような緊急性もなしに → 少しも急がずに」。

ekin zion: ekin [他]「とりかかる」完了分詞，zion <izan [他] 直説法過去 NOR-NORI-NORK 活用，「3単が3単に3単を～した」。ekin は与格の名詞(句)をとり「～にとりかかる」。特に直接目的語はとらないが他動詞扱いとなる動詞。また間接目的語をとるので，助動詞は NOR-NORI-NORK 活用となる。NORK=3単は gizonak, NORI=3単は lihoaren historiari。

lihoaren historiari: ekin zion の間接目的語。lihoaren は liho [名]「亜麻」+定形単数所有属格語尾 -aren「～の」。historiari は historia [名]「歴史；物語」+定形単数与格語尾 -ri。

《そして，男は，とてもゆっくりと，少しも急がずに，亜麻の話にとりかかった》

76. — Lehenik egin behar dena zera da:

lehenik egin behar dena: この文の主語。lehenik は [副]「先ず第一に」。lehen [連]「第1の」＋副詞語尾 -ik と分析できる。egin behar dena は動詞部 egin behar da の連体形 den に定形単数絶対格語尾 -a が付いて名詞化した形。egin は [他]「する」完了分詞，『動詞の完了分詞＋behar izan』は「～しなければならない」を表す。da は izan [自助] 直説法現在 NOR 活用「3単が～する」。この da は非人称表現で，本動詞が他動詞，自動詞にかかわらず用いられる。そうでなければここは他動詞 behar izan に合わせて izan の，3複を主語とする他動詞用の NOR-NORK 活用による非人称表現を用いて，egin behar <u>dutena</u> としてもよいところ。つまり3複を主語とする他動詞の非人称 dute と，自動詞の非人称 da は，入れ替え可能である。「まずしなければならない・されなければならないことは」。

zera: [名]「物」だが，ここでは「次のようなこと」を表す。絶対格で主格補語。

da: izan [自] 直説法現在 NOR 活用単純形「3単は～だ」。

《まず第一にしなければならないことは，次のことだ:》

76-7. lurra goldatu, lurra landu.

lurra goldatu: lurra は lur [名]「土地」＋繋ぎの子音 -r- 定形単数絶対格語尾 -a, goldatu の目的語，「土地を」。goldatu は [他]「すき返す」。

lurra landu: lurra は landu の目的語。最初の lurra と同じ構造で「土地を」。landu [他]「耕す」。

☆goldatu, landu ともに完了分詞形であるが，ここでは辞書の見出し語のような，ニュートラルな形として扱われている。

《土地をすき返し，土地を耕す》

77-8. Goldatu ondoren, simaurtu egiten da, hazia indartsuagoa izan dadin,

goldatu ondoren: ondoren は動詞の完了分詞の後ろに置かれ「～したあとで」。goldatu は [他]「すき返す」。ここまで「土をすき返したあと」。

simaurtu egiten da: simaurtu は [他]「肥料を与える」完了分詞。egiten は egin [他]「する」の不完了分詞。この egin は本動詞 simaur-tu をこの文の focus とするため添えられたもの (⇨ Baltzola l. 51, tristetu egin の項)。da は l. 76 の da と同様，非人称の da。他動詞による非人称表現によれば，da → dute と入れ替え可能なのだから，simaurtu egiten dute となる。

hazia: hazi [名]「種子」＋定形単数絶対格語尾 -a, 自動詞 izan dadin の主語。「種子が」。

indartsuagoa izan dadin: indartsuagoa は indartsu [形]「(力) 強い」＋比較級語尾 -ago＋定形単数絶対格語尾 -a。「より強い」。主格補語。izan は izan [自]「～だ」の語根 (語根と完了分詞がたまたま同形)，dadin は izan [自助] 接続法現在 NOR 活用，NOR＝3単の場合の形。NOR は hazia。接続法は「～するように」を表し，動詞の -t(z)eko 形を用いて indartsuagoa izateko としてもよいところ。接続法には -la 形と -n 形があるが，-la 形はおもに命令・強い要望を表すとされる (⇨ Baltzola l. 82, dadila)。ここまで「より強くあるように」。

《(土を) すき返したあと，肥料を与える，種がより強くあるように》

78-80. **eta lurra samur-samur jarri denean, orduan ereiten da lihoa ...**

lurra: lur [名]「土地」＋繋ぎの子音 -r-＋定形単数絶対格語尾 -a, denean の主語。「土地が」。

samur-samur: samur は [形]「柔らかい」。同じ語を二度繰り返して程度を強めている (⇨ l. 74, astiro-astiro)。

jarri denean: jarri は [自]「(ある状態に) なる」完了分詞, denean は da < izan [自助] 直説法現在 NOR 活用「3単は～する」＋時を表す副詞節を作る語尾 -nean。ここまで「そして土地がとても柔らかくなったときに」。

orduan:「その時」。

ereiten da: ereiten は erein [他]「種子を蒔く」不完了分詞, da < izan [自助] 直説法現在 NOR 活用「3単は～する」は l. 76 の da と同様, 非人称の da。da を dute として ereiten dute としてもよいところ。ereiten の直接目的語は lihoa。

lihoa: liho [名]「亜麻」＋定形単数絶対格語尾 -a, ereiten の目的語。「亜麻を」。

《そして土が柔らかくなったら, そのとき亜麻の種を蒔くのだ》

〈訳〉 そして二人は腰を下ろし, 男はゆっくり, 少しも急がずに, 亜麻の話を始めました。

「まず始めにしなければいけないのは, こういうことだ, つまり土地をすきかえし, 耕すこと。すき返したあと, 種がより丈夫になるように肥料を与えるんだ, そして土が柔らかくなったら, そこで亜麻を植えるんだ...」

— Baina, guzti hori lihoaz bakarrik egiten da? Askotan ikusi ditut nik baserritarrak lan horretan; eta gero, lihoa beharrean, garia, artoa, eta abar ernetzen zaie — esan zion lamiak.

— Halaxe da, bai! Egia da hori! — aitortu zuen apustulariak — lurrari buruz esan dizudana beste hazi batzurentzat ere egiten da, ia hazi guztientzat egiten da berdin eta...

— Eta noiz hasten da lihoaren lana? — galdetu zion lamiak, jakiteko irrikaz beterik.

---

81. **— Baina, guzti hori lihoaz bakarrik egiten da?**

guzti hori: egiten da の目的語。guzti は [代]「全てのこと」不定形絶対格, hori は [形]「その～」絶対格。「その全てのことを」。

lihoaz bakarrik: lihoaz は liho [名]「亜麻」＋定形単数具格語尾 -az,「亜麻に関して」。bakarrik は「～だけ」。「亜麻に関してだけ」。

egiten da: egiten は egin [他]「する」不完了分詞。da は l. 76 の da と同様, 非人称の da。

《でもその全てのことは, 亜麻についてだけ, やっているの?》

82. **Askotan ikusi ditut nik baserritarrak lan horretan;**

askotan:「しょっちゅう, 何度も」。

ikusi ditut: ikusi は [他]「見る」完了分詞, ditut は izan

[他助] 直説法現在 NOR-NORK 活用, NOR＝3複, NORK ＝nik「私が」,「私は3複を～する」。NOR＝3複は baserritarrak。「私は(農夫たちを)今までに見てきた」。

nik: ni の能格形「私は」。ikusi ditut の主語。

baserritarrak: baserritar [名]「農夫」＋繋ぎの子音 -r-＋定形複数絶対格語尾 -ak, ikusi ditut の直接目的語。「農夫たちを」。

lan horretan: lan [名]「仕事, 作業」不定形絶対格, horretan は hori「その」の内格形で「その～において」。

《私は何度も, 農夫たちをその作業において(今まで)見てきたわよ》

83-4. **eta gero, lihoa beharrean, garia, artoa, eta abar ernetzen zaie,**

gero:「あとで」。

lihoa beharrean: lihoa は liho「亜麻」の定形単数絶対格, beharrean は behar [名]「必要」＋繋ぎの子音 -r-＋定形単数内格語尾 -ean だが, 名詞の後ろに置かれ「～の代わりに」。「亜麻の代わりに」。

garia, artoa eta abar: この文の主語で, 句全体がひとまとめとして単数扱いとなっている。garia, artoa はそれぞれ gari [名]「麦」, arto [名]「とうもろこし」＋定形単数絶対格語尾 -a。eta abar は「などなど; エトセトラ」。「麦やとうもろこしなどが」。

ernetzen zaie: ernetzen は erne [自]「(種子が)芽を出す」不完了分詞。zaie は izan [自助] 直説法現在 NOR-NORI 活用, NOR＝3単, NORI＝3複の場合の形「3単が3複に～する」。NOR＝3単は garia ~ abar, NORI＝3複は「農夫たちに」。

《そして, そのあと, 亜麻の代わりに, 麦やとうもろこしなどが(農夫たちに)芽生える》

84. **— esan zion lamiak.**

esan zion: esan [他]「言う」完了分詞, zion＜izan [他助] 直説法過去 NOR-NORI-NORK 活用「3単が3単に3単を～した」。

lamiak: lamia＋定形単数能格語尾 -k。esan zion の主語。「ラミアが」。

《ラミアが(男に)言った》

85. **— Halaxe da, bai!**

halaxe は hala [副]「あのように, そのように」＋強調の語尾 -xe,「全くそのとおり」。da は izan [自] 直説法現在 NOR 活用単純形「3単は～だ」。bai は肯定辞。「はい; そう」。

《そう, 全くそのとおりだ》

85. **Egia da hori!**

egia は [名]「事実, 本当」定形単数絶対格。da は izan [自助] 直説法現在 NOR 活用「3単は～だ」。hori は [代]「それ」絶対格, da の主語,「それは」。

《それは本当だ》

85-6. **— aitortu zuen apustulariak —**

aitortu zuen: aitortu は [他]「告白する」完了分詞, zuen は izan [他助] 直説法過去 NOR-NORK 活用「3単が3単を～した」。NORK＝3単は apustulariak。

apustulariak： apustulari [名]「賭けをする人」＋定形単数能格語尾 -ak。

《賭け好きな男は(それを)告白した》

86–7. lurrari buruz esan dizudana beste hazi batzurentzat ere egiten da,

lurrari buruz esan dizudana： egiten da の目的語。lurrari buruz の lurrari は lur [名]「土地」＋繋ぎの子音 -r-＋定形単数与格語尾 -ari。buruz は後置詞で，『与格名詞＋buruz』で「～について」を表す。「土地について」。esan は [他]「言う」完了分詞，dizudana は dizut ＜ izan [他助] 直説法現在 NOR-NORI-NORK 活用「私があなたに3単を～する」の連体形 dizudan に定形単数絶対格語尾 -a が付いて名詞化した形で「私があなたに言ったこと」(⇨ Baltzola, l. 90)。

beste hazi batzurentzat ere： beste は [連]「他の」。hazi は [名]「種子」不定形絶対格，batzurentzat は batzu [形]「いくつかの」＋不定形目的格語尾 -rentzat,「いくつかの～のために」。ere は「～も」。

egiten da： da による非人称表現。「行なっている，行なわれている」(⇨ l. 76)。

《土地について(私があなたに)言ったことは，他のいくつかのたねについても，行なっている》

87–8. ia hazi guztientzat egiten da berdin eta ...

ia hazi guztientzat： ia は「ほとんど」。hazi [名]「種子」不定形絶対格，guztientzat は guzti [形]「全ての」＋定形複数目的格語尾 -entzat,「全ての～のために」。

egiten da： da による非人称表現。「行なっている，行なわれている」(⇨ l. 76)。

berdin：「同じく」。

eta：「～なので」。

《ほとんど全ての種子について同じように行なっているのだから》

89. — Eta noiz hasten da lihoaren lana?

eta：「それで」。

noiz： [副]「いつ」。

hasten da： hasten は has-i [自]「始まる」不完了分詞。da ＜ izan [自助] 直説法現在 NOR 活用「3単が～する」。

lihoaren lana： この文の主語。lihoaren は liho「亜麻」＋定形単数所有属格語尾 -aren,「亜麻の」。lana は lan [名]「仕事，作業」＋定形単数絶対格語尾 -a。「亜麻の作業は」。

《それで，亜麻の作業はいつ始まるの?》

89–90. — galdetu zion lamiak, jakiteko irrikaz beterik.

galdetu zion： galdetu [他]「尋ねる」完了分詞，zion ＜ izan [他助] 直説法過去 NOR-NORI-NORK 活用「3単が3単に3単を～した」(⇨ Baltzola l. 26)。

lamiak： この文の主語。lamia＋定形単数能格語尾 -k,「ラミアが」。

jakiteko irrikaz beterik： jakiteko は jakin [他]「知る」の -t(z)eko 形。ここでは修飾語として irrikaz にかかる。「知るための；知ると言う」(⇨ Baltzola, l. 21–2)。irrikaz は irrika [名]「強い望み，渇望」＋不定形具格語尾 -z。beterik は bete [自]「一

杯になる」に状態を表す副詞を作る語尾 -rik が付いた形。『具格名詞＋beterik』は「〜でいっぱいになって」の意。ここまで「知ると言う熱望 → 知りたい気持ちで一杯になって」。

《ラミアは(男に)尋ねた，知りたい気持ちでいっぱいになって》

〈訳〉「でもそれ全部，亜麻を植えるときだけやるの？ 農家の人たちがその作業をしているところ，何度も見たわよ。そしてそのあと，亜麻じゃなくて，麦とかとうもろこしとかが芽を出すの」とラミアが言いました。

「そう，そのとおり！ほんとだよ！」と賭け好きな男は続けました，「今土地について言ったことは，ほかの種を植えるときにもやっていることだ，ほとんどどんな種を植えるときにも同じようにやっているんだよ…」

「それでいつ始まるの，亜麻の作業は？」ラミアは，早く知りたくてうずうずして尋ねました。

—Itxaron apurtxo bat, hori geroxeago ikusiko dugu eta. Esan dizudan guztia egin ondoren, landaretxo erne berria zaindu egin behar izaten da. Ereintza egin eta handik denboraldi batetara erretenak egin behar izaten dira soroan, ura lurrean behera ongi sar dadin, eta gero, jorratu egin behar izaten da. Eta hilabete batzu igaro ondoren eta landarea handitu eta heldu denean, orduan biltzen da lihoa. Lihoaren bilketak honako lanok ditu:

---

91. Itxaron apurtxo bat,

itxaron：「待つ」完了分詞。命令法の代わりに用いられている（⇨ Baltzola l. 73, itxaron)。

apurtxo bat：［副］「少し(の間)」。

《少し待て》

91-2. hori geroxeago ikusiko dugu eta.

hori：［代］「それ」絶対格。ikusiko dugu の直接目的語。「それを」。(⇨ Baltzola, l. 14)

geroxeago： gero「あとで」＋「ほんのちょっぴり」を表す接中辞 -xe-＋比較級 -ago。「もう少しあとで」。

ikusiko dugu： ikusiko は ikus-i［他］「見る」未来分詞。ここでは「わかる」の意。dugu は izan［他助］直説法現在 NOR-NORK 活用，NOR＝3単，NORK＝guk「私たちが」の場合の形「私たちは3単を〜する」。NOR は hori。

eta：［接続］「〜なので」。

《それはもうちょっとしてから(私たちは)わかるだろうから》

92. Esan dizudan guztia egin ondoren,

esan dizudan guztia： egin の直接目的語となる名詞句。esan は［他］「言う」完了分詞。dizudan は dizut ＜ izan［他助］直説法現在 NOR-NORI-NORK 活用「私があなたに3単を〜する」の連体形で guztia にかかる。「私があなたに〜するところの(3単)」。guztia は guzti［代］「全てのこと」＋定形単数絶対格語尾 -a。「私があなたに言った全てのことを」。

egin ondoren： egin は［他］「する」完了分詞。『動詞の完了分詞＋ondoren』は「〜したあとで」。

《私があなたに言った全てのことをしたあとで》

93-4. **landaretxo erne berria zaindu egin behar izaten da.**

landaretxo erne berria: 動詞部の直接目的語。landaretxo は landare [名]「植物」+指小辞 -txo。「小さな植物」。不定形絶対格。erne berria は landaretxo を修飾する形容詞句。erne は [自]「芽生える」の完了分詞。berria は [形]「新しい」+定形単数絶対格語尾 -a だが,『動詞の完了分詞+berria』で「〜したばかりの」を表す。ここまで「芽を出したばかりの小さな植物を」。

zaindu egin behar izaten da: zaindu は [他]「世話をする」。behar を伴うため完了分詞。egin は [他]「する」の完了分詞だが,本動詞 zaindu を文の focus とするために添えられた (⇒ Baltzola l. 51)。behar は zaindu egin を伴い「世話をしなければならない」。izaten によって,「世話しなければならない」ということが,習慣的,反復的なことを表す (⇒ Baltzola l. 46, behar izan の項)。

da: l. 76 の da 同様,非人称表現。

《芽生えたばかりの小さな植物を世話しなければならない》

94. **Ereintza egin eta handik denboraldi batetara**

ereintza: [名]「種蒔き」。定形単数絶対格。egin の直接目的語。

egin: [他]「する」完了分詞。

eta:「そして」。

handik:「あの時・その時から」。

denboraldi batetara: denboraldi は [名]「一定期間」不定形絶対格,batetara は bat「1」+不定形方格語尾 -etara。ここでは「ある」。「ある一定の期間が経ったら」。

《種蒔きをして,一定期間が経ったら》

95. **erretenak egin behar izaten dira soroan,**

erretenak: egin の目的語。erreten [名]「用水路」+定形複数絶対格語尾 -ak。

egin behar izaten dira: この文の動詞部で「3複を〜しなければならない」。dira は izan [自助] 直説法現在 NOR 活用「3複は〜する」だが,ここでは l. 76, 78 の da と同様,非人称表現である。egin の目的語 erretenak が複数なので,da でなく dira をとる。他動詞による非人称表現を使えば,erretenak が複数なので erretenak egin behar izaten dituzte となる。つまり da → dute が入れ替え可能であったように,dira → dituzte が入れ替え可能である。egin は [他]「作る」完了分詞で behar とともに「作らなければならない」。izaten は izan [自] の不完了分詞 (⇒ l. 93)。

soroan: soro [名]「畑」+定形単数内格語尾 -an。soro は通常一種類の作物が植えてある畑をさす。

《畑に用水路を作らなければならないものだ》

95-6. **ura lurrean behera ongi sar dadin,**

ura: ur [名]「水」+定形単数絶対格語尾 -a, sar dadin の主語。「水が」。

lurrean: lur [名]「土地,土」+繋ぎの子音 -r-+定形単数内格語尾 -ean。「土の中に」。behera は behe [名]「下方」+方格語尾 -ra,「下へ」。

ongi: [副]「よく」。

sar dadin: sar は sar-tu [自]「入る」の語根。dadin は izan [自助] 接続法現在 NOR 活用「3単が〜するように」(⇒ l. 78 と Baltzola l. 82)。

《水が土の中で下の方へよく入るように》

96-7. **eta gero, jorratu egin behar izaten da.**

gero：「そのあと」。

jorratu egin behar izaten da： jorratu は［他］「雑草を除く」完了分詞。egin は jorratu を文の focus にするために添えられた“強調の egin”。behar izaten da は「～しなければならないものだ」(⇨ l. 93)。

《そしてそのあと雑草を除かなければならないものだ》

97-8. **Eta hilabete batzu igaro ondoren eta landarea handitu eta heldu denean,**

hilabete batzu： igaro の主語。hilabete［名］「一か月」不定形絶対格。batzu［形］「いくつかの」不定形絶対格。「何か月かが」。

igaro ondoren： igaro［自］「(時が) 過ぎる」完了分詞。『動詞の完了分詞＋ondoren』は「～したあとで」を表す。「過ぎたあとで」。(⇨ l. 77, goldatu ondoren)。

landarea： handitu ～ denean の主語。landare［名］「植物」＋定形単数絶対格語尾 -a。「植物が」。「亜麻」を指す。

handitu eta heldu denean： handitu は［自］「大きくなる」完了分詞。eta は「そして」。heldu は［自］「成熟する」 完了分詞。denean は da＜izan［自助］直説法現在 NOR 活用「3単は～する」の連体形 den＋時の副詞節を作る語尾 -ean「3単が～するとき」(⇨ l. 47)。ここまで「大きくなって熟した時に」。

《そして何か月かが過ぎ，植物（亜麻）が大きくなって熟した時に》

98-9. **orduan biltzen da lihoa.**

orduan：［副］「その時」。

biltzen da： biltzen は bil-du［他］「集める」不完了分詞。da＜izan［自助］は l. 76, 78 の da と同じく非人称表現。

lihoa： biltzen da の目的語。liho「亜麻」＋定形単数絶対格語尾 -a。「亜麻を」。

《「そのときに，亜麻を収穫する」》

99. **Lihoaren bilketak honako lanok ditu：**

lihoaren bilketak： ditu の主語。lihoaren は liho「亜麻」＋定形単数所有属格語尾 -aren,「亜麻の」。bilketak は bilketa［名］「収集，収穫」＋定形単数能格語尾 -k。「収穫は」。

honako lanok： ditu の目的語。honako は連体詞で「このような，以下のような」。lanok は lan［名］「仕事，作業」＋定形近い複数の絶対格語尾 -ok。「このような作業を」。

ditu：＜izan［他］直説法現在 NOR-NORK 活用単純形「3単が3複を持っている」。 NORK＝3単は lihoaren bilketak, NOR＝3複は honako lanok。

《亜麻の収穫は，次のような作業を持っている》

〈訳〉「ちょっと待てよ，それはもう少しあとでわかるから。今言ったこと全てが済んだら，芽を出したばかりのちっちゃな植物の世話をしてやらなければならん。種蒔きが済んで一定の期間が過ぎたら，畑に用水路を掘らなければならん，水が地下に良く染み込んでいくようにな，で，それから，雑草を取り除かなければならんのだ。それから何か月か過ぎて植物が大きく成長したら，

そしたら亜麻がとれるのだ。亜麻の収穫は，こんな作業から成っている，つまり」

Aurrena, esan bezala, bildu egiten da soroan, eta ondoren, lehortzeko zabaldu egiten da. Lehortu denean, biguntzen uzten da, eta beharrezko balitz, berriro ere lehortzen jarri. Gero garbitu egiten da, eta garbiturik denean, makila eta zurezko orrika batzuren bidez, zehatu. Ondoren, ardatzean jarri, eta irun ahal izateko, kardatu egiten da. Horren ondoren, astalkatu, gero, egosi, uretan garbitu, harilkatu, eta azkenik, izara eta jantzietan erabiliko den mihisea egiten da.

---

100. Aurrena, esan bezala, bildu egiten da soroan,

aurrena：「まず」。

esan bezala： esan［他］「言う」。bezala［接続］動詞の完了分詞の後ろに置かれ「〜したように，するように」。「言ったように」(⇒ l. 46)。

bildu egiten da： bildu は［他］「集める，(作物を)取り入れる」完了分詞。egiten は egin の不完了分詞形だが本動詞 bildu が文の focus なので添えられた“強調の egin”(⇒ Baltzola l. 51)。da＜izan［自助］非人称の da (⇒ l. 76, 78)。「(他のことではなく)取り入れをするのだ」。目的語は「亜麻を」。

soroan： soro「畑」＋定形単数内格語尾 -an。

《まず，言ったように，畑で，(亜麻を)取り入れるのだ》

100–1. eta ondoren, lehortzeko zabaldu egiten da.

ondoren：［副］「次に」。

lehortzeko は lehor-tu［自/他］「乾く/乾かす」の -t(z)eko 形，「乾くように/乾かすために」。ここでは「亜麻が乾く」とも「亜麻を乾かす」とも解釈できる。

zabaldu egiten da： zabaldu は［他］「広げる」。egiten da は前項に同じ。「(他のことをするのではなく) 広げるのだ」。

《そして次に，(亜麻が)乾燥するように，広げるのだ》

101–2. Lehortu denean, biguntzen uzten da.

lehortu denean： lehortu［自］「乾く」完了分詞，denean は da＜izan［自助］「3単が〜する」の連体形 den＋時の副詞節語尾 -ean (⇒ l. 47)。「(亜麻が)乾いたときに」。

biguntzen uzten da： uzten は他動詞 utz-i の不完了分詞だが，『動詞の不完了分詞＋utz-i』は，「〜させる，〜するにまかせる」を表す。ここでは bigun-du［自］「柔らかくなる」の不完了分詞 biguntzen とともに，「柔らかくなるにまかせる，柔らかくなるように放っておく」の意。

da：［自助］非人称の da (⇒ l. 76, 78)。

《(亜麻が)乾いたら，柔らかくなるように置いておく》

102–3. eta beharrezko balitz, berriro ere lehortzen jarri.

beharrezko：［形］「必要な」。

balitz： izan［自］条件法条件 NOR 活用単純形，NOR＝3単の場合の活用形で「もし3単が〜なら」(⇒ 表 47)。自動詞 izan

の単純形の活用は [自助] izan の場合と同じ。

	―表 47―		
	izan [自/自助] 条件法 NOR 活用（自動詞では単純形）		
	NOR (主語)		活用
sg.	1	ni	banintz
	2	hi	bahintz
	3	hura	balitz
pl.	1	gu	bagina
	2	zu	bazina
	2′	zuek	bazinate
	3	haiek	balira

berriro ere：「またしても；もう一度」。berriro は [副]「もう一度，また」，ere は「～も」。

lehortzen jarri：lehortzen は lehor-tu [自/他]「乾く/乾かす」の不完了分詞であるが，ここでは「乾く/乾かすという動作の中に」という内格的意味を含む。jarri は [他]「(ある状態・場所に) 置く」。「乾かすという動作の中に置く」とは「乾燥させる」ということ。

《そしてもし必要なら，もう一度，乾燥させる》

103-4. **Gero garbitu egiten da,**

gero：「そのあと」。

garbitu egiten da：garbitu は [他]「きれいにする，洗う」の完了分詞。egiten da は l. 100 に同じ。

《そのあと，(亜麻を) きれいにする》

104. **eta garbiturik denean,**

garbiturik：garbi-tu [自/他]「きれいになる/きれいにする」＋状態を表す副詞語尾 -rik。「きれいになって」。

denean：l. 102 と同様だが，ここでは egon のように，「～という状態である」という意味で使われている。

《そしてきれいな状態になったら》

104-5. **makila eta zurezko orrika batzuren bidez, zehatu.**

makila eta zurezko orrika batzuren bidez：bidez は後置詞。『所有属格形の名詞(句)＋bidez』で「～を通じて，～を手段として」を表す。ここでは所有属格形の名詞句にあたるのは makila ～ batzuren。makila [名]「棒」。eta [接続]「～と～」。zurezko は zur [名]「木材」＋接尾辞 -(e)zko「～製の」で「木製の」(⇨ Baltzola, l. 7)。orrika は [名]「大型のやっとこ」。makila, zurezko orrika ともに後ろに修飾語 batzuren が付くので不定形絶対格。batzuren は batzu [形]「いくつかの」＋不定形所有属格語尾 -ren,「いくつかの～の」。ここまで「棒と，いくつかの木製のやっとこによって」。

zehatu：[他]「叩きつぶす」。完了分詞形だが，l. 76-77 goldatu, landatu, 次項の jarri と同様，助動詞なしでニュートラルなものとして扱われている。

《棒といくつかの木製のやっとこを使って，(亜麻を) 叩きつぶす》

105. **Ondoren, ardatzean jarri,**

ondoren は「次に」。ardatzean は ardatz [名]「紡錘」＋定形単数内格語尾 -ean。jarri [他]「置く，取り付ける」。

《次に，(亜麻を) 紡錘に取り付ける》

106. **eta irun ahal izateko, kardatu egiten da.**

irun ahal izateko：ahal izateko は ahal izan の -t(z)eko

形で，動詞の完了分詞を直前に伴って「～することができるように」を表す。ここでは irun［他］「(糸を) 紡ぐ」の完了分詞とともに「紡ぐことができるように」。

kardatu egiten da： kardatu は［他］「(繊維を) けばだてる」完了分詞。egiten da は l. 100 に同じ。

《そして，紡ぐことができるように，(亜麻の繊維を) けばだてる》

106-8. **Horren ondoren, astalkatu, gero, egosi, uretan garbitu, harilkatu,**

horren ondoren： ondoren は，所有属格形の名詞句の後に置かれ「～のあとで」を表す。ここでは hori［代］「それ」の所有属格形 horren「それの」を伴い「それのあとで」。astalkatu：［他］「(繊維を) かせにかける」完了分詞。

gero：［副］「それから」。

egosi：［他］「煮る」完了分詞。

uretan garbitu, harilkatu： uretan は ur［名］「水」＋不定形内格語尾 -etan,「水の中で」。garbitu は［他］「洗う」完了分詞。harilkatu は［他］「糸巻きに巻き取る」，完了分詞。

《そのあと，(繊維を) かせにかけ，それから煮て，水洗いし，糸巻きに巻き取る》

108-9. **eta azkenik, izara eta jantzietan erabiliko den mihisea egiten da.**

azkenik：「最後に，ついに」。

izara eta jantzietan erabiliko den： mihisea にかかる連体修飾節。izara は［名］「シーツ」不定形絶対格。jantzietan は jantzi［名］「着る物」＋定形複数内格語尾 -etan。この内格語尾

は izara にもかかる。「シーツと着る物において」。erabiliko は erabil-i［他］「使う」の未来分詞。den は非人称の da ＜ izan［自助］の連体形。「使うであろうところの」。

mihisea： mihise［名］「麻」＋定形単数絶対格語尾 -a, egiten da の目的語。

egiten da： egiten は egin［他］「作る」の不完了分詞。da ＜ izan［自助］は非人称の da。

《そしてついに，シーツや着る物において使われるであろう麻ができるのだ》

〈訳〉「まず第一に，いま言ったように，畑で摘み取りをする。それから次に，乾燥するように広げて置くんだ。乾いたら，柔らかくなるまで放っておく。もし必要なら，もう一度，乾かす。それから，きれいにして，きれいになったところで，棒と木製のやっとこを使って打ち砕くんだ。そのあと紡錘にかけて，そして，紡げるように，けばだてる。このあとかせにかける。それから煮て，水洗いし，糸巻きに巻き取る。そしてついに，シーツや着る物を作るのに使う麻ができるんだ。」

Apustulariak guzti hau oso geldiro-geldiro esaten zion lamiari, denbora luzatzeko, eta lamiak arin kontatzeko esaten bazion ere, gizonak ez zion kasurik egiten.

Baina, bapatean, oilar batek goizeko kukurrukua jo zuen, eta lamia, lasterka, ezkutatzera joan zen;

lamiak ezin ziren gordelekuetatik kanpo ibili eta oilarrak kukurrukua joz gero.

— Bai, memela galanta naizela! Zein ederki engainatu nauzun! Baina, hurrengoan ez da horrelakorik gertatuko! — esan zion oihuka lamiak, arineketan alde eginez.

110–1. **Apustulariak guzti hau oso geldiro-geldiro esaten zion lamiari, denbora luzatzeko,**

apustulariak： この文の主語。apustulari＋定形単数能格語尾 -ak。「賭けの好きな男は」。

guzti hau： esaten zion の目的語。guzti は [代]「全てのこと」不定形絶対格，hau は [形]「この」絶対格。「この全てのことを」。

oso geldiro-geldiro： oso [副]「非常に」。geldiro は「のろく」。語を繰り返すことによってその語を強調することがある (⇨ l. 39, bakar-bakarrik, l. 74, astiro-astiro, l. 79, samur-samur)。「すごくゆっくり」。

esaten zion： esaten は esan [他]「言う」の不完了分詞，zion ＜izan [他助] 直説法過去 NOR-NORI-NORK 活用「3単が3単に3単を～した」(⇨ Baltzola l. 26)。過去時制不完了相。NORK＝3単は apustulariak，NORI＝3単は lamiari，NOR＝3単は guzti hau。

lamiari： esaten zion の間接目的語。lamia＋定形単数与格語尾 -ri，「ラミアに」。

denbora luzatzeko： denbora [名]「時間」定形単数絶対格，

luzatzeko の目的語。「時間を」。luzatzeko は luza-tu [他]「延ばす」の -t(z)eko 形，「延ばすために」。

《賭け好きな男は，時間をかせぐために，ラミアにこれら全てをゆっくりゆっくり話した》

111–2. **eta lamiak arin kontatzeko esaten bazion ere,**

lamiak： lamia＋定形単数能格語尾 -k，esaten bazion の主語。「ラミアが」。

arin kontatzeko： arin [副]「速く」。kontatzeko は konta-tu [他]「語る」の -t(z)eko 形で「語るように」。命令を表すので，接続法を用いてもいいところ。

esaten bazion ere： esaten は esan [他]「言う」不完了分詞，bazion は条件を表す接頭辞 ba-「もし」＋zion＜izan [他助] 直説法過去 NOR-NORI-NORK 活用「3単が3単に3単を～した」だが，『ba-＋動詞・助動詞の活用形＋ere』で，「たとえ～だとしても」を表す。

《そして，たとえラミアが(男に)速く語るように言っても》

112–3. **gizonak ez zion kasurik egiten.**

gizonak： gizon＋定形単数能格語尾 -ak。この文の主語。「男が」。

ez zion kasurik egiten： ez は否定辞。zion は izan [他助]「3単が3単に3単を～した」。kasurik egiten は ＜kasu egin [他] で，izan の NOR-NORI-NORK 活用を助動詞としてとり，「～を気に留める」の意。日本語の「～を」の部分が NORI にあたる。また，ここでは kasu は否定文中に現れるために分格形 (kasurik) となっている。egiten は egin の不完了分詞。

《男は(ラミアの言うことを)気に留めなかった》

114-5. Baina, bapatean, oilar batek goizeko kukurrukua jo zuen,

bapatean:「突然」。

oilar batek: jo zuen の主語。oilar [名]「おんどり」不定形絶対格。batek は bat「1」+不定形能格語尾 -ek。「一羽のおんどりが」。

goizeko kukurrukua: jo zuen の目的語。goizeko は goiz [名]「朝」+不定形位置属格語尾 -eko,「朝の」。kukurrukua は kukurruku [名]「コケコッコー(の鳴き声)」+定形単数絶対格語尾 -a。「朝のコケコッコーを」。

jo zuen: jo [他]「(音を)放つ」完了分詞。zuen は izan [他助]「3単が3単を～した」。

《しかし,突然,一羽のおんどりが朝のコケコッコーを放った》

115. eta lamia, lasterka, ezkutatzera joan zen;

eta:「すると」。

lamia: joan zen の主語,定形単数絶対格。「ラミアは」。

lasterka:「大急ぎで,走って」。

ezkutatzera: ezkuta-tu [自]「隠れる」の -t(z)era 形,「隠れに」。

joan zen: joan [自]「行く」完了分詞。zen＜izan [自助]「3単が～した」(⇨ Baltzola l. 11)。

《するとラミアは走って隠れに行った》

116. lamiak ezin ziren gordelekuetatik kanpo ibili eta

lamiak: この文の主語。lamia+定形複数絶対格語尾 -k,「ラミアたちが」。

ezin ziren ibili: この文の動詞部。ezin ziren は ezin izan「～することができない」が NOR 直説法現在「3複が～できない」に活用したもの。ibili [自]「歩く」完了分詞とともに「彼女らは歩くことができなかった」(⇨ l. 60)。

gordelekuetatik kanpo: kanpo は後置詞で,奪格形の名詞句の後ろに置かれ,「～の外において」。gordelekuetatik は gordeleku [名]「隠れ場所」+定形複数奪格語尾 -etatik。「隠れ場所の外で」。

eta: [接続]「～なので」。

《ラミアたちは,隠れ場所の外を歩くことができなかったので》

117. oilarrak kukurrukua joz gero.

oilarrak: joz の主語。oilar [名]「おんどり」+繋ぎの子音 -r-+定形単数能格語尾 -ak。「おんどりが」。

kukurrukua: kukurruku [名]「コケコッコー」+定形単数絶対格語尾 -a。joz の目的語。「コケコッコーを」。

joz gero: joz は jo [他]「(鳴き声などを)放つ」+具格語尾 -z。gero は「後で」。『動詞の完了分詞+-z+gero』は「～したなら;～したあとは」の意。

《おんどりがコケコッコーと鳴いたあとは》

118. — Bai, memela galanta naizela!

Bai ～ (naiz)ela!:「なんて～でしょう!」。『Bai+動詞・助動詞の活用形+-(e)la!』は,感嘆文構文の一つ。

memela galanta: memela は [名]「馬鹿な女,軽はずみな

女」, galanta は galant [形]「巨大な；すごい」＋定形単数絶対格語尾 -a。

naizela： naiz ＜ izan [自] 直説法現在 NOR 活用単純形「私は～だ」＋名詞節語尾 -(e)la。

《私はなんという大馬鹿者なんだろう!》

118-9. **Zein ederki engainatu nauzun!**

Zein ～ (nauzu)n!： 前項『Bai ～-(e)la!』と同じく,『Zein＋動詞・助動詞の活用形＋-(e)n!』も感嘆文構文の一つ。「なんて～でしょう!」。

ederki engainatu nauzu(n)： ederki は eder [形]「素晴らしい」＋副詞を作る語尾 -ki,「素晴らしく」。ここでは皮肉として使われている。engainatu は [他]「だます」完了分詞。nauzun は nauzu ＜ izan [他助] NOR-NORK 直説法現在, NOR＝ni

—表 48—

izan [他/他助] 直説法現在と過去 NOR-NORK 活用

NOR＝ni「私を」

		NORK (主語)	現在	過去
sg.	1	nik	—	—
	2	hik	nauk/n	ninduan/nan
	3	hark	nau	ninduen
pl.	1	guk	—	—
	2	zuk	nauzu	ninduzun
	2′	zuek	nauzue	ninduzuen
	3	haiek	naute	ninduten

「私を」, NORK＝zuk「あなたが」の場合の形「あなたが私を～する」＋語尾 -n (⇨ 表 48)。

《(あなたは私を)なんてうまくだましたのでしょう!》

119-20. **Baina, hurrengoan ez da horrelakorik gertatuko!**

hurrengoan：「次回は」。

horrelakorik： この文の主語。horrelako [連]「そのような」に分格語尾 -rik が付いて名詞化した形で「そのようなことはひとつも(～ない)」。「そのようなこと」とは, 今起こったことを指すので, 日本語では「このようなこと」と言うべきところ。また肯定文の主語であれば絶対格形 (horrelakoa) をとるところであるが, 否定文の主語なので分格形となっており, 否定の気持ちを強めている。

ez da gertatuko： この文の動詞部。ez は否定辞。da は izan [自助] 直説法現在 NOR 活用「3単が～する」。gertatuko は gertatu [自]「起こる」の未来分詞。「起こらないだろう」。

《でも, 次回は, こんなことは絶対起こらないでしょう!》

120. **— esan zion oihuka lamiak,**

esan zion： esan [他]「言う」完了分詞, zion ＜ izan [他助]「3単が3単に3単を～した」(⇨ Baltzola l. 26)。

oihuka： oihu [名]「叫び」＋動作の繰り返しを表す語尾 -ka。「叫びつつ」(⇨ Baltzola, l. 86-7)。

lamiak： この文の主語。lamia＋定形単数能格語尾 -k。「ラミアが」。

《ラミアが叫びながら(男に)言った》

121. **arineketan alde eginez.**

arineketan は [副]「走って」。alde eginez は alde egin [他]「逃げる，去る」＋具格語尾 -ez。「逃げつつ」(⇨ Baltzola l. 77, ekarriz)。

《走って逃げながら》

〈訳〉 賭け好きな男は，これら全てを，時間をかせぐために実にゆっくりのんびりラミアに語ってゆきました。そして，ラミアがもっと速く語るように言っても，聞く耳を持ちませんでした。

しかし，突然，一羽のおんどりがコケコッコーと鳴いて朝を告げました。するとラミアは，身を隠すべく，泡を食って逃げ出しました。というのは，ラミアたちは，おんどりがコケコッコーと鳴いたが最後，隠れ家の外をうろつくことはできなかったからです。

「なんという大馬鹿者なんでしょう，私ったら! まんまとだましてくれたわね! でも，この次はこんなふうにはいかないからね!」ラミアは，走りながら叫びました。

Lamia urrundu zenean, gure apustularia, oraindik beldurrez eta izerditan blai eginda, jaiki zen eta ordurarte izan zituen patxada eta lasaitasun itxura guztiak galdu zituen, izan ere, guztiok ditugun tentsio eta bizi-nahiak eman bait zioten hala hitz egiteko adorea.

Gero, dena pasaturik zela eta arriskurik ez zegoela ikusi zuenean, etxera joan zen eta ohean etzan zen, luze-luze.

Hurrengo egunean, Lekeition, lagunek zer moduz ibili zen lamiarekin galdetu ziotenean, gertatu zitzaion guztia kontatu zien, eta berriz ez zuela apusturik egingo aitortu zien, lamiak ia-ia jan zuela eta…

---

122. **Lamia urrundu zenean,**

lamia: urrundu zenean の主語。定形単数絶対格。「ラミアが」。

urrundu zenean: urrundu は [自]「遠ざかる」 完了分詞。zenean は zen < izan [自助]「3 単が～した」＋時の副詞節を作る語尾 -ean (⇨ Baltzola l. 22)。

《ラミアが遠ざかったとき》

122-3. **gure apustularia, oraindik beldurrez eta izerditan blai eginda, jaiki zen**

gure apustularia: この文の主語。gure [連]「私たちの; くだんの」。apustularia は apustulari＋定形単数絶対格語尾 -a。「くだんの賭け好きな男が」。

oraindik beldurrez eta izerditan blai eginda: oraindik [副]「まだ」。beldurrez は beldur [名]「恐怖」＋繋ぎの子音 -r-＋不定形具格語尾 -ez,「恐れて」。izerditan は izerdi [名]「汗」＋不定形内格語尾 -tan,「汗をかいて」。blai eginda は blai egin [自]「びしょ濡れになる」＋状態を表す語尾 -da,「びしょ濡れに

なって]。

jaiki zen： jaiki [自]「起き上がる；立ち上がる」完了分詞。zen は izan [自助]「3単が～した」。

《くだんの賭け好きな男は，まだ恐ろしくて，汗だくになって，立ち上がった》

124–5. **eta orduarte izan zituen patxada eta lasaitasun itxura guztiak galdu zituen,**

orduarte izan zituen： patxada ～ guztiak にかかる連体修飾節。orduarte は「それまで」。izan [他]「持つ」完了分詞，zituen は izan [他助]「3単が3複を～した」の連体形。「それまで彼が持っていたところの」。

patxada eta lasaitasun itxura guztiak： galdu zituen の直接目的語。patxada [名]「のんびりさ，悠々さ」，lasaitasun [名]「落ち着き，平穏」，両方とも不定形絶対格で，修飾語として itxura [名]「見かけ」にかかる（⇨ Baltzola, l. 76, urre zati）。itxura は，後ろに修飾語が付くので不定形絶対格。guztiak は guzti [形]「全ての」＋定形複数絶対格語尾 -ak。「全ての悠々とした，落ち着いた見かけを」。

galdu zituen： galdu [他]「失う」完了分詞，zituen＜izan [他助]「3単が3複を～した」。

《そして，それまで(彼が)持っていた，全ての悠々とした，落ち着いた見かけを失った》

125–7. **izan ere, guztiok ditugun tentsio eta bizi-nahiak eman bait zioten hala hitz egiteko adorea.**

izan ere：「それというのも」。

guztiok ditugun： tentsio eta bizi-nahiak にかかる連体修飾節。guztiok は guzti [代]「全員」＋近い複数の定形能格語尾 -ok で ditugun の主語。「私たち全員が」。ditugun は ditugu＜izan [他]「持っている」直説法現在 NOR-NORK 活用単純形，NOR＝3複，NORK＝guk「私たちが」の場合の形「私たちが3複を持っている」＋連体形語尾 -n。ここまで「私たち全員が持っているところの (3複)」。

tentsio eta bizi-nahiak： この文の主語。tentsio [名]「緊張」不定形絶対格。bizi-nahiak は bizi「生きる」と nahi「願望」から成る複合語 bizi-nahi [名]「生きたいと願う気持ち，生への執着」＋定形単数能格語尾 -ak。この能格語尾は tentsio にもかかり，句全体は複数扱いとなっている。

eman bait zioten： この文の動詞部。eman [他]「与える」完了分詞，zioten＜izan [他助] 直説法過去 NOR-NORI-NORK 活用，NOR，NORI＝3単，NORK＝3複，「3複が3単に3単を～した」(⇨ l. 22)。bait は「～なので」を表す。本来，動詞・助動詞の活用形に付く接頭辞で，baizioten と綴られることもある。NORI＝3単は「賭け好きな男に」を指す。NOR＝3単は次項の hala ～ adorea。

hala hitz egiteko adorea： hala [副]「あのように，そのように」。hitz egiteko は hitz egin [他]「話す」の -t(z)eko 形「話すための」で adorea にかかる。adorea は adore [名]「勇気」＋定形単数絶対格語尾 -a。「あのように話す勇気を」。

《それというのも，私たちみんなが持っている緊張と生への執着心が，(彼に)あのように話す勇気を与えたのだから》

128–9. **Gero, dena pasaturik zela eta arriskurik ez zegoela**

ikusi zuenean,

gero：「そのあと」。

dena pasaturik zela： ikusi zuenean の直接目的語となる名詞節。dena は den [代]「全てのこと」＋定形単数絶対格語尾 -a, ze(la) の主語，「全てのことが」。pasaturik は pasa-tu [自]「過ぎる」＋状態を表す副詞を作る語尾 -rik,「過ぎてしまって」。zela は zen＜izan [自]「3単が(～という状態)だ」＋名詞節語尾 -(e)la。ここまで「全てのことが過ぎてしまった，と」。

eta：「そして」。

arriskurik ez zegoela： これも ikusi zuenean の直接目的語。arrisku [名]「危険」＋分格語尾 -rik, ez zegoela の主語。「少しの危険も」。否定文の主語として現れる分格（⇨ l. 119-120)。ez は否定辞。zegoela は zegoen＜egon [自] 直説法過去 NOR 活用単純形「3単がある」＋名詞節語尾 -(e)la,「危険はない，と」。

ikusi zuenean： ikusi は [他]「見る；認識する」完了分詞，zuenean は zuen＜izan [他助]「3単が3単を～した」＋時の副詞節語尾 -ean。「彼がわかった時」。

《そのあと，全てが過ぎ去ったと，そしてもう危険はないと，わかったとき》

129-30. etxera joan zen eta ohean etzan zen, luze-luze.

etxera： etxe「家」＋定形単数方格語尾 -ra,「家へ」。

joan zen： joan [自]「行く」完了分詞，zen＜izan [自助]「3単が～した」。NOR＝3単は「賭けの好きな男が」。(⇨ Baltzola l. 11)。

ohean： ohe [名]「ベッド」＋定形単数内格語尾 -an,「ベッドに」。

etzan zen： etzan [自]「横になる」完了分詞，zen＜izan [自助]「3単が～した」。「彼は横になった」。

luze-luze： luze はここでは副詞で，「長く」。同一語句の繰り返しは強調表現のひとつ（⇨ l. 110, geldiro-geldiro)。

《(彼は)家へ帰り，ベッドに長々と横になった》

131-2. Hurrengo egunean, Lekeition, lagunek zer moduz ibili zen lamiarekin galdetu ziotenean,

hurrengo egunean： hurrengo [連]「次の」，egunean は egun [名]「日」＋定形単数内格語尾 -ean。副詞句として「翌日」。

Lekeition： Lekeitio [固名]＋内格語尾 -n「レケイティオにおいて」。

lagunek： この文の主語。lagun [名]「友だち」＋定形複数能格語尾 -ek。「友人たちが」。

zer moduz ibili zen lamiarekin： galdetu ziotenean の目的語となる名詞節。間接疑問。zer moduz は「どのように」。ibili は [自]「歩く」完了分詞。ibil-i はここでは「過ごす」の意。zen は＜izan [自助]「3単は～した」だが，間接疑問文の従属節では動詞・助動詞の活用形は語尾 -(e)n をとらなければならない。zen のように本来 -n で終わる活用形はそのままである。NOR＝3単は賭け好きな男。lamiarekin は lamia＋定形単数共格語尾 -rekin,「ラミアとともに」。ここまで「ラミアとともにどう過ごしたか」。

galdetu ziotenean： galdetu [他]「尋ねる」完了分詞，ziotenean は zioten＜izan [他助]「3複が3単に3単を～した」＋時の副詞節語尾 -ean。NOR＝3単は zer ～ lamiarekin, NORI＝3単は賭け好きな男，NORK＝3複は lagunek。「(彼らが彼に)

尋ねたときに」。

《翌日，レケイティオで，友人たちが，(彼が)ラミアとどう過ごしたか(彼に)尋ねたとき》

132-3. **gertatu zitzaion guztia kontatu zien,**

gertatu zitzaion： guztia にかかる連体修飾節。gertatu は[自]「起こる」完了分詞，zitzaion は izan [自助] 直説法過去 NOR-NORI 活用 NOR, NORI=3単，「3単が3単に〜した」だが，ここでは連体形。NOR=3単は guztia, NORI=3単は賭けの好きな男。「3単に起ったところの (3単)」。

guztia： kontatu zien の目的語。guzti [代]「全てのこと」+定形単数絶対格語尾 -a,「全てのことを」。

kontatu zien： kontatu [他]「語る」完了分詞，zien < izan [他助] 直説法過去 NOR-NORI-NORK 活用，「3単が3複に3単を〜した」。NORK=3単は賭けの好きな男，NORI=3複は友人たち，NOR=3単は gertatu ~ guztia (⇒ Baltzola 1. 90)。

《(彼に)起こったことの全てを(彼は彼らに)語った》

133-4. **eta berriz ez zuela apusturik egingo aitortu zien,**

berriz ez zuela apusturik egingo： aitortu zien の直接目的語となる名詞節。berriz は [副]「もう一度」。否定文中で「二度と再び〜ない」。ez は否定辞。zuela は zuen < izan [他助]「3単が3単を〜した」+名詞節語尾 -(e)la。apusturik egingo は < apustu egin [他]「賭けをする」。apustu は否定文の中の目的語なので分格形をとる。egingo は egin の未来分詞。

aitortu zien： aitortu [他]「告白する」完了分詞，zien は izan [他助]「3単が3複に3単を〜した」。NORK=3単は賭けの好きな男，NORI=3複は友人達，NOR=3単は berriz ~ egingo。

《そして，もう二度と(彼は)賭けをしないだろうと(彼は彼らに)告白した》

134-5. **lamiak ia-ia jan zuela eta ...**

☆この文も，前項の aitortu zien の目的語の一部となる名詞節。

lamiak： lamia+定形単数能格語尾 -k, jan zuela の主語。「ラミアが」。

ia-ia：「あやうく」。

jan zuela： jan [他]「食べる」完了分詞，zuela は zuen < izan [他助]「3単が3単を〜した」+名詞節語尾 -(e)la (⇒ 前項)。NOR=3単は賭けの好きな男。

eta： [接続]「〜なので」。

《ラミアがあやうく(彼を)食べるところだったから，と》

〈訳〉 ラミアが遠くへ去ってしまったとき，くだんの賭けの好きな男はまだ怯えて，汗だくのまま立ち上がりました。そしてそのときまで彼が持っていた見かけの落ち着きと悠々さは，きれいさっぱりどこかへ行ってしまいました。それというのも，だれもが持っている緊張と生への執着が，彼にあのように話をする勇気を与えたのですから。

それから，全てが終わって，もう危険はないとわかったとき，家へ帰り，ベッドの上に長々と横になりました。

翌日，レケイティオで友人たちがラミアとどう過ごしたか尋ねたとき，彼は起こったことの全てを皆に語り，もう二度と賭けなどしないよと告白しました，なにしろすんでのところでラミアに食べられるところだったのだから，と…。

語　彙

記述について

1. 原則として，このテキストの中での意味を中心に掲げた。
2. 名詞，形容詞では見出し語は不定形絶対格。その後に一字下げて変化形を掲げた。
3. 動詞では，見出し語として完了分詞形を掲げ，続けて不完了分詞，未来分詞の形を掲げた。

—A—

abia-tu (abiatzen, abiatuko) [自] (～へ) 向かう，出発する。
adina [接続] ～と同じくらいの。nahi adina ～ 好きなだけの～。
adore [名] 勇気。
　adorea 《adore の定形単数絶対格》 勇気(が・を)。
afal [連] 夕食の。afal ostean 夕食後。
afari [名] 夕食。晩餐。
ager-tu (agertzen, agertuko) [自] 現れる，姿を現す。
agin-du (agintzen, aginduko) [他] 約束する。
agur-tu (agurtzen, agurtuko) [他] 挨拶する。
ahalik [副] できるだけ。ahalik eta lasterren できるだけ速く。
ahal izan [動] ～できる。
ahaz-tu (ahazten, ahaztuko) [自/他] 忘れる。
　ahazturik 忘れて。
ahots [名] 声。
　ahotsa 《ahots の定形単数絶対格》 声(が・を)。
ahul [形] 弱々しい。

aitor-tu (aitortzen, aitortuko) [他] 告白する。
aizu [間] ねえ，もしもし。
al [小] 疑問を表す。
ala [接続] それとも。
alde [名] 側，脇。
　aldean 《alde の定形単数内格》 側において。
　aldeko 《alde の定形単数位置属格》 ～方面の。
　aldekoa 《alde の定形単数位置属格＋定形単数絶対格語尾 -a》 ～方面のもの・こと・人(が・を)。
　aldera 《alde の定形単数方格》 ～方面へ。
alde egin [他] 逃げる，去る。
　alde eginez 逃げつつ，去りつつ。
algara [名] 高笑い，哄笑。
　algarak 《algara の定形複数絶対格》 大歓声・高笑い(が・を)。
amai-tu (amaitzen, amaituko) [自] 終わる。[他] 終える。
　amaitzea 《amai-tu の -t(z)ea 形》 終わること。終えること。
anaia [名] 兄弟。
　anaiak ①《anaia の定形複数絶対格》 兄弟(が・を)。 ②《定形単数能格》 兄弟が。
　anaiarentzat 《anaia の定形単数目的格》 兄弟のために。
　anaiari 《anaia の定形単数与格》 兄弟に。
apur bat [名/副] 少し。
apurtxo bat [名/副] ほんの少し。
　apurtxo batean [副] 少しの間。
apustu [名] 賭け。
　apusturik 《apustu の分格》
apustu egin [他] 賭けをする。
apustulari [形/名] 賭けをする(人)。
　apustularia 《apustulari の定形単数絶対格》 賭けをする～(が・を)，賭けをする人(が・を)。

ardatz [名] 紡錘。
ardatzean《ardatz の定形単数内格》紡錘において。
ardi [名] (雌)羊。
ardiak《ardi の定形複数絶対格》羊たち(が･を)。
ardientzat《ardi の定形複数目的格》羊たちにとって。
ardura [名] 心配，不安。
arin [副] 速く。
arinen《arin の最上級》最も速く。ahal zuen arinen (3単が) できるだけ速く。
arineketan [副] 走って，大急ぎで。
arrai [名] 魚。
arraiena《arrai の定形複数所有属格に定形単数絶対格語尾がついた形》魚たちのもの・こと(が･を)。
arraro [形] 変な。
arreba [名] (兄弟の中での) 姉妹。
arrebei《arreba の定形複数与格》姉妹たちに。
arren [接続]《動詞の完了分詞または動詞・助動詞の活用形の連体形に接続し》～にもかかわらず，～だけれども。
arrisku [名] 危険。
arriskurik《arrisku の分格》
arte [名] あいだ。
artean《arte の定形単数内格》間において。
arto [名] とうもろこし。
artoa《arto の定形単数絶対格》とうもろこし(が･を)。
artzain [名] 羊飼い。
artzainak《artzain の定形複数絶対格》羊飼いたち(が･を)。
askotan [副] しょっちゅう。
asmo [名] つもり。
asmoz《asmo の不定形具格，動詞の -t(z)eko 形を直前に伴い》～するつもりで。

aspaldi [名/副] しばらく。長い間。orain aspaldi いまから何年も前。
astalka-tu (astalkatzen, astalkatuko) [他] (繊維を) かせに掛ける。
astiro [副] ゆっくり。
astiro-astiro とてもゆっくり。
atera (ateratzen, aterako) [他] 出す。
atzo [名/副] 昨日。
aurki-tu (aurkitzen, aurkituko) [自] 見出される，ある。
aurkitzea《aurki-tu の -t(z)ea 形》見出されること。
aurre [名] 前。
aurrean《aurre の定形単数内格》前において。
aurreko《aurre の定形単数位置属格》前の。
aurrena [副] まず。
ausart [形] 大胆な。
ausarta《ausart の定形単数絶対格》大胆な～(が･を)。
auzo [名] 集落，部落，地区。
auzoko《auzo の定形単数位置属格》集落の。
auzokoa《auzoko に定形単数絶対格語尾がついた形》集落のもの・こと・人(が･を)。
azal-du (azaltzen, azalduko) [他] 説明する。
azkenik [副] 最後に。

—B—

ba- [接頭] 肯定辞。ba-＋動詞・助動詞の活用形＋ere たとえ～し(たとえ～し)ても。
ba [間]《懐疑，驚き，言い淀み，語調緩和など》[接続] それで。
bada [接続] そして。そのように。
badakit [他]《dakit に ba- が付いた形》私は3単を知っている。

badakizu [他]《dakizu に ba- が付いた形》あなたは3単を知っている。
badakizue [他]《dakizue に ba- が付いた形》あなたたちは3単を知っている。
bai [副] はい。そう。Bai zera! まさか! Bai+動詞・助動詞の活用形+-(e)la! なんて~なんだろう! bai A eta bai B (ere) A も B も。
baietz [副] はい, と。そうだ, と。Baietz+動詞の完了分詞! きっと~できる! ~できると賭けてもいい!
baina [接続] しかし。
baino [接続]《形容詞・副詞の比較級とともに》~よりも。動詞の完了分詞+baino lehen ~する前に。
bait- [接頭]《動詞・助動詞の活用形に付いて》~なので。
baizik [接続]《否定文の文末で》~ではなく~だ。
bakar-bakarrik [副] たった一人で。まさに~だけ。
bakarrik [副] たった一人で。~だけ。
balitz <izan《条件法条件 NOR 活用, NOR=hura の場合》[自助] もし3単が~すれば。[自] (単純形) もし3単が~ならば。
Baltzola [固名] バルツォラ。
Baltzolako《Baltzola の位置属格》バルツォラの。
balu <izan《条件法条件 NOR-NORK 活用, NOR=hura, NORK=hark の場合》[他助] もし3単が3単を~すれば。[他] (単純形) もし3単が3単を持っていれば。
banengo [自] <egon《条件法条件 NOR 活用単純形, NOR=ni の場合》もし私がいれば。
bapatean [副] 突然。
barru [名] 中, 内部。[後]《時を現す語句とともに》~後に。hiru egun barru 三日後に。
barrura《barru の定形単数方格》中へ。
basajaun [名] バシャハウン。森の主。

basajaunez《basajaun の定形複数具格》バシャハウンについて。
baserri [名] 農家。山の田舎家。
baserria《baserri の定形単数絶対格》農家 (が・を)。
baserritar [名] 農夫。
baserritarrak《baserritar の定形複数絶対格》農夫たち (が・を)。
bat [数] 1。動詞の -t(z)eaz 形+bat ~すると同時に。
batean《bat の定形内格》egun batean ある日。
batek《bat の不定形能格》
baten《bat の不定形所有属格》
batera《bat の定形方格》共格の語句+batera ~ すると同時に。
batetan《bat の不定形内格》
batetara《bat の不定形方格》
batez《bat の不定形具格》
bati《bat の不定形与格》
batzu [代/形] いくつか (の)。何人か (の)。
batzuren《batzu の不定形所有属格》
batzurentzat《batzu の不定形目的格》
bazenu <izan《条件法条件 NOR-NORK 活用, NOR=hura, NORK=zuk の場合》[他助] もしあなたが3単を~すれば。[他] (単純形) もしあなたが3単を持っていれば。
bazion <izan《zion に, 条件を表す接頭辞 ba- がついた形》[他助] もし3単が3単に3単を~したら。
bazuen <izan《zuen に条件を表す接頭辞 ba- がついた形》[他助] もし3単が3単を~したら。
begira [他] begira-tu の語根。[間] ほら。見て。えーとね。
begira-tu (begiratzen, begiratuko) [他] 見る, 見つめる。
begiraturik 見つめて。
behar izan [他] ① ~が必要である。②《動詞の完了分詞を直前に伴って》~しなければならない。

beharrean [接続]《動詞の完了分詞を直前に伴い》～するかわりに。
beharreko [連]《動詞の完了分詞を直前に伴い》～するべき～。
beharrezko [形/連] 必要不可欠な。
behe [名] 下。
behera《behe の方格》下へ。
beheraxego [副] もう少し下方に。
behi [名] (雌) 牛。
behiak《behi の定形複数絶対格》牛たち (が・を)。
behin [名/副] 一度。かつて。
belardi [名] 草地。
beldur [名] 恐怖，恐れ。
beldurraren beldurraz あまりの恐ろしさに。
beldurrez《beldur の不定形具格》恐れて。
beldur izan [自] 怖い。
bera [代] それ。そのもの。その人。
berarekin《bera の共格形》それ・そのもの・その人とともに。
beraiek [代] それら。それらのもの。その人たち。
beraientzat《beraiek の目的格》それら・それらのもの・その人たちのために。
berber [形] 同じ一つの。
berberetik《berber の定形単数奪格》同じ一つの～から。
berdin [形] 同じ。[副] 同じく。
bere [連] それの。その人の。
berehala [副] すぐさま。
berezko [連] 自然にできた。もともとの。固有の。
bero-tu (berotzen, berotuko) [自] 暖まる。熱くなる。
berri [形] ① 新しい。②《動詞の完了分詞＋》～したばかりの。[名] 知らせ。ニュース。
berria《berri の定形単数絶対格》

berriro [副] 再び，もう一度。berriro ere もう一度。
berriz [副] ① 一方。② 再び，もう一度。
bertara-tu (bertaratzen, bertaratuko) そこへ着く。
beso [名] 腕。
besoa《beso の定形単数絶対格》腕 (が・を)。
besorik《beso の分格》
beso-zati [名] 腕の一部。
beso-zatia《beso-zati の定形単数絶対格》腕の一部 (が・を)。
beste [連] 他の。別の。
besteetan《beste の定形複数内格》他の時において。
bete (betetzen, beteko) [他] 満たす。[自] 満ちる。
beterik《具格の名詞句＋》～でいっぱいで。
beti [名/副] いつも。
bezala [接続] ～ように。esan bezala 言ったように。
bezalako [連] ～のような。
bezalakoa《bezalako の定形単数絶対格》～のようなもの・こと・人 (が・を)。
bezalakoak《bezalako の定形複数絶対格》～のようなもの・こと・人たち (が・を)。
bi [数] 2。
biak《bi の定形複数絶対格》
biek《bi の定形複数能格》
biok《bi の定形近い複数絶対格・能格》
bide [名] 道。
bidera《bide の定形単数方格》道へ。
bidez [後]《所有属格名詞句を直前に伴い》～を通じて。
bigun-du (biguntzen, bigunduko) [自] 柔らかくなる。
bihar [名/副] 明日。
bihotz [名] 心。
bihotzeko《bihotz の定形単数位置属格》心の。

bil-du (biltzen, bilduko) [他] 集める，収穫する。
bilketa [名] 収集，収穫。
bilketak《bilketa の定形単数能格》
bizi [形] 激しい，厳しい。
bizirik《bizi＋状態の語尾 -rik》生きている状態で。
bizitan《bizi の不定形内格》激しい～において。
bizi izan (bizi izaten, izango) [自] 住む，生きる，暮らす。
bizitzeko《bizi izan の -t(z)eko 形。形容詞的》生きるための。生きるべき。
bizi-nahi [名] 生への渇望。
bizi-nahiak《bizi-nahi の定形単数能格》生への渇望が。
Bizkaia [固名] ビスカイア。
Bizkaiko《Bizkaia の位置属格》ビスカイアの。
blai egin [自] ずぶ濡れになる。
blai eginda ずぶ濡れになって。
bost [数] 5。
bota (botatzen, botako) [他] 投げる，捨てる。
buruz [後]《与格名詞句を直前に伴い》～について。
buztan [名] 尻尾。
buztana《buztan の定形単数絶対格》尻尾(が・を)。

—D—

da ＜izan《直説法現在 NOR 活用，NOR＝hura の場合》[自助] 3単が～する。[自] (単純形) 3単は～だ。
dadila ＜izan [自助] dadin の別形。
dadin ＜izan [自助]《接続法現在 NOR 活用，NOR＝hura の場合》3単が～するように。
dago ＜egon [自]《直説法現在 NOR 活用単純形，NOR＝hura の場合》3単が存在する。

dakit ＜jakin [他]《直説法現在 NOR-NORK 活用，NOR＝hura, NORK＝nik の場合》私は3単を知っている。
dakizu ＜jakin [他]《直説法現在 NOR-NORK 活用単純形，NOR＝hura, NORK＝zuk の場合》あなたは3単を知っている。
dakizue ＜jakin [他]《直説法現在 NOR-NORK 活用単純形，NOR＝hura, NORK＝zuek の場合》あなたたちは3単を知っている。
daramazu ＜eraman [他]《直説法現在 NOR-NORK 活用単純形，NOR＝hura, NORK＝zuk の場合》あなたは3単を運んでいる・連れている・持っている。
daramazun《daramazu に連体形語尾 -n が付いた形》あなたが運んでいる・連れている・持っているところの～。
dela《da＜izan に名詞節を作る語尾 -la が付いた形》[自助] 3単が～する，と。[自] (単純形) 3単が～だ，と。
den《da＜izan に語尾 -n が付いた形》[自助] ①《連体形》3単が～するところの。②《間接疑問文の名詞節》3単が～するか。[自] (単純形) ①《連体形》3単が～であるところの。②《間接疑問文の名詞節》3単が～か。[代] 全部，全員。
dena《da＜izan の連体形 den に定形単数絶対格語尾が付いた形》～するもの・こと・人(が・を)。
denak《den [代] の定形複数絶対格》全部(が・を)。全員(が・を)。
denbora [名] 時間。
denboran《denbora の定形単数内格》時間において。
denboraldi [名] 一定の時間・期間。
denean《da＜izan の連体形 den に時を表す副詞節を作る語尾 -ean が付いた形》[自助] 3単が～する時・した時。[自] 3単が～である時。
didazu ＜izan [他助]《直説法現在 NOR-NORI-NORK 活用，NOR＝hura, NORI＝niri, NORK＝zuk の場合》あなた

が私に3単を～する。

digu ＜izan [他助]《直説法現在 NOR-NORI-NORK 活用, NOR＝hura, NORI＝guri, NORK＝hark の場合》3単が私たちに3単を～する。

Dima [固名] ディマ。

Dimak 《Dima の能格形》ディマが。

diot ＜izan [他助]《直説法現在 NOR-NORI-NORK 活用, NOR＝hura, NORI＝hari, NORK＝nik の場合》私が3単に3単を～する。

diote ＜esan [他]《直説法現在 NOR-NORK 活用単純形, NOR＝hura, NORK＝haiek の場合》3複が言っている。

dira ＜izan《直説法現在 NOR 活用, NOR＝haiek の場合》[自助] 3複が～する。[自] (単純形) 3複が～だ。

dirau ＜iraun [他]《直説法現在 NOR-NORK 活用単純形, NOR＝hura, NORK＝hark の場合》3単が続く。

dirauen [他]《dirau＋連体形語尾 -en》3単が続くところの～。

direla 《dira＜izan に名詞節を作る語尾 -la が付いた形》[自助] 3複が～する, と。[自] (単純形) 3複が～だ, と。

dit ＜izan [他助]《直説法現在 NOR-NORI-NORK 活用, NOR＝hura, NORI＝niri, NORK＝hark の場合》3単が私に3単を～する。

ditu ＜izan《直説法現在 NOR-NORK 活用, NOR＝haiek, NORK＝hark の場合》[他助] 3単が3複を～する。[他] (単純形) 3単が3複を持っている。

ditugu ＜izan《直説法現在 NOR-NORK 活用, NOR＝haiek, NORK＝guk の場合》[他助] 私たちが3複を～する。[他] (単純形) 私たちが3複を持っている。

ditugun [他助]《ditugu＜izan に連体形語尾 -n が付いた形》私たちが～するところの (3複)。

ditut ＜izan [他助]《直説法現在 NOR-NORK 活用, NOR＝haiek, NORK＝nik の場合》私が3複を～する。

dituzu ＜izan [他助]《直説法現在 NOR-NORK 活用, NOR＝haiek, NORK＝zuk の場合》あなたが3複を～する。

dituzula 《dituzu＜izan に名詞節を作る語尾 -la が付いた形》あなたが3複を～する, と(いうこと)。

dituzun 《dituzu＜izan に連体修飾語尾 -n が付いた形》あなたが～するところの (3複)。

dizkidazu ＜izan [他助]《直説法現在 NOR-NORI-NORK 活用, NOR＝haiek, NORI＝niri, NORK＝zuk の場合》あなたが私に3複を～する。

dizkidazun 《dizkidazu＜izan に連体形語尾 -n が付いた形》あなたが私に～するところの (3複)。

dizkit ＜izan [他助]《直説法現在 NOR-NORI-NORK 活用, NOR＝haiek, NORI＝niri, NORK＝hark の場合》3単が私に3複を～する。

dizkizudan 《dizkizut＜izan に連体形語尾 -n が付いた形》私があなたに～するところの (3複)。

dizkizut ＜izan [他助]《直説法現在 NOR-NORI-NORK 活用, NOR＝haiek, NORI＝zuri, NORK＝nik の場合》私があなたに3複を～する。

dizudan 《dizut＜izan に連体形語尾 -n が付いた形》私があなたに～するところの (3単)。

dizudana 《dizut＜izan の連体形に定形単数絶対格語尾 -a が付いた形》私があなたに～するところのもの・こと・人(が・を)。

dizuet ＜izan [他助]《直説法現在 NOR-NORI-NORK 活用, NOR＝hura, NORI＝zuei, NORK＝nik の場合》私があなたたちに3単を～する。

dizut ＜izan [他助]《直説法現在 NOR-NORI-NORK 活用, NOR＝hura, NORI＝zuri, NORK＝nik の場合》私があなたに3単を～する。

dudala《dut ＜ izan に名詞節を作る語尾 -la が付いた形》 わたしが3単を～する，と(いうこと)。

dudana《dut ＜ izan に連体形語尾 -n と定形単数絶対格語尾 -a が付いた形》 私が持っているところの3単(が・を)。

dugu ＜ izan [他助]《直説法現在 NOR-NORK 活用，NOR＝hura, NORK＝guk の場合》 私たちが3単を～する。

dut ＜izan《直説法現在 NOR-NORK 活用，NOR＝hura, NORK＝nik の場合》[他助] 私が3単を～する。[他] (単純形) 私が3単を持っている。

duzu ＜ izan《直説法現在 NOR-NORK 活用，NOR＝hura, NORK＝zuk の場合》[他助] あなたが3単を～する。[他] (単純形) あなたが3単を持っている。

—E—

ea [間] さて。さあ。どれどれ。

-ean [接尾] →-(en)ean.

ebaki (ebakitzen, ebakiko) [他] 切断する。

eder [形] 美しい，素晴らしい。

ederra《eder の定形単数絶対格》。

ederki [副] 美しく，素晴らしく。

edo [接続] または。[副] など。～か何か。

egia [名] 本当，真実。

egin (egiten, egingo) [他] ① する。② 作る。③ 本動詞を文の focus とするために助動詞的に添えられる (“強調の egin”)。

eginez《eginに語尾 -ez が付いた形》①しながら。②作りながら。

egitera《egin の -t(z)era 形》① ～しに。② 作りに。

egon (egoten, egongo) [自] ① 存在する。② (一時的な状態) ～である。

egos-i (egosten, egosiko) [他] 煮る。

egun [名] 日。egun batean ある日。

egunetara《egun の不定形方格》 handik hiru egunetara それから三日後に。

ekar-ri (ekartzen, ekarriko) [他] 持って来る，連れて来る。

ekarriz《ekar-ri に語尾 -z が付いた形》 持って来つつ。

ekin (ekiten, ekingo) [他] 開始する，着手する。

-(e)la [接尾] 動詞や助動詞の活用形に付いて名詞節を作る語尾。

elezahar [名] 昔話。

elezaharretako《elezahar の定形複数位置属格》 昔話の。

emaiozu [他]《eman iezaiozu の短縮形》 あなたは3単に3単を与えなさい。

emaizkiozu [他]《eman iezazkiozu の短縮形》 あなたは3単に3複を与えなさい。

emakume [名] 女性。

emakumeen《emakume の定形複数所有属格》 女達の。

emakumeena《emakumeen に定形単数絶対格語尾が付いた形》 女達のもの・こと。

eman (ematen, emango) [他] 与える。

emanda《eman に完了・状態の語尾 -da が付いた形》 emanda ere 与えたとしても。

emanez《eman に語尾 -ez が付いた形》 与えつつ。

-(e)n [接尾] 動詞・助動詞の活用形に付いて連体形を作る語尾。

ene! [間] おや！ まあ！

-(en)ean [接尾] 動詞・助動詞の活用形に付いて時を現す副詞節を作る語尾。

engaina-tu (engainatzen, engainatuko) [他] だます。

entzun (entzuten, entzungo) [他] 聞く。

entzutean《entzun の -t(z)ean 形》 聞いた時，聞く時。

erabaki (erabakitzen, erabakiko) [他] 決める。

erabil-i (erabiltzen, erabiliko) [他] 使う。

erakuts-i (erakusten, erakutsiko) [他] 見せる。
erakutsiz《erakuts-i に語尾 -z が付いた形》見せつつ。
eraman (eramaten, eramango) [他] 持って行く，連れて行く。
erantzun (erantzuten, erantzungo) [他] 答える。
erdi [名/形] 半分。ordu erdi 30分。
ere [接続] 〜も。
erein (ereiten, ereingo) [他] (種子を) 蒔く。
ereintza [名] 種蒔き。
erne (ernetzen, erneko) [自] 芽生える。
erreka [名] 小川。
errekadu [名] お使い。
errekadua《errekadu の定形単数絶対格》お使い(が・を)。
erreten [名] 用水路。
erretenak《erreten の定形複数絶対格》用水路(が・を)。
errukikarri [形] 憐れむべき。
ertze [名] 端。
ertzekoa《ertze の定形単数位置属格 ertzeko に定形単数絶対格語尾が付いた形》端のもの・人(が・を)。
ertzekoak《ertzeko の定形単数能格》端のもの・人が。
esaiguzu [他]《esan iezaguzu の短縮形》あなたは私たちに3単を言いなさい。
esaiozu [他]《esan iezaiozu の短縮形》あなたは3単に3単を言いなさい。
esan (esaten, esango) [他] 言う。所有属格代名詞＋golkorako esan 〜の胸の内で言う。
esanez (esan に語尾 -ez が付いた形) 言いつつ。
esateaz《esan の -t(z)eaz 形》esateaz bat 言うと同時に。
eser [自] eser-i の語根。
eser-i (esertzen, eseriko) [自] 座る。
esker(rak) [名]《通常複数形で用いられる》感謝。謝辞。

esker-tu (eskertzen, eskertuko) [他] 感謝する。
estuasun [名] 危機状態，緊急事態。
estuasuna《estuasun の定形単数絶対格》危機状態(が・を)，緊急事態(が・を)。
eta [接続] ① そして。② 〜と〜。③ (文末で) 〜なので。
eta abar などなど。エトセトラ。
etor [自] etor-ri の語根。
etor-ri (etortzen, etorriko) [自] 来る。gogora etor-ri 思い出す。
etxe [名] 家，家庭。
etxean《etxe の定形単数内格》家で，家に。
etxeko《etxe の定形単数位置属格》① 家の。② 家人。
etxekoa《etxeko ② の定形単数絶対格》家人(が・を)。
etxekoei《etxeko ② の定形複数与格》家人たちに。
etxekoek《etxeko ② の定形複数能格》家人たちが。
etxekoekin《etxeko ② の定形複数共格》家人たちとともに。
etxekoez《etxeko ② の定形複数具格》家人たちについて。
etxera《etxe の定形単数方格》家へ。
etxetik《etxe の定形単数奪格》家から。
etxera-tu (etxeratzen, etxeratuko) 帰宅する。
etxeratzeko《etxera-tu の -t(z)eko 形，形容詞的》家へ帰るべき。
etxe-txoko [名] 居心地のいい我が家。
etxe-txokoaz《etxe-txoko の定形単数具格》我が家について。
etzan (etzaten, etzango) [自] 横たわる。
etzazu ＜izan [他助] ez ezazu の短縮形。
Euskalerria [名] バスク地方。バスク国。
Euskalerriko《Euskalerria の位置属格》バスク地方の。バスク国の。
ez [副] 否定辞。いいえ。ちがう。〜ではない。
ezazu ＜izan [他助]《命令法 NOR-NORK 活用，NOR＝hura,

NORK=zuk の場合の活用形》あなたは3単を~しなさい。

ezetz [副] いいえ，と。ちがう，と。Ezetz+動詞の完了分詞! ~できっこない!

ezik [接続] ~だけでなく。

ezin izan [動] ~できない。

ezkuta-tu (ezkutatzen, ezkutatuko) [自] 隠れる。

ezkutatzera《ezkuta-tu の -t(z)era 形》隠れに。

—F—

falta izan (falta izaten, izango) [自] 欠けている。

farre-zantzu [名] 微かな笑い。笑いたそうな素振り。

—G—

gabe [後]《たいてい分格名詞句とともに》~なしで。presarik gabe 急がずに。besorik gabe 腕なしで。

Gabon! [間] 今晩は。

Gabon Gaua [名] クリスマス・イブ

gainera [副] そのうえ。

gaitezen <izan [自助]《接続法現在 NOR 活用, NOR=gu の場合の活用形》私たちが~するように。~しましょう。

galant [形] 巨大な。

galanta《galant の定形単数絶対格》

galdera [名] 質問。

galde-tu (galdetzen, galdetuko) [他] 尋ねる。

gal-du (galtzen, galduko) [他] 失う。

garbi-tu (garbitzen, garbituko) [他] きれいにする。

garbiturik《garbi-tu に状態を表す語尾 -rik が付いた形》きれいで。きれいな状態で。

gari [名] 麦。

garia《gari の定形単数絶対格》麦(が・を)。

gau [名] 夜。

gaua《gau の定形単数絶対格》夜(が・を)。

gauez《gau の不定形具格》夜間に。

gauza [名] もの，こと。gauza bat bera 同じ一つのもの・こと。

gauzak《gauza の定形複数絶対格》複数のもの・こと(が・を)。

gazte [形] 若い。[名] 若者。

gazteak《gazte の定形単数能格》若い(人)が。

gazteen《gazte の最上級形》最も若い(人)。

gazteena《gazteen の定形単数絶対格》最も若い(人)(が・を)。

gazteenari《gazteen の定形単数与格》最も若い(人)に。

gehiago [副] ①もっとたくさん。②(否定文で)もうこれ以上~ない。

geldiro [副] のろのろと。

geldiro-geldiro 非常にのろく。

gera-tu (geratzen, geratuko) [自] (ある状態に)なる。

gero [副] あとで。動詞の完了分詞+-(e)z gero ~したなら。~した後。

geroago [副] もっとあとで。

geroxeago [副] もう少しあとで。

gerri [名] 腰。

gerritik《gerri の定形単数奪格》腰から。

gerriko [名] 帯。ベルト。

gerrikoa《gerriko の定形単数絶対格》帯(が・を)。

gerrikoarena《gerriko の定形単数所有属格 gerrikoaren に定形単数絶対格語尾 -a が付いた形》帯のこと。

gerrikorik《gerriko の分格形》

gerta-tu (gertatzen, gertatuko) [自] 起こる。

gertaturiko [連] 起こったところの。

gizon [名] 男。
gizona《gizon の定形単数絶対格》男(が・を)。
gizonak《gizon の定形単数能格》男が。
gogo [名] 思い。
gogora《gogo の定形単数方格》思いへ。gogora etor-ri 思い出す。頭に浮かぶ。
gogora-tu (gogoratzen, gogoratuko) [自/他] 思い出す。
goiz [名] 朝。 [副] 朝に。早く。 goizean goiz 朝早く。
goizeko《goiz の定形単数位置属格》朝の。
golda-tu (goldatzen, goldatuko) [他] (土地を) すき返す。耕す。
golko [名] ふところ。 bere golkorako esan 自分(3単)の胸のうちで言う。
gor [形/名] 耳の不自由な(人)。
gorrik《gor の分格形》。
gora [副] 上へ。
gorde (gordetzen, gordeko) しまう。
gordeleku [名] しまい場所, 隠れ場所。
gordelekuetatik《gordeleku の定形複数奪格》隠れ場所から。
gorputz [名] 体。
gorputza《gorputz の定形単数絶対格》体(が・を)。
gosari [名] 朝食。
gosaria《gosari の定形単数絶対格》朝食(が・を)。
guraso(ak) [名] (両)親。
gurasoei《gurasoak の定形複数与格》両親に。
gure [連] 私たちの。くだんの。
guzti [形/代] 全ての(人・もの・こと)。
guztia《guzti の定形単数絶対格》全ての(人・もの・こと)(が・を)。
guztiak《guzti の定形単数能格》全ての(人・もの・こと)が。
guztientzat《guzti の定形複数目的格》全ての(人・もの・こと)にとって。
guztioi《guzti の定形近い複数与格》全ての(人・もの・こと)に。
guztiok《guzti の定形近い複数絶対格・能格》全ての(人・もの・こと)が。

—H—

hain [副] あんなに。 hain zuzen ere つまり。詳しく言えば。
hainbat [連] あんなにたくさんの。
haitzulo [名] 岩穴。
haitzuloa《haitzulo の定形単数絶対格》岩穴(が・を)。
haitzuloan《haitzulo の定形単数内格》岩穴で・に。
haitzulora《haitzulo の定形単数方格》岩穴へ。
hala [副] あのように。
hala ere [副] とは言え。
halako [連] あのような。
halako batetan [副] 突然。
halaxe [副] まさしくあのように。
han [副] ① あそこに・で。 ② そして。やがて。それから。
handi [形] 大きな。
handia《handi の定形単数絶対格》
handiz《handi の不定形具格》
handik [副] ① あそこから。 ② あのときから。 handik laster それから間もなく。
handi-tu (handitzen, handituko) [自] 大きくなる。
hantxe [副] まさしくあそこに・で。
har [他] har-tu の語根。
hara [副] あそこへ。
hara! [間] おや! あら!

harilka-tu (harilkatzen, harilkatuko) [他] 糸を糸巻きに巻き取る。

hark 《3 人称代名詞・指示形容詞 hura の能格形》 [代] あれが。あの人が。[形] あの～が。

harkaitz [名] 岩。

harkaitzezko [連] 岩でできた。

harri [名] 石。

harriotan 《harri の定形近い複数内格》 この複数の石に・で。

harri-tu (harritzen, harrituko) [自] 驚く。

harriturik 驚いて。

harrizko [連] 石でできた。

harro [形] 誇った。得意気な。威張った。

hartatik [形] 《指示形容詞 hura の奪格形》 あの～から。

har-tu (hartzen, hartuko) [他] 取る, 受け取る。

has-i (hasten, hasiko) [自] 始める, 始まる。

hasperen [名] ため息。

hasperenka [副] 息を切らして。喘いで。

hau 《3 人称単数代名詞・指示形容詞絶対格》 [代] これ(が・を)。この人(が・を)。hau da つまり, こうです。[形] この～(が・を)。

hauek 《3 人称複数代名詞・指示形容詞絶対格および能格》 [代] これら(が・を)。この人たち(が・を)。[形] これらの～(が・を)。

hauetako 《hauek の位置属格》 これらの～の。

hazi [名] 種子。

hazia 《hazi の定形単数絶対格》 種子(が・を)。

hegazti [名] 鳥。

hegaztienak 《hegazti の定形複数所有属格 hegaztien に定形複数絶対格語尾が付いた形》 鳥たちのもの・こと(が・を)。

hel-du (heltzen, helduko) [自] ① 着く, 到来する。② 熟す。

hemen [副] ここで・に。

hementxe [副] まさしくここで・に。

herren [形/名] 足の不自由な(人)。

herrenik 《herren の分格》

herri [名] 村, 町, 地域, 地方, 国。

herria 《herri の定形単数絶対格》

hil (hiltzen, hilgo/hilko) [他] 殺す。

hilabete [名] 一か月。

hiru [数] 3。

historia [名] ① 歴史。② 物語。

historiari 《historia の定形単数与格》 ① 歴史に。② 物語に。

hitz [名] 言葉。

hitzok 《hitz の定形近い複数絶対格》 これらの言葉(が・を)。

hitzegin (hitzegiten, hitzegingo) [他] 話す。

hitzegiteko 《hitzegin の -t(z)eko 形, 形容詞的》 話すための。

hitzegitera 《hitzegin の -t(z)era 形》 話しに。

hona [副] ここへ。

honako [連] このような。

honela [副] このように。

honelako [連] このような。

honen 《hau の所有属格》 この～の。この人の, これの。

honetatik 《hau の奪格》 [代] この～から。

hori 《3 人称単数代名詞・指示形容詞絶対格》 [代] それ(が・を)。その人(が・を)。[形] その～(が・を)。

horiek 《3 人称複数代名詞・指示形容詞絶対格および能格》 [形] それらの～(が・を)。[代] それら(が・を)。その人たち(が・を)。

horratio [接続] それにもかかわらず。それでも。

horrelako [連] そのような。

horrelakorik《horrelako の分格》(否定文で) そのようなことは少しも～ない。
horren《hori の所有属格》その～の。それの。その人の。
horretan《hori の内格》その～において。
horretantxe《horretan の強調形》まさにその～において。
horretatik《hori の奪格》その～から。
horri《hori の与格》その～に。それに。その人に。
hots [名] 音。
hura《3人称単数代名詞・指示形容詞絶対格》[形] あの(が・を)。[代] あれ・あの人(が・を)。hura bai, poza! あれこそ喜びと言うものだ!
hurbil [形] 近い。[副] 近くに。
hurbil-du (hurbiltzen, hurbilduko) [自] 近づく。
hurrengo [連] 次の。hurrengo egunean 翌日に。
hurrengoan [副] 次に。この次に。

—I—

ia [副] ほとんど。
ia-ia [副] あやうく，すんでのところで。
ibai [名] 川。
ibaietan《ibai の定形複数内格》複数の川において。
ibil-i (ibiltzen, ibiliko) ① 歩く。② 過ごす。
iezaguzu ＜izan [他助]《命令法 NOR-NORI-NORK 活用, NOR=hura, NORI=guri, NORK=zuk の場合》あなたは私たちに3単を～しなさい。
iezaiozu ＜izan [他助]《命令法 NOR-NORI-NORK 活用, NOR=hura, NORI=hari, NORK=zuk の場合》あなたは3単に3単を～しなさい。
iezazkiozu ＜izan [他助]《命令法 NOR-NORI-NORK 活用,

NOR=haiek, NORI=hari, NORK=zuk の場合》あなたは3単に3複を～しなさい。
igaro (igarotzen, igaroko) [他] ① (時を) 過ごす。② (場所を) 通る。[自] ① (時が) 過ぎる。② (場所を) 通る。
igarotzerakoan《igaro の -t(z)erakoan 形》通るときに。通る直前に。
ihes [副] 逃げて。
ihes egin [他] 逃げる。
ikara [名] 恐怖。
ikaratan《ikara の不定形内格》恐怖の中で。怯えて。
ikaragarri [形] 物凄い。恐ろしい。
ikaragarrizko [連] 物凄い。
ikaraldi [名] 恐ろしいひととき。
ikara-tu (ikaratzen, ikaratuko) [自] 怯える。怖がる。
ikaraturik《ikara-tu に状態を表す語尾 -rik が付いた形》怯えて。
ikus-i (ikusten, ikusiko) [他] 見る。
ikustean《ikus-i の -t(z)ean 形》見るとき。見たとき。
ilun-du (iluntzen, ilunduko) [他] 日が暮れる。
iluntzean《ilun-du の -t(z)ean 形》日暮れ時に。
indar [名] 力。
indartsu [形] 力強い。
indartsuagoa《indartsu の比較級の定形単数絶対格》より力強い～(が・を)。
Indusi [固名] インドゥシ。
inguru [名] 周囲，周辺。
inguruetako《inguru の定形複数位置属格》複数の周辺の。
inguruetara《inguru の定形複数方格》複数の周辺へ。
ingurura《inguru の定形単数方格，時を表す語句とともに》だいたい～。ordu erdi ingurura 30分ぐらい。

inoiz [副] ①《疑問文で》一度でも。かつて。②《否定文で》一度も～ない。
inolako [連]《否定文で》どんな～もない。
intxaurrondo [名] 胡桃の木。
intxaurrondoa 《intxaurrondo の定形単数絶対格》 胡桃の木(が・を)。
intxaurrondoari 《intxaurrondo の定形単数与格》胡桃の木に。
iraun (irauten, iraungo) [他] 続く。持続する。
irits-i (iristen, iritsiko) [自] 到着する。
irrika [名] 渇望。
irrikaz 《irrika の不定形具格》渇望しつつ。 **jakiteko irrika** 知りたいという熱望。
irten (irteten, irtengo) [自] 出る。
irtenez 《irten に語尾 -ez が付いた形》出ながら。
irun (iruten, irungo) [他] 紡ぐ。
isil [名] 静かな。
isilik 静かな状態で。
itsasandere [名] 人魚。
itsasandereak 《itsasandere の定形複数絶対格》人魚たち(が・を)。
itsasneska [名] 人魚。
itsasneskak 《itsasneska の定形複数絶対格》人魚たち(が・を)。
itsu [形/名] 目の見えない(人)。
itsurik 《itsu の分格》
itsusi [形] 醜い。
itsusia 《itsusi の定形単数絶対格》醜い～(が・を)。
Iturriondobeti [固名] (農家の名) イトゥリオンドベティ。
Iturriondobetiar [形/名] イトゥリオンドベティの(人)。
itxaron (itxaroten, itxarongo) [他] 待つ。
itxura [名] 見かけ。外見。

itzazu ＜izan [他助]《命令法 NOR-NORK 活用, NOR＝haiek, NORK＝zuk の場合》あなたは3複を～しなさい。
izan [自] ①～である。②存在する。[他] 持つ。[助] 自動詞に付いて NOR, NOR-NORI 活用, 他動詞に付いて NOR-NORK, NOR-NORI-NORK 活用をする。
izateko 《izan の -t(z)eko 形, 目的》～であるように。
izan ere [副] それというのも。それもそのはず。
izara [名] シーツ。
izen [名] 名前。
izena 《izen の定形単数絶対格》名前(が・を)。
izeneko 《izen の定形単数位置属格, 固有名詞を直前に伴って》～という名の。
izerdi [名] 汗。
izerditan 《izerdi の不定形内格》汗をかいて。
izerdi-patsetan [副] 汗だくで。
izu-tu (izutzen, izutuko) [自] 怯える。ぞっとする。
izuturik 《izu-tu＋状態を表す語尾 -rik》ぞっとして。怯えて。

—J—

jai [名] 祭り。休日。
jaiak 《jai の定形複数絶対格》複数の祭り(が・を)。
jaiki (jaikitzen, jaikiko) [自] 起き上がる, 立ち上がる。
jakin (jakiten, jakingo) [他] 知る, 知っている。
jakiteko 《jakin の -t(z)eko 形, 形容詞的》知るための, 知るべき。
jan (jaten, jango) [他] 食べる。
janez 《jan に語尾 -ez が付いた形》食べつつ。
jantz-i (jazten, jantziko) [他] 着る。身に着ける。
jantzi [名] 衣服。着る物。

jantzietan《jantzi の定形複数内格》複数の衣服において。
jarrai-tu (jarraitzen, jarraituko) [他] 続ける。
jar-ri (jartzen, jarriko) [他] ある状態におく。
jaso (jasotzen, jasoko) [他] 片付ける。
jasotzera《jaso の -t(z)era 形》片付けに。
jaurti (jaurtitzen, jaurtiko) [他] 放る，投げる。
jaurtitzeko《jaurti の -t(z)eko 形，形容詞的》放るための。放ろうという。
jentil [名] 異教徒。クリスト教徒でない者。魔物。Jentil Zubi 魔物の橋。
jo (jotzen, joko) [他] 打つ。(音を) 放つ。
joan (joaten, joango) [自] 行く。
joatea《joan の -t(z)ea 形》行くこと。
joateko《joan の -t(z)eko 形，命令》行くように。
joka-tu (jokatzen, jokatuko) [他] 賭ける。
jorra-tu (jorratzen, jorratuko) [他] 雑草を取る。

—K—

kalte [名] 被害，ダメージ。
kalterik《kalte の分格；否定辞とともに》少しの被害も～ない。
kalte egin [他] 被害を与える。
kanpo [後]《奪格形の語句とともに》～の外において。
karda-tu (kardatzen, kardatuko) [他] (繊維を) けばだたせる。
kasu [名] 注意，留意，配慮。
kasurik《kasu の分格；否定辞とともに》少しの配慮も～ない。
kasu egin [他] 気に留める。
ke [名] 煙。
ketan《ke の不定形内格》煙の中において。

kezka [名] 心配，不安。
kiskal-i (kiskaltzen, kiskaliko) [自] 焼け焦げる。
kiskalita《kiskal-i に完了を表す語尾 -ta が付いた形》焼け焦げてしまって。
kondaira [名] 伝説，説話，物語。
kondairazale [形/名] 物語好きな(人)。
konta-tu (kontatzen, kontatuko) [他] 語る。
kontatzeko《konta-tu の -t(z)eko 形，命令》語るように。
korrika [副] 走って。
kukurruku [名] コケコッコー。
kukurrukua《kukurruku の定形単数絶対格》
kuttun [名] お守り。

—L—

-la [接尾] →-(e)la
lagun [名] 友だち，仲間。
lagunari《lagun の定形単数与格》友だちに。
lagunek《lagun の定形複数能格》複数の友だちが。
lagunekin《lagun の定形複数共格》複数の友だちとともに。
lagunen《lagun の定形複数所有属格》複数の友だちの。
lagunetariko 複数の友だちのうちの。
lamia [名] ラミア。
lamiak ①《lamia の定形単数能格》ラミアが。②《lamia の定形複数絶対格》ラミアたち(が・を)。
lamiarekin《lamia の定形単数共格》ラミアとともに。
lamiaren《lamia の定形単数所有属格》ラミアの。
lamiari《lamia の定形単数与格》ラミアに。
lamiek《lamia の定形複数能格》ラミアたちが。
lamina → lamia

laminez《lamina の定形複数具格》ラミアについて。
lan [名] 仕事，作業。
lana《lan の定形単数絶対格》作業(が・を)。
lanok《lan の定形近い複数絶対格》これらの作業(が・を)。
landare [名] 植物。
landarea《landare の定形単数絶対格》植物(が・を)。
landaretxo [名] 小さな植物。
lan-du (lantzen, landuko) [他] (土地を) 耕す。耕作する。
larre [名] 牧草地。
larrera《larre の定形単数方格》牧草地へ。
lasaitasun [名] 落ち着き，平穏さ。
laster [副] 間もなく。動詞の完了分詞＋eta laster ～してすぐに。
lasterka [副] 大急ぎで。
lasterrean [副] 駆け足で。凄い勢いで。
lehen [副] 以前。動詞の完了分詞＋baino lehen ～する前に。
lehenik [副] まず。第一に。
lehor-tu (lehortzen, lehortuko) [自] 乾く。[他] 乾かす。
lehortzeko《lehor-tu の -t(z)eko 形，目的》乾くように。
Lekeitio [固名] レケイティオ。
Lekeition《Lekeitio の内格》レケイティオにおいて。
leku [名] 場所。
lekuan《leku の定形単数内格》場所において。
lepo [名] 首。
lepoan《lepo の定形単数内格》首において。
leze [名] 洞穴。
lezean《leze の定形単数内格》洞穴において。
lezearen《leze の定形単数所有属格》洞穴の。
leze-zulo [名] 洞穴。
leze-zuloa《leze-zulo の定形単数絶対格》洞穴(が・を)。

leze-zulora《leze-zulo の定形単数方格》洞穴へ。
liho [名] 亜麻。
lihoa《liho の定形単数絶対格》亜麻(が・を)。
lihoaren《liho の定形単数所有属格》亜麻の。
lihoaz《liho の定形単数具格》亜麻について。
lot-u (lotzen, lotuko) [他] 結び付ける。
lotzera《lot-u の -t(z)era 形》結び付けに。
lur [名] 土地，大地。
lurra《lur の定形単数絶対格》土地(が・を)。
lurrari《lur の定形単数与格》土地に。
lurrean《lur の定形単数内格》土地において。
luza-tu (luzatzen, luzatuko) [他] 延ばす。
luzatzeko《luza-tu の -t(z)eko 形，目的》延ばすために。
luze [形] 長い。[副] 長く。
luze-luze 長々と。

—M—

madarika-tu (madarikatzen, madarikatuko) [他] 呪う。
madarikazio [名] 呪い，呪いの言葉。
madarikazioa《madarikazio の定形単数絶対格》呪い(が・を)。
mahai [名] テーブル。
maite [名] 愛する人。
maitea《maite の定形単数絶対格》愛する人(が・を)。
maiteaz《maite の定形単数具格》愛する人について。
makila [名] 棒。
mantxu [形/名] 片腕の(人)。
mantxua《mantxu の定形単数絶対格》片腕の(人)(が・を)。
mantxurik《mantxu の分格》
memela [形/名] 馬鹿な(女)。軽はずみな(女)。

mendi [名] 山。
mendietan《mendi の定形複数内格》山々において。
mihise [名] 麻。
mihisea《mihise の定形単数絶対格》麻(が･を)。
min [名] 痛み。
minez《min の不定形具格》痛みでもって。
modu [名] 方法，状態。 zer moduz? どの様に。
moduko《modu の定形単数位置属格；動詞の -t(z)eko 形を直前に伴って》～するべき。～するに値する。
multzo [名] 塊。群れ。 urre multzo 金の塊。
mundu [名] 世界。
munduko《mundu の定形単数位置属格》世界の。
mutil [名] 少年，青年。
mutilak《mutil の定形単数能格》青年が。
mutilarekin《mutil の定形単数共格》青年とともに。
mutilari《mutil の定形単数与格》青年に。
mutilek《mutil の定形複数能格》青年たちが。

—N—

nago ＜egon [自]《直説法現在 NOR 活用単純形，NOR＝ni の場合》私がいる。
nahi [名] 望み。 nahi adina 欲しいだけ。
nahi izan [他] ① ～がほしい。 ②《動詞の完了分詞を伴って》～したい。
nahikoa [連] 充分な。
naiz ＜izan《直説法現在 NOR 活用，NOR＝ni の場合》[自助] 私は～する。 [自] (単純形) 私は～だ。
naizela《naiz ＜izan に名詞節を作る語尾 -ela が付いた形》[自助] 私が～すると(いうこと)。 [自] (単純形) 私が～だと(いうこと)。

nauzu ＜izan [他助]《直説法現在 NOR-NORK 活用 NOR＝ni, NORK＝zuk の場合》あなたが私を～する。
nauzun [他助]《nauzu ＜izan に間接疑問文での名詞節を作る語尾 -n が付いた形》
nekien ＜jakin [他]《直説法過去 NOR-NORK 活用，NOR＝hura, NORK＝nik の場合》わたしは3単を知っていた。
neska [名] 少女。
neu《ni の強調形》この私こそ(が･を)。
neuk《nik の強調形》この私こそが。
neure《nire の強調形》この私の。
ni《1人称単数代名詞絶対格》私(が･を)。
nik《1人称単数代名詞能格》私が。
niola [他助]《nion ＜izan に名詞節を作る語尾 -la が付いた形》私が3単に3単を～した，と(いうこと)。
nion ＜izan [他助]《直説法過去 NOR-NORI-NORK 活用，NOR＝hura, NORI＝hari, NORK＝nik の場合》私が3単に3単を～した。
nire [連]《1人称単数代名詞所有属格》私の。
nirekin《1人称単数代名詞共格》私とともに。
niretzat《1人称単数代名詞目的格》私のために。
niri《1人称単数代名詞与格》私に。
noiz [副] いつ。 noiz edo noiz そのうち急に。
nola [副] どの様に。
nora [副] どこへ。
norbait [代] 誰か。
nuke ＜izan [他助]《条件法帰結現在 NOR-NORK 活用，NOR＝hura, NORK＝nik の場合》私は3単を～するだろう。

—O—

ohar-tu (ohartzen, ohartuko) [自] 気が付く。
ohe [名] ベッド。
ohean《ohe の定形単数内格》ベッドにおいて。
oihuka [副] 叫んで。
oilar [名] おんどり。
oilarrak《oilar の定形単数能格》おんどりが。
oin [名] 足。
oinak《oin の定形複数絶対格》複数の足(が・を)。
omen [小]《伝聞を表す》〜だそうだ。
on [形] 良い。
ondo [名] そば，横。
ondoan《ondo の定形単数内格；不定形絶対格または所有属格の名詞(句)を直前に伴い》〜の側において。
ondoren [副] 次に。[接続]《動詞の完了分詞＋》〜したあと。
ongi [副] 良い。 Ongi da！ いいとも！
ongi-etorri [名] 歓迎。
ongi-etorriaren《ongi-etorri の定形単数所有属格》歓迎の。
orain [名/副] 今。《時を表す語を後ろに伴い》今から〜前。**orain** aspaldi 今からかなり前。
oraindik [副] まだ。
oraintxe [副] 今すぐ。たった今。
ordea [接続] しかし。
ordu [名] 時間。時刻。 ordu erdi 30分。
ordua《ordu の定形単数絶対格》時間(が・を)。
orduan [副] その時。
ordurarte [名/副] その時まで。
orrika [名] やっとこ。
oso [副] とても。[形] 全〜。〜全体。

osoa《oso の定形単数絶対格》全〜(が・を)。
ospa-tu (ospatzen, ospatuko) [他] 祝う。
oste [名] 後。
ostean《oste の定形単数内格》〜の後に・で。

—P—

pasa (pasatzen, pasako) [自] (時が) 過ぎる，(出来事が) 起こる。[他] (時を) 過ごす。
pasaturik 過ぎて。
pasaraz-i (pasarazten, pasaraziko) [他] (時を) 過ごさせる。
patxada [名] 平穏，のんき。
pentsakizun [名] 考えごと。
pentsakizunetan《pentsakizun の不定形内格》考えごとにおいて。
pentsa-tu (pentsatzen, pentsatuko) [他] 考える。
pertsonaia [名] 登場人物，キャラクター。
polit [形] きれいな，可愛い。
politagoa《polit の比較級 politago の定形単数絶対格》
poz [名] 喜び。
poza《poz の定形単数絶対格》喜び(が・を)。
pozez《poz の不定形具格》喜んで。
presa [名] 緊急，急ぎ。
presarik《presa の分格》presarik gabe 急がずに。
presaz《presa の不定形具格》急いで。

—S—

saltoka [副] 跳び跳ねながら。
samur [形] 柔らかい。

samur-samur とても柔らかい。
sar [自] sar-tu の語根。
sar-tu (sartzen, sartuko) [自] 入る。
seme-alaba(k) [名] 息子と娘たち。
silueta [名] シルエット。
simaur-tu (simaurtzen, simaurtuko) [他] 肥料を与える。
soldadu [名] 兵士。
soldaduzka [名] 兵役。
soldaduzkara 《soldaduzka の定形単数方格》 兵役へ。
sorgin [名] 魔女, 魔法使い。
sorginez (sorgin の定形複数具格》 魔女について。
soro [名] 畑。
soroan 《soro の定形単数内格》 畑において。
su-gar [名] 炎。
su-garretan 《su-gar の不定形内格》 炎の中において。
suge [名] 蛇。
sugea 《suge の定形単数絶対格》 蛇(が・を)。
sugeari 《suge の定形単数与格》 蛇に。
sugetzar [名] 大蛇。

—T—

tentsio [名] 緊張。
triste-tu (tristetzen, tristetuko) [自] 悲しくなる。
trumoi [名] 雷鳴。
ttiki [形] 小さい。
ttikienaz 《ttiki の最上級 ttikien の定形単数具格》 最も小さい～で。
txiki [形] 小さい。
txikienak 《txiki の最上級 txikien の定形単数能格》 最も小さい～が。

txispa [名] 火花。

—U—

ugari [形] 大量の。
ur [名] 水。 ur ondoan 水辺に。
ura 《ur の定形単数絶対格》 水(が・を)。
uretan 《ur の不定形内格》 水の中において。
urre [名] 黄金。
urrea 《urre の定形単数絶対格》 黄金(が・を)。
urrearena 《urre の定形単数所有属格 urrearen に定形単数絶対格語尾が付いた形》 黄金のこと。
Urrekoatxa [固名] ウレコアチャ。
urrun-du (urruntzen, urrunduko) [自] 遠ざかる。
urruti [副] 遠くに。 [名] 遠く。
urrutira 《urruti [名] の定形単数方格》 遠くへ。
uste [名] 考え。
ustez 《uste の不定形具格, 所有属格名詞(句)を直前に伴って》 ～の考えでは。～が思うに。
utz [他] utz-i の語根。
utz-i (uzten, utziko) [他] ① ある状態にする。 ② 置く。
utzita 《utz-i に完了・状態を表す語尾 -ta が付いた形》 置いた状態で。
utziozu [他] utz iezaiozu の短縮形。

—X—

xahar [形] 非常に年老いた。
xaharrak 《xahar の定形単数能格》 非常に年老いた～が。

—Z—

zabal-du (zabaltzen, zabalduko) [自] 広がる。[他] 広げる。

zabaldurik《zabal-du に状態を表す語尾 -rik が付いた形》広がって。

zahar [形] 年長の。

zaharren《zahar の最上級》最も年長の。

zaharrena《zaharren の定形単数絶対格》最も年長の～(が･を)。長男(が･を)。

zaharrenak《zaharren の定形単数能格》最も年長の～が。長男が。

zaie ＜izan [自助]《直説法現在 NOR-NORI 活用, NOR＝hura, NORI＝haiei の場合》3単が3複に～する。

zain-du (zaintzen, zainduko) [他] 世話する。

zaitut ＜izan [他助]《直説法現在 NOR-NORK 活用, NOR＝zu, NORK＝nik の場合》私があなたを～する。

zaituztet ＜izan [他助]《直説法現在 NOR-NORK 活用, NOR＝zuek, NORK＝nik の場合》私があなたたちを～する。

zapa! [間] シッ!

zara ＜izan《直説法現在 NOR 活用, NOR＝zu の場合》[自助] あなたが～する。[自] (単純形) あなたは～だ。

zarata [名] 騒音, 雑音。

zatar [形] 汚い。

zati [名] 片。

zatoz ＜etor-ri [自]《直説法現在および命令法 NOR 活用単純形, NOR＝zu の場合》あなたは来つつある。あなたは来なさい。

zaude ＜egon [自]《直説法現在 NOR 活用単純形, NOR＝zu の場合》あなたはいる。あなたは(ある状態)である。

zazpi [数] 7。

zebilela《zebilen＜ibil-i に名詞節を作る語尾 -la が付いた形》3単が歩いている, と(いうこと)。

zebilen ＜ibil-i [自]《直説法過去 NOR 活用単純形, NOR＝hura の場合》3単が歩いていた。

zegoela [自]《zegoen＜egon に時を表す副詞節を作る語尾 -la が付いた形》3単がいるその時に。

zegoen ＜egon [自]《直説法過去 NOR 活用単純形, NOR＝hura の場合》3単はいた。3単は(ある状態)だった。

zegoena《zegoen＜egon に定形単数絶対格語尾 -a が付いた形》(ある状態)だった3単(が･を)。

zeharo [副] 全く。完全に。

zeha-tu (zehatzen, zehatuko) [他] 叩きつぶす。

zein [副] なんて。Zein＋動詞・助動詞の活用形 -(e)n! なんて～なのだろう!

zekien ＜jakin [他]《直説法過去 NOR-NORK 活用単純形, NOR＝hura, NORK＝hark の場合》3単は3単を知っていた。

zela《zen＜izan に名詞節を作る語尾 -la が付いた形》

zen ＜izan《直説法過去 NOR 活用, NOR＝hura の場合》[自助] 3単が～した。[自] (単純形) 3単が～だった。

zenak《zen＜izan に定形単数能格語尾 -ak が付いた形》[自助] ～した3単が。[自] ～だった3単が。

zenean《zen＜izan に時を表す副詞節を作る語尾 -ean が付いた形》[自助] 3単が～した時。[自] (単純形) 3単が～だった時。

zenidan ＜izan [他助]《直説法過去 NOR-NORI-NORK 活用, NOR＝hura, NORI＝niri, NORK＝zuk の場合》あなたが私に3単を～した。

zeniola《zenion＜izan に名詞節を作る語尾 -la が付いた形》あなたが3単に3単を～したと(いうこと)。

zenion ＜izan [他助]《直説法過去 NOR-NORI-NORK 活用, NOR=hura, NORI=hari, NORK=zuk の場合》あなたが3単に3単を～した。

zer [代] 何。

zera [名] 物。

zerbait [代] 何か。

zergatik [副] なぜ。

zer moduz [副] どの様に。

zertarako [副] 何のために。

zeta [名] 絹。

zetazko [連] 絹製の。

zeu [代]《zu の強調形》まさにあなたこそ(が・を)。

zeundeten ＜egon [自]《直説法過去 NOR 活用単純形, NOR=zuek の場合。また連体形でもある》あなたたちがいた(～)。

zeuretzat《zuretzat の強調形》ほかならぬあなたのために。

zien ＜izan [他助]《直説法過去 NOR-NORI-NORK 活用, NOR=hura, NORI=haiei, NORK=hark の場合》3単が3複に3単を～した。

zieten ＜izan [他助]《直説法過去 NOR-NORI-NORK 活用, NOR=hura, NORI=haiei, NORK=haiek の場合》3複が3複に3単を～した。

zinatekeen ＜izan《条件法帰結過去 NOR 活用, NOR=zu の場合》[自助] あなたは～しただろうに。[自] (単純形) あなたは～だったろうに。

zioen ＜esan [他]《直説法過去 NOR-NORK 活用単純形, NOR=hura, NORK=hark の場合》3単が言っ(てい)た。

ziola《zion に名詞節を作る語尾 -la が付いた形》

zion ＜izan [他助]《直説法過去 NOR-NORI-NORK 活用, NOR=hura, NORI=hari, NORK=hark の場合》3単が3単に3単を～した。

zioten ＜izan [他助]《直説法過去 NOR-NORI-NORK 活用, NOR=hura, NORI=hari, NORK=haiek の場合》3複が3単に3単を～した。

ziotenean《zioten＜izan に時を表す副詞節を作る語尾 -ean が付いた形》3複が3単に3単を～した時に。

ziplo! [間] ドロン! [副] 突然。

ziren ＜izan《直説法過去 NOR 活用, NOR=haiek の場合》[自助] 3複が～した。[自] (単純形) 3複が～だった。

zirenean《ziren＜izan に時を表す副詞節を作る語尾 -ean が付いた形》[自助] 3複が～した時。[自] (単純形) 3複が～だったとき。

zituen ＜izan《直説法過去 NOR-NORK 活用, NOR=haiek, NORK=hark の場合》[他助] 3単が3複を～した。[他] (単純形) 3単が3複を持っていた。

zituzten ＜izan《直説法過去 NOR-NORK 活用, NOR=haiek, NORK=haiek の場合》[他助] 3複が3複を～した。[他] (単純形) 3複が3複を持っていた。

zitzaien ＜izan [自助]《直説法過去 NOR-NORI 活用, NOR=hura, NORI=haiei の場合》3単が3複に～した。

zitzaion ＜izan [自助]《直説法過去 NOR-NORI 過去, NOR=hura, NORI=hari の場合》3単が3単に～した。

zitzaiona《zitzaion に定形単数絶対格語尾が付いた形》3単に～したところの3単(が・を)。

zu《2人称単数敬称代名詞絶対格》あなた(が・を)。

zubi [名] 橋。

zuela《zuen[1]＜izan に名詞節を作る語尾 -la が付いた形》

zuen[1] ＜izan《直説法過去 NOR-NORK 活用, NOR=hura, NORK=hark の場合》[他助] 3単が3単を～した。[他] (単純形) 3単が3単を持っていた。

zuen[2] [連] あなたたちの。

zuenak 《zuen¹ < izan に定形単数能格語尾が付いた形》[他助] 3単が～したところの3単が。[他] 3単が持っていたところの3単が。

zuenean 《zuen¹ < izan に時を表す副詞節を作る語尾 -ean が付いた形》[他助] 3単が3単を～した時に。[他] (単純形) 3単が3単を持っていた時に。

zuk 《2人称単数敬称代名詞能格》あなたが。

zulo [名] 穴。

zulorantz 《zulo の定形単数方向格》穴の方へ。

zur [名] 木材。

zuretzat 《2人称単数敬称代名詞目的格》あなたのために。

zurezko [連] 木製の。

zuri 《2人称単数敬称代名詞与格》あなたに。

zuten < izan 《直説法過去 NOR-NORK 活用, NOR=hura, NORK=haiek の場合》[他助] 3複が3単を～した。[他] (単純形) 3複が3単を持っていた。

zutenez 《zuten < izan [他助] に語尾 -(e)z が付いた形》3複が3単を～したところによると。

zuzen [副] 真っ直ぐに。**zuzen-zuzen** どこまでも真っ直ぐに。

目録進呈　落丁本・乱丁本はお取替えいたします。

平成6年8月10日　© 第1版発行

バスクの伝説

訳注者　吉田浩美

発行者　佐藤政人

発行所
株式会社　大学書林

東京都文京区小石川4丁目7番4号
振替口座　00120-8-43740
電話 (03) 3812-6281～3番
郵便番号　112

ISBN 4-475-02433-1　　佃欧友社・牧製本